

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄	備考							
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	がっくおんけん けつりんがくえん 学校法人 杏林学園								
フリガナ大学の名称	けつりんがくえんがくがくがくえん 杏林大学大学院 (Kyorin Graduate School)								
大学本部の位置	東京都三鷹市新川六丁目20番2号								
大学の目的	大学院は、大学建学の精神に則り、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、優れた研究者及び高度専門職業人を養成することにより、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	医学研究科は、科学的な問題解決能力を備える臨床医、旺盛な創造性を持つ基礎医学・生命科学の研究者、社会医学に貢献する有為な人材等豊かな人間性と倫理観・使命感にあふれる医療人の養成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	医学研究科 (Graduate School of Medicine) 医学専攻 (Doctoral Course of Medicine) 計	年 4 4	人 25 25	年次人 - -	人 100 100	博士 (医学) (Doctor of Philosophy in Medical Science)	年 月 第 年次 令和4年4月 第1年次	東京都三鷹市 新川六丁目20番2号	【基礎となる学部】 医学部医学科 大学院設置基準第14条による教育方法の特例実施
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>保健学部 健康福祉学科 (70) (令和3年3月認可申請)</p> <p>外国語学部 中国語学科〔定員増〕 (2) 〔3年次編入学定員減〕 (△3) 観光交流文化学科〔3年次編入学定員減〕 (△1)</p> <p>総合政策学部 総合政策学科〔3年次編入学定員増〕 (1) 企業経営学科〔3年次編入学定員減〕 (△1)</p> <p>医学研究科 (D) 生理系専攻 (廃止) 令和4年4月学生募集停止 (△4) 病理系専攻 (廃止) 令和4年4月学生募集停止 (△3) 社会医学系専攻 (廃止) 令和4年4月学生募集停止 (△3) 内科系専攻 (廃止) 令和4年4月学生募集停止 (△12) 外科系専攻 (廃止) 令和4年4月学生募集停止 (△12)</p> <p>国際協力研究科 国際開発専攻 (M)〔定員減〕 (△4) 国際医療協力専攻 (M)〔定員減〕 (△2) グローバル・コミュニケーション専攻 (M)〔定員減〕 (△14) 開発問題専攻 (D)〔定員減〕 (△5)</p> <p>保健学研究科 臨床心理学専攻 (M) (25) (令和3年6月設置届出) 看護学専攻 (M)〔定員減〕 (△5) 看護学専攻 (D)〔定員減〕 (△1)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学研究科 医学専攻	講義	演習	実験・実習	計				
		48科目	1科目	92科目	141科目	30単位			

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		令和3年6月届出予定
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新設			人	人	人	人	人	人	人	
分	医学研究科 医学専攻 (博士課程)		59 (70)	31 (31)	49 (49)	6 (6)	145 (156)	() ()	1 (1)	
	保健学研究科 臨床心理学専攻 (博士前期課程)		4 (4)	3 (3)	7 (7)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	23 (23)	
計			63 (74)	34 (34)	56 (56)	6 (6)	159 (170)	0 (0)	- (-)	
既設	保健学研究科 保健学専攻 (博士前期課程)		36 (36)	21 (21)	15 (15)	0 (0)	72 (72)	0 (0)	6 (6)	
	保健学研究科 看護学専攻 (博士前期課程)		14 (14)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	21 (21)	
	保健学研究科 保健学専攻 (博士後期課程)		38 (38)	15 (15)	3 (3)	0 (0)	56 (56)	0 (0)	1 (1)	
	保健学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)		12 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)	
	国際協力研究科 国際開発専攻 (博士前期課程)		14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	21 (21)	
	国際協力研究科 国際医療協力専攻 (博士前期課程)		5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	38 (38)	
	国際協力研究科 グローバル・コミュニケーション専攻 (博士前期課程)		11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	30 (30)	
	国際協力研究科 開発問題専攻 (博士後期課程)		20 (20)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	2 (2)	
計			150 (150)	55 (55)	22 (22)	0 (0)	227 (227)	0 (0)	- (-)	
合計			213 (224)	89 (89)	78 (78)	6 (6)	386 (397)	0 (0)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		291 人 (291)		309 人 (309)		600 人 (600)			
	技 術 職 員		1830 (1830)		126 (126)		1956 (1956)			
	図 書 館 専 門 職 員		11 (11)		0 (0)		11 (11)			
	そ の 他 の 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)			
	計			2134 (2134)		435 (435)		2569 (2569)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	221,276.82 m ²	0 m ²		0 m ²		221,276.82 m ²			
	運 動 場 用 地	14,570.00 m ²	0 m ²		0 m ²		14,570.00 m ²			
	小 計	235,846.82 m ²	0 m ²		0 m ²		235,846.82 m ²			
	そ の 他	2,301.09 m ²	0 m ²		0 m ²		2,301.09 m ²			
	合 計	238,147.91 m ²	0 m ²		0 m ²		238,147.91 m ²			
校 舎	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計				
	120,390.62 m ² (120,390.62 m ²)	0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		120,390.62 m ² (120,390.62 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設				
	99 室	111 室	62 室	6 室 (補助職員 0人)		3 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		医学研究科 医学専攻			215 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	医学研究科医学専攻	447,900 [158,951] (426,700 [157,751])	14,813 [12,265] (14,813 [12,265])	13,650 [12,172] (13,650 [12,172])	10,852 (10,852)	34,134 (34,134)	473 (473)			
	計	447,900 [158,951] (426,700 [157,751])	14,813 [12,265] (14,813 [12,265])	13,650 [12,172] (13,650 [12,172])	10,852 (10,852)	34,134 (34,134)	473 (473)			

図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体	
		6,898.3 m ²		808		463,056			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		5148.20 m ²		野球場、テニスコート、弓道場、アーチェリー練習場					
経費の見積り 及び 維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単体での算出不能なため、学部との合計。 図書費は学部との合計。電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
	教員1人当り研究費等	538千円	538千円	538千円	538千円	538千円	—	—	
	共同研究費等	1,400千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	—	—	
	図書購入費	169,137千円	184,491千円	201,380千円	219,958千円	240,394千円	—	—	
	設備購入費	500,000千円	300,000千円	300,000千円	300,000千円	300,000千円	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	医学研究科	1,050千円	600千円	600千円	600千円	—千円	—千円		
	保健学研究科 保健学専攻	950千円	500千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
	保健学研究科 看護学専攻	1,250千円	800千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
	保健学研究科 臨床心理学専攻	950千円	500千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
国際協力研究科	900千円	450千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金収入、手数料収入等を充当する。						
大学の名称		杏林大学							
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
医学部							1.0		
医学科		6	115	—	698	学士(医学)	1.0	昭和45年度	東京都三鷹市新川六丁目20番2号
保健学部							1.03		
臨床検査技術学科		4	120	—	480	学士(保健衛生学)	1.01	昭和54年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号
健康福祉学科		4	50	—	200	学士(保健衛生学)	1.05	昭和54年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号
看護学科			150		600		1.02		
看護学専攻		4	(100)	—	(400)	学士(看護学)	0.98	平成6年度	東京都三鷹市新川六丁目20番2号
看護養護教育学専攻		4	(50)	—	(200)	学士(看護学)	1.10	平成24年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号
臨床工学科		4	60	—	240	学士(臨床工学)	1.04	平成18年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号
救急救命学科		4	50	—	200	学士(救急救命学)	1.10	平成19年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号
理学療法学科		4	56	—	224	学士(理学療法学)	1.07	平成21年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号
作業療法学科		4	54	—	216	学士(作業療法学)	1.11	平成23年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号
診療放射線技術学科		4	66	—	264	学士(診療放射線学)	1.05	平成25年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号
臨床心理学科		4	80	—	320	学士(臨床心理学)	0.96	平成30年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号
総合政策学部							1.06		
総合政策学科		4	150	第3年次3	606	学士(総合政策学)	1.05	昭和59年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号 東京都八王子市宮下町476
企業経営学科		4	80	第3年次3	326	学士(企業経営学)	1.08	平成18年度	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号 東京都八王子市宮下町476

既設大学等の状況	外国語学部						1. 06		
	英語学科	4	130	第3年次 4	528	学士 (文学)	1. 05	昭和63年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号
	中国語学科	4	30	第3年次 5	130	学士 (中国語コミュニケーション学)	1. 19	平成23年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号
	観光交流文化学科	4	90	第3年次 3	366	学士 (観光交流文化学)	1. 03	平成22年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号
	医学研究科 (博士課程)	4	34	—	136	博士 (医学)	0. 37	昭和51年度	東京都三鷹市新川 六丁目20番2号
	保健学研究科 (博士前期課程)						0. 89		
	保健学専攻	2	7	—	14	修士 (保健学)	1. 49	昭和59年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号
	看護学専攻	2	7	—	14	修士 (看護学)	0. 28	平成20年度	東京都三鷹市新川六丁目20番 2号 東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号
	保健学研究科 (博士後期課程)						0. 83		
	保健学専攻	3	4	—	12	博士 (保健学)	1. 08	昭和61年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号
	看護学専攻	3	2	—	6	博士 (看護学)	0. 33	平成22年度	東京都三鷹市新川六丁目20番 2号
	国際協力研究科 (博士前期課程)						0. 26		
	国際開発専攻	2	10	—	20	修士 (開発学)	0. 40	平成5年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号
国際医療協力専攻	2	6	—	12	修士 (国際医療協 力)	0. 24	平成16年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号 東京都三鷹市新川六丁目20番 2号	
グローバル・コミュニ ケーション専攻	2	24	—	48	修士 (学術)	0. 20	平成31年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号	
国際協力研究科 (博士後期課程)						0. 30			
開発問題専攻	3	10	—	30	博士 (学術)	0. 30	平成7年度	東京都三鷹市下連雀 五丁目4番1号	
附属施設の概要	<p>名称：杏林大学医学部附属病院 目的：診療、教育、研究 所在地：東京都三鷹市新川六丁目20番2号 設置年月：昭和45年8月 規模等：土地27,857.65㎡、建物117,651.16㎡、病床数1,153床</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(医学研究科医学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（主科目・副科目）	脳神経内科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	脳神経内科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	脳神経内科学 課題研究	3通		8				○	1					
	呼吸器内科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	呼吸器内科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	呼吸器内科学 課題研究	3通		8				○	1	1				
	腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	腎臓・リウマチ膠原病内科学 課題研究	3通		8				○	1	1				
	循環器内科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	循環器内科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	循環器内科学 課題研究	3通		8				○	2	1				
	血液内科学 講義・演習	1前		4		○				1				
	血液内科学 実験・実習	2通		4				○		1				
	血液内科学 課題研究	3通		8				○		1				
	糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	糖尿病・内分泌・代謝内科学 課題研究	3通		8				○	1					
	消化器内科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	消化器内科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	消化器内科学 課題研究	3通		8				○	1	1				
	腫瘍内科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	腫瘍内科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	腫瘍内科学 課題研究	3通		8				○	1					
	高齢医学 講義・演習	1前		4		○			1					
	高齢医学 実験・実習	2通		4				○	1					
	高齢医学 課題研究	3通		8				○	1	1				
	精神神経科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	精神神経科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	精神神経科学 課題研究	3通		8				○	1					
	小児科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	小児科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	小児科学 課題研究	3通		8				○	1	2				
	消化器・一般外科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	消化器・一般外科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	消化器・一般外科学 課題研究	3通		8				○	3	1				
	呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習	1前		4		○				1				
	呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習	2通		4				○		1				
	呼吸器・甲状腺外科学 課題研究	3通		8				○		1				
	乳腺外科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	乳腺外科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	乳腺外科学 課題研究	3通		8				○	1					
	小児外科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	小児外科学 実験・実習	2通		4				○	1					
	小児外科学 課題研究	3通		8				○	1					
救急医学 講義・演習	1前		4		○			2						

専門科目（主科目・副科目）	救急医学 実験・実習	2通	4			○	2												
	救急医学 課題研究	3通	8			○	2												
	脳神経外科学 講義・演習	1前	4		○		1												
	脳神経外科学 実験・実習	2通	4			○	1												
	脳神経外科学 課題研究	3通	8			○	1	1											
	心臓血管外科学 講義・演習	1前	4		○		1												
	心臓血管外科学 実験・実習	2通	4			○	1												
	心臓血管外科学 課題研究	3通	8			○	2	1											
	整形外科 講義・演習	1前	4		○		1												
	整形外科 実験・実習	2通	4			○	1												
	整形外科 課題研究	3通	8			○	2	1											
	皮膚科学 講義・演習	1前	4		○		1												
	皮膚科学 実験・実習	2通	4			○	1												
	皮膚科学 課題研究	3通	8			○	1												
	形成外科学 講義・演習	1前	4		○		1												
	形成外科学 実験・実習	2通	4			○	1												
	形成外科学 課題研究	3通	8			○	3												
	泌尿器科学 講義・演習	1前	4		○		1												
	泌尿器科学 実験・実習	2通	4			○	1	1											
	泌尿器科学 課題研究	3通	8			○	1												
	眼科学 講義・演習	1前	4		○		1												
	眼科学 実験・実習	2通	4			○	1												
	眼科学 課題研究	3通	8			○	4	2											
	耳鼻咽喉科学 講義・演習	1前	4		○		1												
	耳鼻咽喉科学 実験・実習	2通	4			○	1												
	耳鼻咽喉科学 課題研究	3通	8			○	1	2											
	産科婦人科学 講義・演習	1前	4		○		1												
	産科婦人科学 実験・実習	2通	4			○	1												
	産科婦人科学 課題研究	3通	8			○	2	2											
	放射線医学 講義・演習	1前	4		○		1												
	放射線医学 実験・実習	2通	4			○	1												
	放射線医学 課題研究	3通	8			○	1	1											
	放射線腫瘍学 講義・演習	1前	4		○		1												
	放射線腫瘍学 実験・実習	2通	4			○	1												
	放射線腫瘍学 課題研究	3通	8			○	2												
	麻酔科学 講義・演習	1前	4		○		1												
	麻酔科学 実験・実習	2通	4			○	1												
	麻酔科学 課題研究	3通	8			○	2	2											
	臨床検査医学 講義・演習	1前	4		○		1												
	臨床検査医学 実験・実習	2通	4			○	1												
	臨床検査医学 課題研究	3通	8			○	1												
	総合医療学 講義・演習	1前	4		○		1												
	総合医療学 実験・実習	2通	4			○	2												
	総合医療学 課題研究	3通	8			○	4	1											
	リハビリテーション医学 講義・演習	1前	4		○		1												
	リハビリテーション医学 実験・実習	2通	4			○	1												
	リハビリテーション医学 課題研究	3通	8			○	1												
	脳卒中医学 講義・演習	1前	4		○		1												
	脳卒中医学 実験・実習	2通	4			○	1												
	脳卒中医学 課題研究	3通	8			○	1	1											
	肉眼解剖学 講義・演習	1前	4		○		1												
	肉眼解剖学 実験・実習	2通	4			○	1												
	肉眼解剖学 課題研究	3通	8			○	1												
	顕微解剖学 講義・演習	1前	4		○			1											
	顕微解剖学 実験・実習	2通	4			○		1											
	顕微解剖学 課題研究	3通	8			○		1											
統合生理学 講義・演習	1前	4		○			1												

- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
(医学研究科生理系専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	器官構築学分野	肉眼解剖学 講義・演習	1前	4		○		○	1						
		肉眼解剖学 実験・実習	2通	8				○	1	1					
		顕微解剖学 講義・演習	1前	4		○			1						
		顕微解剖学 実験・実習	2通	8				○	1						
		ゲノム・遺伝学 講義・演習	1前	4		○			1		2				
		ゲノム・遺伝学 実験・実習	2通	8				○	1		2				
		器官構築学 課題研究	3通	8					3						
		器官構築学 研究論文演習	4通	4				○	3						
	小計(8科目)	—	12	36			—	3	1	2					
	病態生化学分野	分子細胞生物学 講義・演習	1前		4		○		○	1			1		
		分子細胞生物学 実験・実習	2通		8				○	1					
		代謝生化学 講義・演習	1前		4		○			1		1			
		代謝生化学 実験・実習	2通		8				○	1					
		分子機能生化学 講義・演習	1前		4		○			1		2			
		分子機能生化学 実験・実習	2通		8				○	1					
		病態生化学 課題研究	3通	8					○	3					
		病態生化学 研究論文演習	4通	4				○	3						
	小計(8科目)	—	12	36			—	3		4					
	生体機能制御学分野	病態生理学 講義・演習	1前		4		○		○	1				1	
		病態生理学 実験・実習	2通		8				○	1			1		
		統合生理学 講義・演習	1前		4		○			1					
		統合生理学 実験・実習	2通		8				○	1					
		生体物理学 講義・演習	1前		4		○				2				
		生体物理学 実験・実習	2通		8				○		2				
		生体機能制御学 課題研究	3通	8					○	2	2				
		生体機能制御学 研究論文演習	4通	4				○	2	2					
	小計(8科目)	—	12	36			—	2	2			1			
	分子細胞薬理	分子細胞薬理学 講義・演習	1前		4		○		○	1					
分子細胞薬理学 実験・実習		2通		8				○	1						
分子細胞薬理学 課題研究		3通	8					○	1						
分子細胞薬理学 研究論文演習		4通	4				○	1							
小計(4科目)	—	12	12			—	1								
通専科攻目共	基礎臨床共通講義Ⅰ	1通	4			○			5	1	2	2			
	基礎臨床共通講義Ⅱ	1通	2			○			2		2	3			
	小計(2科目)	—	6			—			7	1	4	5			
合計(30科目)		—	54	120			—		9	3	7	5			
学位又は称号	博士(医学)			学位又は学科の分野				医学							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
当該専門分野の授業科目を主科目、専門分野外の授業科目および専攻共通科目(基礎臨床共通講義)を副科目とし、主科目のうち専門分野共通科目(課題研究、研究論文演習)12単位および副科目のうち基礎臨床共通講義6単位を含めた30単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査および最終審査に合格すること。								1 学年の学期区分				2期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専

門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要														
(医学研究科病理系専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	病理学分野	病理学 講義・演習	1前	4			○			2		3		
		病理学 実験・実習	2通	8					○	2				
		病理学 課題研究	3通	8					○	2				
		病理学 研究論文演習	4通	4				○		2				
		小計(4科目)	—	12	12			—		2		3		
	感染症・熱帯病学分野	感染症・熱帯病学 講義・演習	1前	4			○			3				
		感染症・熱帯病学 実験・実習	2通	8					○	3				
		感染症・熱帯病学 課題研究	3通	8					○	3				
		感染症・熱帯病学 研究論文演習	4通	4				○		3				
		小計(4科目)	—	12	12			—		3				
	臨床検査医学分野	臨床検査医学 講義・演習	1前	4			○			2				
		臨床検査医学 実験・実習	2通	8					○	2				
臨床検査医学 課題研究		3通	8					○	2					
臨床検査医学 研究論文演習		4通	4				○		2					
小計(4科目)		—	12	12			—		2					
通専科攻目共	基礎臨床共通講義Ⅰ	1通	4			○			1		1			
	基礎臨床共通講義Ⅱ	1通	2			○								
	小計(2科目)	—	6			—			1		1			
合計(14科目)			—	42	36			—	7		3			
学位又は称号	博士(医学)		学位又は学科の分野				医学							
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
当該専門分野の授業科目を主科目、専門分野外の授業科目および専攻共通科目(基礎臨床共通講義)を副科目とし、主科目のうち専門分野共通科目(課題研究、研究論文演習)12単位および副科目のうち基礎臨床共通講義6単位を含めた30単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査および最終審査に合格すること。								1 学年の学期区分			2期			
								1 学期の授業期間			15週			
								1 時限の授業時間			90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
(医学研究科社会医学系専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	社会医療情報学	社会医療情報学 講義・演習	1前	4			○			2	1	1			
		社会医療情報学 実験・実習	2通	8					○	2					
		社会医療情報学 課題研究	3通	8					○	2					
		社会医療情報学 研究論文演習	4通	4					○	2					
		小計(4科目)	—	12	12			—	—	2	1	1	1		
	法科学分野	法科学 講義・演習	1前	4			○			1	1	1	3		
		法科学 実験・実習	2通	8					○	1					
		法科学 課題研究	3通	8					○	1					
		法科学 研究論文演習	4通	4					○	1					
		小計(4科目)	—	12	12			—	—	1	1	2	2		
専攻共通	基礎臨床共通講義Ⅰ	1通	4			○			2						
	基礎臨床共通講義Ⅱ	1通	2			○				1					
	小計(2科目)	—	6			—		—	2	1					
合計(10科目)			—	30	24			—	3	2	2	3			
学位又は称号	博士(医学)			学位又は学科の分野				医学							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
当該専門分野の授業科目を主科目、専門分野外の授業科目および専攻共通科目(基礎臨床共通講義)を副科目とし、主科目のうち専門分野共通科目(課題研究、研究論文演習)12単位および副科目のうち基礎臨床共通講義6単位を含めた30単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査および最終審査に合格すること。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要														
(医学研究科内科系専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
内科学分野	呼吸器内科学 講義・演習	1前		4	1	○		○	1	1				
	呼吸器内科学 実験・実習	2通		8				○	1					
	神経内科学 講義・演習	1前		4		○		○	2		1	3		
	神経内科学 実験・実習	2通		8				○	1					
	腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習	1前		4		○		○	2	1	2			
	腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習	2通		8				○	2					
	循環器内科学 講義・演習	1前		4		○		○	3	1				
	循環器内科学 実験・実習	2通		8				○	3					
	血液内科学 講義・演習	1前		4		○		○	1					
	血液内科学 実験・実習	2通		8				○	1					
	消化器内科学 講義・演習	1前		4		○		○	2	1	1	4		
	消化器内科学 実験・実習	2通		8				○	1					
	糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習	1前		4		○		○	1					
	糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習	2通		8				○	1					
	腫瘍内科学 講義・演習	1前		4		○		○	2					
	腫瘍内科学 実験・実習	2通		8				○	2					
	内科学 課題研究	3通	8					○	14	4				
	内科学 研究論文演習	4通	4					○	14	4				
小計 (18科目)	—	—	12	96			—	14	4	4	7			
専門科目	脳卒中医学 講義・演習	1前		4		○		○	1					
	脳卒中医学 実験・実習	2通		8				○	1					
	脳卒中医学 課題研究	3通	8					○	1					
	脳卒中医学 研究論文演習	4通	4					○	1					
	小計 (4科目)	—	—	12	12			—	1					
加齢医学分野	加齢医学 講義・演習	1前		4		○		○	1	1				
	加齢医学 実験・実習	2通		8				○	1					
	加齢医学 課題研究	3通	8					○	1					
	加齢医学 研究論文演習	4通	4					○	1					
	小計 (4科目)	—	—	12	12			—	1	1				
総合医療学分野	総合医療学 講義・演習	1前		4		○		○	3	1				
	総合医療学 実験・実習	2通		8				○	3	1				
	総合医療学 課題研究	3通	8					○	3					
	総合医療学 研究論文演習	4通	4					○	3					
	小計 (4科目)	—	—	12	12			—	3	1				
小児科学分野	小児科学 講義・演習	1前		4		○		○	1	2				
	小児科学 実験・実習	2通		8				○	1					
	小児科学 課題研究	3通	8					○	1					
	小児科学 研究論文演習	4通	4					○	1					
	小計 (4科目)	—	—	12	12			—	1	2				
精神神経科学分野	精神神経科学 講義・演習	1前		4		○		○	1		1	2		
	精神神経科学 実験・実習	2通		8				○	1					
	精神神経科学 課題研究	3通	8					○	1					
	精神神経科学 研究論文演習	4通	4					○	1					
	小計 (4科目)	—	—	12	12			—	1		1	2		

専門科目	皮膚科学分野	皮膚科学 講義・演習	1前		4		○		○	2				
		皮膚科学 実験・実習	2通		8				○	2				
		皮膚科学 課題研究	3通	8					○	2				
		皮膚科学 研究論文演習	4通	4				○		2				
		小計 (4科目)	—	12	12			—		2				
	放射線医学分野	放射線医学 講義・演習	1前		4		○		○	3	1			
		放射線医学 実験・実習	2通		8				○	3				
		放射線医学 課題研究	3通	8					○	3				
		放射線医学 研究論文演習	4通	4				○		3				
		小計 (4科目)	—	12	12			—		3	1			
通専科攻目共	基礎臨床共通講義Ⅰ	1通	4			○			4	1				
	基礎臨床共通講義Ⅱ	1通	2			○				3	1	6		
	小計 (2科目)	—	12			—			4	4	1	6		
合計 (48科目)			—	102	180			—	26	9	5	13		
又は称号		博士 (医学)			学位又は学科の分野			医学						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
当該専門分野の授業科目を主科目、専門分野外の授業科目および専攻共通科目 (基礎臨床共通講義) を副科目とし、主科目のうち専門分野共通科目 (課題研究、研究論文演習) 12単位および副科目のうち基礎臨床共通講義6単位を含めた30単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査および最終審査に合格すること。								1 学年の学期区分			2期			
								1 学期の授業期間			15週			
								1 時限の授業時間			90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要														
(医学研究科外科系専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
外科学分野	消化器・一般外科学 講義・演習	1前		4		○			3	1				
	消化器・一般外科学 実験・実習	2通		8				○	3					
	呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習	1前		4		○			2	1		2		
	呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習	2通		8				○	2					
	乳腺外科学 講義・演習	1前		4		○			1					
	乳腺外科学 実験・実習	2通		8				○	1					
	外科学 課題研究	3通	8					○	6					
	外科学 研究論文演習	4通	4					○	6					
	小計（8科目）	—	—	12	36			—	6	2		2		
	救急医学分野	救急医学 講義・演習	1前		4		○			2				
救急医学 実験・実習		2通		8				○	2					
救急医学 課題研究		3通	8					○	2					
救急医学 研究論文演習		4通	4					○	2					
小計（4科目）		—	—	12	12			—	2					
整形外科分野	整形外科 講義・演習	1前		4		○			2	1	1			
	整形外科 実験・実習	2通		8				○	2					
	リハビリテーション医学 講義・演習	1前		4		○			1		1			
	リハビリテーション医学 実験・実習	2通		8				○	1					
	整形外科 課題研究	3通	8					○	3					
	整形外科 研究論文演習	4通	4					○	3					
小計（6科目）	—	—	12	24			—	3	1	2				
脳神経外科学分野	脳神経外科学 講義・演習	1前		4		○			3	1	1	1		
	脳神経外科学 実験・実習	2通		8				○	3					
	脳神経外科学 課題研究	3通	8					○	3					
	脳神経外科学 研究論文演習	4通	4					○	3					
	小計（4科目）	—	—	12	12			—	3	1	1	1		
心臓血管外科分野	心臓血管外科学 講義・演習	1前		4		○			3	1				
	心臓血管外科学 実験・実習	2通		8				○	3					
	心臓血管外科学 課題研究	3通	8					○	3					
	心臓血管外科学 研究論文演習	4通	4					○	3					
	小計（4科目）	—	—	12	12			—	3	1				
産科婦人科学分野	産科婦人科学 講義・演習	1前		4		○			2					
	産科婦人科学 実験・実習	2通		8				○	2					
	産科婦人科学 課題研究	3通	8					○	2					
	産科婦人科学 研究論文演習	4通	4					○	2					
	小計（4科目）	—	—	12	12			—	2					
眼科学分野	眼科学 講義・演習	1前		4		○			5					
	眼科学 実験・実習	2通		8				○	5					
	眼科学 課題研究	3通	8					○	5					
	眼科学 研究論文演習	4通	4					○	5					
	小計（4科目）	—	—	12	12			—	5					
耳鼻咽喉科学分野	耳鼻咽喉科学 講義・演習	1前		4		○			1	2				
	耳鼻咽喉科学 実験・実習	2通		8				○	1					
	耳鼻咽喉科学 課題研究	3通	8					○	1					
	耳鼻咽喉科学 研究論文演習	4通	4					○	1					
	小計（4科目）	—	—	12	12			—	1	2				

専門科目	泌尿器科学分野	泌尿器科学 講義・演習	1前		4		○			1	1		2	
		泌尿器科学 実験・実習	2通		8				○	1				
		泌尿器科学 課題研究	3通	8					○	1				
		泌尿器科学 研究論文演習	4通	4					○	1				
		小計 (4科目)	—	12	12			—		1	1			2
	麻酔科学分野	麻酔科学 講義・演習	1前		4		○			3	2			
		麻酔科学 実験・実習	2通		8				○	3				
		麻酔科学 課題研究	3通	8					○	3				
		麻酔科学 研究論文演習	4通	4					○	3				
		小計 (4科目)	—	12	12			—		3	2			
	小児外科学分野	小児外科学 講義・演習	1前		4		○			1				
		小児外科学 実験・実習	2通		8				○	1				
		小児外科学 課題研究	3通	8					○	1				
		小児外科学 研究論文演習	4通	4					○	1				
		小計 (4科目)	—	12	12			—		1				
	形成外科学分野	形成外科学 講義・演習	1前		4		○			3				2
		形成外科学 実験・実習	2通		8				○	3				
		形成外科学 課題研究	3通	8					○	3				
		形成外科学 研究論文演習	4通	4					○	3				
		小計 (4科目)	—	12	12			—		3				2
通専科攻目共	基礎臨床共通講義Ⅰ	1通	4			○			2					
	基礎臨床共通講義Ⅱ	1通	2			○			1	2	1	2		
	小計 (2科目)	—	6			—			3	2	1	2		
合計 (56科目)			—	150	180			—	33	10	4	9		
学位又は称号		博士 (医学)			学位又は学科の分野			医学						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
当該専門分野の授業科目を主科目、専門分野外の授業科目および専攻共通科目 (基礎臨床共通講義) を副科目とし、主科目のうち専門分野共通科目 (課題研究、研究論文演習) 12単位および副科目のうち基礎臨床共通講義6単位を含めた30単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査および最終審査に合格すること。								1 学年の学期区分			2期			
								1 学期の授業期間			15週			
								1 時限の授業時間			90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（主科目・副科目）	脳神経内科学 講義・演習	神経内科専門医としてふさわしい臨床神経学領域の診察方法や検査方法等の知識を修得するとともに、脳神経系の機能と異常について最新の知見も含め理解することを目標とする。 神経内科臨床症例の病態に関する検討を通して、その症例において解明されるべき問題点を明らかにする。 また、脳神経内科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。	
	脳神経内科学 実験・実習	神経内科専門医としてふさわしい臨床神経学の実務能力を臨床実習を通じて修得する。神経生化学・免疫学の基本的実験法を修得するとともに、神経内科病棟・外来での実習を通じて、各臨床症例について、神経解剖学・生理学・生化学・病理学的見地からその病態を深く掘り下げ、その根本を理解したうえで、治療を実践する。	
	脳神経内科学 課題研究	講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として脳神経内科学分野に関する研究を行う。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	
	呼吸器内科学 講義・演習	呼吸器病学は、腫瘍学、感染症学、免疫学など幅広い領域の知見の上に成立している。したがって、こうした知見を集学的に修得し、呼吸器病の病態解析、発症機序など基礎的なメカニズムを理解するとともに、新たな研究テーマを見出す契機とする。臨床医として日本呼吸器学会呼吸器専門医レベルで呼吸器病の診察を遂行することが出来る能力の獲得を目標とする。 また、呼吸器内科学各分野に関する標準的総説および最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。	
	呼吸器内科学 実験・実習	豊かな人間性、幅広い学識、高い倫理観を身につけ、広い見地に立った研究を遂行できるよう、呼吸器内科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになる。以下学習内容とする。 ・腫瘍学、感染症学、免疫学などの基礎的知見については、実験系を用いた解析を行うための手技等を修得する。 ・臨床症例については、実習を通じてEBMに基づいた診察を個々の呼吸器病症例について指導し、日本呼吸器学会呼吸器専門医として必要な症例の集積、および解析、診療手技を修得する。 ・微生物学、免疫学、薬理学などの基本的知見については、実験系を用いた解析を行うための手技等を修得する。臨床症例については実習を通じてEBMに基づいた診察をできるようにする。 ・呼吸器病学の診療に必要な手技である呼吸器内視鏡、人工呼吸器管理、非侵襲的呼吸管理、呼吸機能検査、アストグラフ、微生物検査、画像解析などにつき、日本呼吸器学会呼吸器専門医レベルで要求される水準の内容を指導する。	
	呼吸器内科学 課題研究	講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として呼吸器内科学分野に関する研究を行う。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	

専 門 科 目 （ 主 科 目 ・ 副 科 目 ）	腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習	腎臓・リウマチ膠原病内科学領域の各疾患について、鑑別判断法、各種血液浄化法手技、治療法に関する知識を修得する。まずは、腎臓の構造、生理、薬理、病理について理解する。次に、さまざまな一次性的ないし二次性の腎疾患の病態に即した治療方法や透析・移植を含めた腎代替療法について理解を深める。また、リウマチ性疾患に関して、免疫学、病理学、生化学側面から学び、薬物療法、外科療法、リハビリテーション法について治療が行えるように理解を深める。さらにアレルギーの各病型を理解しそれぞれに属する疾患とその発症機序、診断症状、治療法について理解を深め、各病型に沿った治療法を選択できるようにする。 また、腎臓・リウマチ膠原病内科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。	
	腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習	腎臓・リウマチ膠原病学において必要とされる診断、検査、治療法等について以下の実習を通じて専門知識と技能を修得する。 1. 腎生検組織について学び、標本作成、染色、記録の手法を修得する。 2. 腎生検の手技を修得する。 3. 食事療法、薬物療法、血液透析、腹膜透析、血漿交換、吸着療法を含む各種血液浄化療法の手技を修得する。 4. リウマチ性疾患を臨床実習において広く経験し鑑別診断法を身につける。 5. 生物学的製剤の使用法、血漿交換療法、免疫吸着療法等について学び、診療を遂行する能力を身につける。	
	腎臓・リウマチ膠原病内科学 課題研究	講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として腎臓・リウマチ膠原病内科学分野に関する研究を行う。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	
	循環器内科学 講義・演習	循環器内科学において必要とされる以下の事項について最新の知識と技能を修得することを目的とする。 1. 循環器疾患の診断に至る診断法および治療法（非侵襲的治療法に加え、カテーテル手技を含む侵襲的治療法）を修得する。 2. 心臓血管外科領域、心-臓器連関を踏まえた他領域疾患の知識を修得する。 3. 診療を継続しながら、最新のevidence-based medicineを講義を通して修得する。 また、循環器内科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。	
	循環器内科学 実験・実習	広い見地に立った研究を遂行できるよう、実習を通じて循環器内科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになることを目標とする。以下到達目標とする。 1. 循環器疾患の診断にいたる診察法および検査法に精通し、薬物療法を含む非侵襲的治療法およびカテーテル手技を含む侵襲的治療法をより深く理解し、修得する。 2. 最新の検査法・診断法を自ら理解し習熟する能力を持つ。 3. 循環器領域の基本検査である心電図のとり方と読み方をマスターする。	
	循環器内科学 課題研究	講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として循環器内科学分野に関する研究を行う。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	
	血液内科学 講義・演習	広い見地に立った研究を遂行できるよう、血液内科学において必要とされる専門知識と技能を培う。以下を到達目標とする。 1. 血液疾患の正しい診療技術を修得する。 2. 抗腫瘍薬の使用法を修得する。 3. 血液疾患に併存する合併症に対するマネージメントを修得する。 4. 造血幹細胞移植の方法を理解する。 5. 造血器腫瘍患者の治療方針をEBMIに基づいて適切に説明できる。 また、血液内科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。	

専門科目 (主科目・副科目)	血液内科学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、血液内科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになることを目標とする。以下到達目標として実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液疾患の正しい診断技術を修得する。 2. 造血幹細胞移植の方法を修得する。 3. 造血器腫瘍患者の治療方針を、EBMに基づいて適切に選択できるようにする。 4. 治療方針を様々なエビデンスに基づいて理論的に整理して説明できる。 5. 治療成績を統計的に解析する方法を修得する。 	
	血液内科学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として血液内科学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習	<p>糖尿病・内分泌・代謝疾患の病態の理解や診断・治療への応用に必要な、基礎・臨床・研究の基盤となる知識の修得を目指す。</p> <p>糖尿病についてはインスリン分泌不全と抵抗性の基礎を解説する。具体的には膵β細胞の発現・分化、インスリン分泌機構、およびインスリン作用の分子機構、それらの糖尿病における障害のメカニズムなどを解説する。さらに、これらを統合して、遺伝因子と環境因子についても解説する。</p> <p>また内分泌疾患の理解の基礎となる、恒常性の維持の概念、ホルモン産生・分泌・作用の分子機構を、ペプチド性ホルモンとステロイドホルモンに分けて解説し、過剰および欠損（不足）による疾患の病態について学ぶ。</p>	
	糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習	<p>ホルモンの産生・分泌・作用に関わる分子機構およびその促進因子・阻害因子について、培養細胞株などを用いて、解析の方法を学ぶ。特にインスリンについては、膵β細胞株や肝・脂肪組織の培養細胞などを用いて、インスリン分泌やその基盤となる細胞内シグナルの変化、インスリン投与後のシグナル伝達、糖のとりこみ亢進、糖新生抑制、グリコーゲン合成などの解析手法を学ぶ。</p>	
	糖尿病・内分泌・代謝内科学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技能等を踏まえ、臨床における問題点も意識しながら、糖尿病・内分泌・代謝疾患の病態の解明や診断治療法の開発に資するテーマを各自で立案し、培養細胞やモデル動物を用いた解析や、患者さん由来の生体試料を用いた測定などにより検証する。同時に、糖尿病・内分泌・代謝疾患の病態の理解に必要な内容を総復習する。</p> <p>以下到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	消化器内科学 講義・演習	<p>消化器病にかかわるクリニカルクエストを解明するために必要な、仮説を立て、それを解き明かしていく能力を修得するための基礎として、消化器病学に関する幅広い知識を得る授業内容とする。まずは消化器臓器の解剖、生理機能について学習する。次に、消化管、肝臓、胆道・膵臓の各疾患の臨床および病態生理について最新の知見も含めて理解する。</p> <p>また、消化器内科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。</p>	
	消化器内科学 実験・実習	<p>消化器病にかかわるクリニカルクエストを解明するための研究の方法論、実験技術を理解、実践する授業内容とする。課題研究を行うために必要なベンチワーク、バイオインフォマティクス、統計解析を学習し、自身で実施することができるよう、繰り返し実験・学習を行う。</p>	
	消化器内科学 課題研究	<p>消化器病にかかわる原著論文を含む最新の知見を自身で吟味、疑問点を抽出した上で、疑問点に関する適切な情報の収集と分析を行い、研究仮説を立てて、それを明らかにするための研究計画を実施する授業内容とする。以下到達目標とし、講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術を発揮する場であるとともに、より高度な医学研究者としての素養を修得する機会とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	

腫瘍内科学 講義・演習	腫瘍内科学の基礎知識を修得し、臨床研究の倫理や基本的な知識を得る目的で、腫瘍内科学の一般的事項、臨床医学研究の倫理およびがん診療における臨床試験の基礎を中心に講義を行う。 腫瘍内科の診療およびカンファレンスを通じて、がん診療、がん薬物療法に関する基礎的な知識や治療をどのように選択していくかを理解する。 消化器がん、肺がん、希少がん、原発不明がんを中心にがん診療に対する全体像を把握し、適切な医療を提供する能力を修得する。 実際に行っている臨床試験に分担として参加する。	
腫瘍内科学 実験・実習	以下の内容について臨床実習を行い、がん診療の経験を積み重ねることを目標とする。 1. 消化器がんの治療選択と薬物療法 食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆道がん、膵がん、神経内分泌腫瘍、消化管間質腫瘍など、消化器がんの治療選択および薬物療法について標準治療と最新の治療開発を理解する。 2. 肺がんの治療選択と薬物療法 原発性肺がんの治療選択および薬物療法について標準治療と最新の治療開発を理解する。 3. 希少がん、原発不明がんの薬物療法 希少がんおよび原発不明がんの治療選択および薬物療法について標準治療と最新の治療開発を理解する。	
腫瘍内科学 課題研究	講義・演習および実習で修得した知識・技術等を活用し、以下の分野について、各自が立案した研究計画に基づき研究を行う。 ・がん薬物療法に関する前向きな臨床研究 ・高齢がん患者に対する適切な治療選択に関する研究 ・バイオマーカーを用いた新規がん治療に関する研究 ・がん薬物療法に関連するメカニズムを解明するための基礎的研究 ・症状緩和に関する研究 また、以下到達目標とする。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	
高齢医学 講義・演習	高齢医学研究を実施するための基礎知識として以下に挙げる一般的な知識と技能を培うことを目標とする。 1. 人体諸臓器における加齢変化の理解。 2. 高齢者の疾病像「非典型的な病状、治療に対する反応性など」の理解と対応。 3. 多臓器疾患に起因する老年病の総合的評価とその対応。 4. 医療、福祉、看護のチームケアシステムの理解と臨床的实践。 5. 高齢者の終末医療の多面的理解。 また高齢医学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。	
高齢医学 実験・実習	研究を遂行できるよう、1年次に得た高齢医学の一般的知識の上に、実習を通じて以下の必要な専門知識と技能を培い、適切なデータの収集と分析ができるようになることを目標とする。 1. 老年症候群（認知症、せん妄、嚥下障害、転倒、失禁など）の概念の理解と対策。 2. 加齢性筋肉減少症（サルコペニア）、フレイル（虚弱）の概念、定義、病態の理解。 3. 統計学の学習と解析の実践。	
高齢医学 課題研究	講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として高齢医学分野に関する研究を行う。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	
精神神経科学 講義・演習	広い見地に立った研究を遂行できるよう、精神神経科学において必要とされる専門知識と技能を培うべく、診断や治療についての系統的講義を行う。 到達目標は、以下の通りである。精神疾患全般の歴史とそこから培われた定義や診断基準について理解すること、精神症状を把握するための方法を獲得し症状評価を行えるようになること、精神疾患の発症機序についての知識を得ること、精神障害の治療に関して薬物療法・身体療法・精神療法を修得すること、正常心理を理解し精神医学における異常心理との対比をとらえること、患者の認知・行動・生理学的身体反応についての知識を得ること、社会的環境による精神の影響を理解すること、精神医学に頻用される統計学的手法について学習することなどである。	

専門科目 (主科目・副科目)	精神神経科学 実験・実習	広い見地に立った研究を遂行できるように、精神神経科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになることを基本方針とする。 到達目標としては、外来、病棟の臨床実習において、診断方法・検査、治療、またその治療過程を学ぶこと、診断方法、画像の読影、適切な問診方法を修得することである。 なお、具体的な学習内容は、研究テーマにより決定する。	
	精神神経科学 課題研究	講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として精神神経科学分野に関する研究を行う。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	
	小児科学 講義・演習	小児の特性を理解した上で、以下に挙げる様々な疾患の機序や治療法などの知識を修得する。 1. 腎疾患増悪の共通機序である腎硬化の発生病態と、それを救済する治療の薬理作用機序を、分子生物学的かつ蛋白化学的手法により理解する。 2. 周産期脳障害の機序を理解する。特に、脳室周囲白質軟化症や先天性サイトメガロ感染における感染や炎症による脳障害について理解する。 3. 新生児が子宮内環境から子宮外環境に適応するプロセスと、新生児の解剖学的・生理学的特徴を理解する。 4. 小児の循環器系の発達、出生前後の変化を理解する。先天性心疾患、特に左右・右左短絡を有する心疾患の病態生理、症状、診断と治療を理解する。 5. 小児の血液腫瘍の薬剤感受性を反映する臨床上的の特性を理解する。 6. 小児期の発育・発達の有り様がヒトの一生を左右するものであることを理解することにより、疾患の理解・治療のみならず小児保健の重要性を研究活動に生かす。	
	小児科学 実験・実習	研究対象とする疾患を体現する動物モデルや細胞のモデルを作成するための基本的な手技と手続きを、以下の方法で修得する。 1. マウスやラットの購買法、管理、実験申請法、倫理規定を学ぶ。 2. 免疫組織化学の手技を学び、その特異度を得る手技を理解する。 3. マウスやラットの各臓器を用いて、対象とする分子のタンパクとmRNAの発現を、Western およびreal time RT-PCRで解析する。 4. 基本的な細胞培養の手技を学ぶ。	
	小児科学 課題研究	講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として小児科学分野に関する研究を行う。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	
	消化器・一般外科学 講義・演習	人間性豊かで、高い倫理観と責任感を備えた医師を養成し、科学的な問題解決能力と高い外科医療技術を備え、社会医学に広く貢献する有為な外科医を養成することを目標とする。これらを達成するために、消化器外科学と一般外科学に対する基礎医学から臨床にわたる幅広い知識を修得させ、幅広い診断・治療技術を修得させる。教育の到達目標は下記とする。 1. 消化器・一般外科学における一般的な基礎医学（解剖学、病理学、遺伝学、腫瘍学、分子生物学、侵襲学、代謝学、栄養学など）を理解し、説明できる。 2. 有用な統計手法を理解し、実践できる。 3. 消化器・一般外科における手術、周術期管理、術後合併症、消化管内視鏡に対する処置を学び、実践できる。また、手術療法以外の治療法（化学療法や放射線治療）の適応やその実際、問題点を説明できる。 4. 社会における外科医の役割を十分に理解し、行動できる。患者との良好な人間関係を構築できる。 また、消化器・一般外科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。	

専門科目（主科目・副科目）	<p>消化器・一般外科学 実験・実習</p>	<p>消化器・一般外科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになることを目標とする。教育の到達目標は下記とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分子生物学、病理学、細菌学、栄養学、解剖学など外科領域における研究プロセスを学び、実験的手法を修得する。 2. 臨床・基礎医学に関する文献を検索でき、それらを評価する能力を養う。 3. 実習を通じて消化器・一般外科の手術手技、手術後の合併症に対する処置を実践できる。 4. 臨床例の症例報告や、症例集積研究ができる。 	
	<p>消化器・一般外科学 課題研究</p>	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として消化器・一般外科学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	<p>呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習</p>	<p>臨床現場にフィードバックできる研究を行うにあたり、各疾患（肺癌を含む胸部悪性腫瘍・甲状腺腫瘍・胸膜疾患・転移性肺腫瘍等）について、診断・病態・治療法から社会的意義なども含めて幅広い知識を修得する。同時に、臨床研究や実験、調査等を含めて研究を始めるための基本知識を修得する。また、呼吸器・甲状腺外科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。</p>	
	<p>呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習</p>	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、呼吸器・甲状腺外科学において必要とされる専門知識と技能を培う、実習を通じて適切な情報の収集と分析ができるようになることを基本方針とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患または甲状腺疾患に対する適切な手術手技・治療能力 2. 肺がんの病態や腫瘍の特性を理解した上で行う診断の手技や能力 3. 内科的治療・放射線治療を含めた適切な治療法の選択能力 	
	<p>呼吸器・甲状腺外科学 課題研究</p>	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として呼吸器・甲状腺外科学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	<p>乳腺外科学 講義・演習</p>	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、乳腺外科学、乳腺腫瘍学において必要とされる専門知識（疫学、病態、バイオマーカー、臨床統計、画像診断、臨床試験概論、手術療法、薬物療法、放射線療法、遺伝性乳癌卵巣癌症候群、腫瘍免疫療法）を培う。乳腺専門医を目指す場合、手術療法と薬物療法における技能を学ぶ。また、乳腺外科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、批判的な見地から研究の意義、問題点、残された課題などを討論する。</p>	
	<p>乳腺外科学 実験・実習</p>	<p>乳腺外科学、乳腺腫瘍学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになる。また、乳腺疾患の手術手技を修得し、総合的な病態の診断から適切な検査法と治療法を選択し、稀な症例では報告することができるようになる。さらに、研究テーマに沿った原著論文を読み疑問点を抽出し、専門領域における他科のカンファレンスにも参加してより深い知識を修得する。</p>	
	<p>乳腺外科学 課題研究</p>	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として乳腺外科学・乳腺腫瘍学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	

専 門 科 目 （ 主 科 目 ・ 副 科 目 ）	小児外科学 講義・演習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、小児外科学において必要とされる以下の専門知識と技能を培うことを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の周産期、乳児期、幼児期、学童期の小児の栄養、代謝の特徴。 2. 正常の発生。先天性小児外科領域の疾患の病因、病態。 3. 小児の消化管疾患の病態と生理学的検査方法。 4. 小児悪性腫瘍の生理学的特徴と治療。 5. 小児の外科救急疾患の病態と診断、治療。 <p>また、小児外科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。</p>	
	小児外科学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、以下の臨床実習を通じて小児外科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査・画像診断・生検の実施。 3. 体液、呼吸、栄養管理を含む術前術後管理 4. 小児外科疾患の基本的手術 5. 中心静脈カテーテル挿入、蘇生、外傷の初期治療、腸重積非観血的整復、肛門拡張などの処置 6. 超音波検査、シンチグラフィ、CT検査、内視鏡検査、内圧検査の実施 7. 小児外科疾患の比較的難易度が高い基本手術 8. 食道閉鎖、臍帯ヘルニア、腸閉塞、ヒルシュスプルング病、高位鎖肛、胆道閉鎖、悪性腫瘍などの治療計画立案。手術では指導医の介助。 9. 患者と家族に対する病状説明 	
	小児外科学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として小児外科学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	救急医学 講義・演習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、救急医学において必要とされる専門知識と技能を培う。以下到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本邦の救急医療システムの現状と問題点について理解する。 2. 救急医学の様々な病態に対する知識と考え方を修得する。 3. 侵襲学の基礎と臨床応用について修得する。 4. ダメージコントロールサージャリーの考え方について修得する。 5. 集中治療の適応である病態を理解するとともに、最重症型である多臓器不全にかかわる免疫系・凝固線溶系の病理を理解する。 6. 中毒疾患に対する豊富な知識を修得し、治療方法を理解する。 <p>また、救急医学に関する救急医療システムやダメージコントロールなどの主たるテーマについて、最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解する。また当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。</p> <p>（オムニバス全15回）</p> <p>（59. 松田 剛明/8回） メディカルコントロール、救急診断、心肺蘇生法・救急時薬剤投与、侵襲による生体反応、神経内分泌反応、ショックの治療、集中治療学総論、多臓器不全</p> <p>（65. 山口 芳裕/7回） 救急医療システム、大規模災害時の医療体制、外傷総論、ダメージコントロール、ダメージコントロールサージャリー、中毒総論、中毒の治療総論</p>	
	救急医学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、救急医学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析能力を修得することを目標とする。院内外の実習を通じて、研究を行う上で必要となる救急疾患の病因と病態に関する研究手法を修得する。</p>	
	救急医学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として救急医学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	

専門科目 (主科目・副科目)	脳神経外科学 講義・演習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、脳神経外科学において必要とされる専門知識と技能を培う。以下を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経外科疾患の診断、治療、周術期管理について、標準化された手法を学び、脳神経外科専門医レベルの知識取得をめざす。 2. 脳血管障害を中心とする臨床神経学の救急、外科治療の目的および内容を理解する。 3. 脳神経外科疾患の画像診断について脳神経外科専門医レベルの知識取得をめざす。 4. 脳腫瘍に関する理解を深め、最新の診断・治療・研究の基本的知識を修得する。 <p>また、脳神経外科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。</p>	
	脳神経外科学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、脳神経外科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができることを目標として、脳神経外科疾患の診断、治療、周術期管理について、標準化された手技手法を身につける。以下を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経外科疾患の病態を理解し、病態・診断・治療技術を修得する。 2. 治療・診断に必要な脳神経外科手技ならびに画像診断を修得する。 3. 脳神経外科疾患における研究プロセスを学び、実験的手法を修得する。 4. 脳神経外科の疾患について知識を修得し、手術手技を身につける。 5. 中枢神経系の解剖学的位置関係について理解し説明ができる。 	
	脳神経外科学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として脳神経外科学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	心臓血管外科学 講義・演習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、心臓血管外科学において必要とされる専門知識と技能を培う。以下到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識の修得および診断から治療までを系統的に把握する能力を修練する。 2. 手術症例を検討し、病態生理、手術法、予後等の知識の修得に努める。 3. 個々の症例をまとめ、疾患群の診断・治療の概念を整理・把握する。 4. 診断に用いられる検査法を原理面からも再考察し、得られた検査所見の意味づけを独自に行うことができる。 5. 理学所見や簡易検査のデータの意味を考察し、画像等のデータとの整合性を検討し、病態の理解と患者側からの必要性から最適な治療法を選択することができる。 	
	心臓血管外科学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、心臓血管外科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができることを目標とする。そのために、臨床実習を通じて心臓疾患に関する診断の進め方、病態の把握、外科的治療法とその選択および適応、術前、術中、術後の循環呼吸管理等を修得する。また、血管疾患の機能的評価を含めた診断学、病態の把握、治療法とその適応について理解を深める。</p>	
	心臓血管外科学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として心臓血管外科学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
整形外科学 講義・演習	<p>整形外科学において必要とされる基本的な知識と技能を培い、日常臨床からのクリニカルクエスチョンを抽出する能力を涵養することを目標に、まずは基本的知識として運動器の局所・機能解剖学、骨・軟骨代謝学、神経生理学を理解する。次に各種疾患の病態を理解し、その病態解明にはどのような基礎的アプローチがあるかを学習する。</p> <p>また、技能面ではスポーツ障害に対する内科的管理、外科的管理の基本方針およびその成因、症状、治療、予防について学び、外傷に対する現場での応急処置を身につけ、専門医としての治療が円滑にできるよう知識と技術を身に付ける。</p>		

専門科目 (主科目・副科目)	整形外科学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるようになることを目標に、実習を通じて整形外科学において必要とされる専門的知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析方法を学ぶ。</p> <p>各種外科手術に参加し、術前計画、手術手技、術後管理を実践し、治療・診断に必要な外科手技ならびに画像診断を修得する。その上で現代医療における手術の位置づけ、その限界と将来的展望を考察する。</p> <p>更に整形外科の各分野における電気生理や骨軟骨代謝などの基本的な研究方法の原理を理解するとともに、実験手技を繰り返し行い安定した技術を修得する。</p>	
	整形外科学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、以下を到達目標として各自が立案した研究計画に基づき整形外科学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	皮膚科学 講義・演習	<p>皮膚疾患の発症機序に関する基礎医学的見地からの解釈を可能にするための知識を修得する。特に、皮膚の発生・恒常性の維持、免疫学的機能について、正常とその破綻の結果生じる疾患の病態生理について理解するために発生学・幹細胞生物学・分子生物学・病理組織学・免疫学についての最新知識を修得する。それにあたっては、教科書的記載のみならず、将来、国際的に活躍するためにも外国語文献の読解により養う。また、研究者が備えるべき倫理観と社会的責務について学ぶ。</p>	
	皮膚科学 実験・実習	<p>皮膚疾患の病態生理を解明し、新規治療法の開発につなげる知見を得るために必要な研究手法にかかわる基礎的技術を修得する。特に、皮膚構成細胞の皮膚組織からの分離・培養、培養細胞を用いた遺伝子発現解析、フローサイトメトリーによる皮膚免疫担当細胞の解析、3次元培養による組織再構築法、免疫組織化学的手法などについての方法論を学び、単純化された実験系を用いて実践する。また、解析対象となる臨床検体の集積のための方法論（倫理申請、医療安全、動物愛護など）を学ぶとともにルールに従い検体の集積・解析を行う。</p>	
	皮膚科学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自で立案した研究計画を以下を到達目標として遂行する。</p> <p>なお、研究計画は、皮膚再生医学、特に毛包・汗腺の再生に関するもの、皮膚免疫学、とくに皮膚アレルギー性疾患、重症薬疹などに関するテーマに基づき行うものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる 2. 正しく統計処理ができる 3. 結果を科学的に図表にまとめられる 4. 実験内容を正しく記載し記録できる 5. 追加実験を自分で立案できる 	
	形成外科学 講義・演習	<p>形成外科・美容外科で取り扱われる疾患を対象として、まず局所解剖に精通した上で、形成外科的治療法の概要を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・局所解剖に関する基礎的知識を身につける。 ・創傷治癒に関する基礎的知識を身につける。 ・顔面、四肢など局所の解剖から、機能を理論的に理解する。 ・組織学的知識を病理学的に身につける。 <p>形成外科的疾患に対する病理を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚軟部組織腫瘍の診断および取り扱いに精通する。 ・形成外科的治療を必要とする疾患（先天異常、外傷など）を理解する。 <p>また、形成外科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。</p>	

	<p>形成外科学 実験・実習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植皮術、有茎皮弁形成術、遊離皮弁形成術に関する具体的手法を学ぶ。 ・上記のそれぞれの手技の適応を学ぶ。 ・特にマイクロサージェリーに関する知識と理解を深める。 ・特にクラニオフェーシャルサージェリーに関する知識と理解を深める。 ・形成外科患者の心理に対する理解を深める。 ・血管吻合に関わる基礎医学的、および臨床医学的に関する知識、実践に関する理解を深める。 ・形成外科・美容外科領域でのレーザー治療の適応、具体的な方法に関する理解を深める。 	
	<p>形成外科学 課題研究</p>	<p>形成外科疾患の病態から、基礎研究・臨床研究を行う。</p> <p>形成外科領域疾患の基礎研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創傷治癒に関する研究 ・血管腫病態に関する基礎的研究 ・顔面神経の解剖学的研究、および顔面神経麻痺の病態研究 <p>形成外科疾患の臨床研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難治性潰瘍に対する疫学的臨床研究 ・難治性潰瘍に対する手術方法の検討 ・血管腫に対する薬学治療の臨床研究 ・血管腫に対する手術的治療の臨床研究 ・顔面神経麻痺に対する手術的治療の臨床研究 <p>以下を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる 2. 正しく統計処理ができる 3. 結果を科学的に図表にまとめられる 4. 実験内容を正しく記載し記録できる 5. 追加実験を自分で立案できる 	
	<p>泌尿器科学 講義・演習</p>	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、泌尿器科学において必要とされる専門知識と技能を培うことを基本方針とする。まずは、泌尿器科疾患に関する診断・治療についての基礎となる、尿路器官と男性の生殖器官についての解剖・生理・生化学を理解する。次に、修得したの基礎知識（解剖・生理・生化学）を実際の診療で確認しながら、尿路・生殖器の主要疾患を理解する。さらに、泌尿器診断学・治療学の大きな柱である、泌尿器内視鏡の構造、特徴、使用方法、所見の取り方について学ぶ。</p> <p>また、泌尿器科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。</p>	
	<p>泌尿器科学 実験・実習</p>	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、泌尿器科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになることを基本方針とする。まずは、特に解剖学を学びながら、術式を修得する。次に、実際の診療に携わりながら、臨床データ、臨床検体を用いて臨床、実験およびデータ解析を行う。特に次の4点を重点に学ぶ。つまり、シグナル伝達、エピジェネティクスと遺伝子発現機構、遺伝子導入と発現解析、分子標的治療である。さらに、内視鏡を実際に使用し、尿路上皮腫瘍、尿路結石の診断治療手技を取得する。最後に体外衝撃波碎石術、経尿道的尿管碎石術を安全に施行できるようにする。</p>	
	<p>泌尿器科学 課題研究</p>	<p>研究テーマに関する実験・調査を反映させた研究計画を立てて、以下を到達目標として泌尿器科学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる 2. 正しく統計処理ができる 3. 結果を科学的に図表にまとめられる 4. 実験内容を正しく記載し記録できる 5. 追加実験を自分で立案できる 	
	<p>眼科学 講義・演習</p>	<p>幅広い見地に至った研究を選択できるように、眼科学における基本となる解剖、生理、病理学および検査法を学び、専門知識と眼科臨床を実践するための知識を養うことを基本方針とする。その為に、以下の到達目標を設定し講義・演習を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 眼科学研究の基礎となる視覚器の発生、構造、生理、組織所見について理解する。 2. 眼科検査の目的と実施法を理解する。 3. 眼内免疫の特殊性と眼内の酸化障害機構、眼内虚血による新生血管発生機序の原因となる知識を理解する。 4. 眼科組織における外科的侵襲による生体反応を理解する。 5. 眼科臨床における主要な失明疾患の病態と課題を理解する。 <p>以上の目標に向かって眼科学の基本となる教科書、原著論文を抄読する。</p>	

専門科目 (主科目・副科目)	眼科学 実験・実習	眼科臨床の課題を解決するために、適切な情報の収集と分析を行い、必要な研究方法を実施できるような技能の修得を目指す。そのために以下の到達目標を掲げる。 1. 眼科臨床の基本となる眼科検査法の実践を経験する。 2. 実際の臨床経験の中で、珍しい症例や難治な病態の症例報告を行い、臨床の課題の解決能力を養う。 3. 眼科臨床の画像検査（光干渉断層計や眼底写真など）と眼病理学の基本知識を関連付ける訓練を実施する。 4. 血管新生を生じる病態や自己免疫疾患を呈する難治性眼疾患の治療経験を通じて、治療の限界や課題を整理する。 5. 難治性疾患の臨床的課題を整理するための分析法（統計処理など）を学ぶ。 以上の目標課題から眼科学研究の研究手法を修得する。	
	眼科学 課題研究	講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術などを活用し、以下の分野について各自が立案した研究計画に基づき研究を実施する。研究テーマの概要として 1. 眼科臨床における生体画像分析 2. 眼炎症性疾患、特に自己免疫性疾患の病態解明と治療薬の開発 3. 眼内新生血管を来たす病態の解明と治療法の開発 4. 難治性疾患の外科的治療の開発 50オキュラーサーフェース異常に関わる病態の解明と新しい治療法の開発 以上のおおまかな研究テーマに関して以下の到達目標を掲げる。 1. 各自の研究目的・方法・仮説の研究計画の詳細を記述できる 2. 研究テーマに関連する文献を検索し適切に評価できる 3. 実験結果などの実験ノートを適切に記載できる 以上の到達目標に向かって研究を遂行することで、医師として臨床課題を整理し、問題を解決するための方法を修得し、医学および医療の発展に寄与する能力を養う。	
	耳鼻咽喉科学 講義・演習	講義・演習では細分化した耳科学・鼻科学・咽喉学などを理解して、耳鼻咽喉科学分野における専門知識を修得するとともに、自分で研究を進めることが出来る考え方を養うことを目標とする。 また、耳鼻咽喉科学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。	
	耳鼻咽喉科学 実験・実習	広い見地に立った研究を遂行できるよう、実習を通じて耳鼻咽喉科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析能力を修得する。到達目標は以下である。 1. 耳科学、鼻副鼻腔学、口頭・咽頭学、咽頭科学、頭頸部外科学、気管食道科学、頭頸部腫瘍学領域における専門的検査・診断・治療法の修得 2. 耳科学、鼻副鼻腔学、口頭・咽頭学、咽頭科学、頭頸部外科学、気管食道科学、頭頸部腫瘍学領域における手術手技・術前術後処置および管理方法の修得	
	耳鼻咽喉科学 課題研究	講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき、以下を到達目標として耳鼻咽喉科学分野に関する研究を行う。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	
	産科婦人科学 講義・演習	広い見地に立った研究を遂行できるよう、産科婦人科学において必要とされる専門知識と技能を培うため、以下の到達目標を設定する。 1. 妊娠、分娩に関わる疾患の病態生理について生殖生物学、基礎医学の観点から理解し、新しい治療に結びつくアイデアを創造できる能力を身につける。 2. 必須となる病理学的知識について、細胞診・組織診の知識を修得する。 3. 緩和医療の基本的知識を修得する。 4. 女性医学における生殖内分泌学の基礎ならびに臨床的研究を行う専門的知識と能力を養う。 5. 婦人科疾患の中で悪性腫瘍、即ち子宮頸がん・体がん、卵巣がんについて、その疫学、病態、診断、治療を学ぶとともに、病理学的知識（細胞診・組織診）について理解した上で、悪性腫瘍の管理方法を学ぶ。	

	産科婦人科学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、産科婦人科学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになるため、以下の到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エビデンスに基づいた産科手技と治療法を理解し、応用できる能力を身につける。 2. 女性性器がん患者の診療時において、正しい診断、適切な治療ができるよう診断能力、治療能力（手術技量も含む）の向上を目指す。 3. 高度生殖医療の一つである体外受精・胚移植、顕微授精に関する基礎や手技から得られる様々な情報を用いて、生殖内分泌の基礎的研究を行うための基本技術を修得する。 	
	産科婦人科学 課題研究	<p>研究テーマに関する実験・調査を反映させた研究計画を立てて、以下を到達目標として産科婦人科学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	放射線医学 講義・演習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、放射線医学において必要とされる専門知識と技能を培う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 画像診断の基礎となるエックス線撮影、CT、MRIなどの理論を学ぶ。 2. 主要疾患に関する画像診断の要点を学ぶ。 3. 磁気共鳴画像（MRI）の基礎的ならびに実地臨床での特徴を理解し、診療での実際的な運用を自身が可能でかつ他の診療スタッフにも指導できるレベルの知識を修得する。 4. 核医学検査の基礎的ならびに実地臨床での特徴を理解し、診療での実際的な運用を自身が可能でかつ他の診療スタッフにも指導できるレベルの知識を修得する。 	
	放射線医学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、放射線医学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになる。以下到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 撮影現場で実際の撮影機器に接し、その特徴や臨床応用時の問題点等を教員および学生間で討論し理解を深める。 2. 撮影機器による実験を行い、研究に必要な材料を得る。 3. CT、MRI、超音波などの各画像検査手段の特徴に関し十分な理解を求めらる。 4. 他の画像検査手段と比較した場合の核医学検査の特徴に関し十分な理解を求めらる。 <p>目標達成のため、以下のように修得することとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 撮影現場で実際の撮影機器に接し、その特徴や臨床応用時の問題点等を教員および学生間で討論する。 2. 撮影機器による実験を行う。 3. CT、MRI、超音波などの各画像検査手段の特徴を修得する。 4. 他の画像検査手段と比較した場合の核医学検査の特徴を修得する。 	
	放射線医学 課題研究	<p>研究テーマに関する実験・調査を反映させた研究計画を立てて、以下を到達目標として、放射線医学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を行う。 2. 統計処理の基礎と応用を学ぶ。 3. 結果を科学的に図表に示す。 4. 実験内容を正しく記載し記録する。 5. 追加実験の立案を行う。 	
	放射線腫瘍学 講義・演習	<p>医師として、また、科学者として広い見地に立った研究を遂行できるよう、放射線腫瘍学において必要とされる専門知識と技能を培う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線生物学および物理学の基礎知識を修得する。 2. 診断および治療への放射線の利用に関する基礎から最先端の技術についての理解を深める（診療での実際的な運用を自身が可能でかつ他の診療スタッフにも指導できるレベルの知識を修得する）。 3. がん治療における放射線治療の役割や意義を中心とした放射線腫瘍学に関する知識を修得する。 	
	放射線腫瘍学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、放射線腫瘍学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになる。主に以下の内容を課題とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常組織・臓器における照射線量と有害事象の関係 2. 腫瘍組織・細胞における照射線量と有害事象の関係 3. 新たな放射線治療方法の開発および検証 	

専門科目 (主科目・副科目)	放射線腫瘍学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、以下を到達目標として、各自が立案した研究計画に基づき放射線腫瘍学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を行う。 2. 統計処理の基礎と応用を学ぶ。 3. 結果を科学的に図表に示す。 4. 実験内容を正しく記載し記録する。 5. 追加実験の立案を行う。 	
	麻酔科学 講義・演習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、麻酔学・集中治療学・教育学において必要とされる専門知識と技能を培うため、以下の内容の講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疼痛の概念、痛みのメカニズム、痛みの発生機序による分類、急性疼痛・慢性疼痛の違い、疼痛の評価方法、発生機序ごとの治療方法について理解する。 2. オピオイド受容体について習熟する。 3. 周術期の循環動態、呼吸状態の病態について理解する。 4. 周術期の循環・呼吸の病態のシミュレーション化の技術について学ぶ。 5. 技術修得におけるシミュレーション教育の重要性について学ぶ。 	
	麻酔科学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、麻酔学・疼痛緩和治療学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析能力を修得する。到達目標は以下である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験計画に基づいた動物実験モデルの作成ができる。 2. 実験計画に基づいたシミュレーションモデルが作成できる。 3. 実験計画に基づいた実験が施行できる。 4. 実験結果をまとめ、分析解釈する能力を身につける。 5. 実験結果を、既知のエビデンスに基づく科学的な思考により、考察できる。 	
	麻酔科学 課題研究	<p>研究テーマに関する実験・調査を反映させた研究計画を立てて、以下を到達目標として麻酔科学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	臨床検査医学 講義・演習	<p>臨床検査医学の領域において指導的役割を果たす者として、豊かな人間性と高い倫理観を備え、広い見地に立った研究を遂行できるよう、必要とされる専門知識を培うことが、講義・演習の基本方針である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査に関連する基本的な手技（性能の評価、精度管理等）とともに、各種検査を適切に実践できるための知識を身につけること、 2. 臨床検査医学領域の研究の特殊性を理解し、これを実践・遂行するための知識を身につけること、 3. 輸血検査・細胞治療についての基本原理および臨床的意義・問題点・限界について理解すること、が主要な目標である。 <p>そのために、臨床検査および輸血細胞治療に関する最新のガイドライン・マニュアルを抄読し、基本的手技および検査結果の解釈を学ぶ。また、臨床検査および輸血細胞治療に関する研究論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。</p>	
	臨床検査医学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、臨床検査医学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができる能力を養うことを基本方針とする。</p> <p>諸検査の実施、結果の判断・解釈、臨床検査医の診断・コメントが必要な各種検査報告書の発行、各種臨床検査・輸血の適応・使用方法に関する臨床医のコンサルタント、自己血採血の実施、末梢血幹細胞採取・保存、臨床検査部の適切な管理・運営の基本、臨床検査医学の実践を通じた予防医学・健康管理の分野への貢献、精度管理事業についての理解などを主要な目標とする。実習では、これらを指導教員の指導の下に適切に行い、後期には自らこれらを実施する。</p>	
	臨床検査医学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき以下を到達目標として臨床検査医学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	

専門科目（主科目・副科目）	総合医療学 講義・演習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、総合医療学分野において必要とされる専門知識と技能を培うため、以下の内容の講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プライマリケアや救急診療に関する検査・診断方法に関する知識 2. バクテリオファージのメカニズム 3. がんや動脈硬化性疾患に代表される生活習慣病の発症機序および予防方法 4. 病原微生物により引き起こされる様々な疾患に関する臨床病態および疾患により生じる障害に関する診断方法 	
	総合医療学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、総合医療学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析能力を修得する。到達目標は以下である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の病因と病態に関する研究手法を修得する。 2. 臨床実習において治療に参加し、疾患に関する知識および技術を修得する。 3. 基礎研究を行う場合は、基礎実験のために必要な手技等を修得する。 	
	総合医療学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、以下を到達目標として、各自が立案した研究計画に基づき総合医療学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を行う。 2. 統計処理の基礎と応用を学ぶ。 3. 結果を科学的に図表に示す。 4. 実験内容を正しく記載し記録する。 5. 追加実験の立案を行う。 	
	リハビリテーション医学 講義・演習	<p>運動生理学、神経生理学、機能解剖学などの関連基礎分野の専門知識と技能からリハビリテーション医学を再構成し、広い見地に立って問題点を見出す研究者としての基本的能力を身につけることが本講義・演習の目的である。リハビリテーション医学で扱われる各種病態、障害の概念と構造、治療手段としての各種療法を理解する。その上で、活動を制限し、参加を制約する因子の働きと、それに対するカウンタメジャについての理論と実際、現代リハビリテーション医学の最先端について学び、考察を深めるための講義を展開する。</p> <p>演習ではリハビリテーション医学の課題に関連する基本的研究手法を学び、関連する論文の抄読等を通じて、問題解決へ向けた研究の意義について討論を行う。</p>	
	リハビリテーション医学 実験・実習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 計量心理学的視点から、心身機能や活動・参加などの生活機能を数値化する統計的手法を修得する。これらの技能はリハビリテーション介入効果の検証、予後予測モデルなどの検証に必要となる。ADLの評価尺度である Functional Independence Measureに加えて、国際生活機能分類に基づいた評価法についても実践的、応用的な活用を学習する。 2. 運動生理学、および神経生理学的視点から、神経および筋の活動に対する刺激と反応、最終的なアウトプットとして関節運動等をデータとして捉えるための具体的な技法を修得する。具体的なテクニックとしては、研究での活用を視野に入れた神経伝導検査、筋電図検査、動作解析、電気・磁気刺激装置などの扱いについて習熟を目指す。 	
	リハビリテーション医学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき以下を到達目標としてリハビリテーション医学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	脳卒中医学 講義・演習	<p>脳卒中医学は、杏林大学病院脳卒中センターにおける診療活動と密接にリンクしており、日々の臨床で生じた疑問点に対し、自ら仮説をたて、それを解き明かしていくことを基本とする。虚血性および出血性脳血管障害の診断プロセスを理解し、適切な治療を実践できる能力を養い、脳卒中画像診断を迅速・正確に読影し解釈できる能力を養う。</p>	
	脳卒中医学 実験・実習	<p>脳卒中診療チームの一員として、実習を通じて脳卒中急性期から慢性期にかけての診断、治療についてエビデンスに基づいた診療プロセスを実践する。このなかで、広い見地に立った研究を遂行できるよう、脳卒中医学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習において治療に参加し、知識および技術を修得する。 2. rt-PA静注療法を適切に実施できる。 3. 急性期血行再建療法の手技を理解し、適応を判断できる。 4. 脳出血の手術適応および急性期管理ができる。 5. 頸動脈狭窄症についての内科管理、外科治療、血管内治療を説明できる。 	

専門科目（主科目・副科目）	脳卒中医学 課題研究	脳卒中医学分野の臨床における未解決の問題から研究テーマを発想し、先行研究と最新のエビデンスを理解して自ら情報収集と分析を行う。この課題研究を通じて、以下の内容を達成させる。 1. 自ら立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に解釈し、的確な図表にまとめられる。 4. 仮説に対して整合性のある考察を加えることができる。	
	肉眼解剖学 講義・演習	広い見地に立った研究を遂行できるよう、解剖学において必要とされる専門知識と技能を培う。以下を到達目標とする。 1. 局所の正常構造と関連器官の機能を理解し、説明することができる。 2. 細胞生物学・肉眼解剖学から各器官の機能構造を説明することができる。 3. 胎生期の各器官および局所の発生過程を理解し説明することができる。 4. 研究の基本的手法について説明することができる。 また、肉眼解剖学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。	
	肉眼解剖学 実験・実習	広い見地に立った研究を遂行できるよう、肉眼解剖学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができることを目標として、以下の実習を行う。 1. 局所解剖と動物の正常構造を文献と実習により学ぶ。 2. ご遺体を用いて、腹腔鏡・内視鏡・カテーテル検査等の手技に関する研究を行う。 3. 超音波エコー、X線、CT等による観察を行う。 4. 光学顕微鏡、電子顕微鏡等による観察を行う。 5. 細胞生物学的手法を身につけ研究に応用する。 6. 免疫組織化学的手法を学び研究手技に活用する。 7. 器官系の発生過程を文献と剖出（実習観察）により学ぶ。	
	肉眼解剖学 課題研究	講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき以下を到達目標として肉眼解剖学分野に関する研究を行う。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	
	顕微解剖学 講義・演習	広い見地に立った研究を遂行できるよう、顕微解剖学ならびに組織細胞化学において必要とされる以下の専門知識と技能を培う。 1. 生体構造解析の基礎として、組織・細胞・細胞小器官の基本的構造と機能を理解する。 2. 光学顕微鏡および電子顕微鏡の原理と種類、およびそれらの活用法について理解する。 3. 光学顕微鏡および電子顕微鏡観察のための試料作成の手法を理解する。 4. 光学顕微鏡レベルでの組織細胞化学の原理と手法を理解する。 5. 電子顕微鏡レベルでの組織細胞化学の原理と手法を理解する。 6. 分子生物学の基本的手法を理解する。 7. 複合糖質を解析するための基本的手法を理解する。 また、組織細胞化学に関する最新の英語原著論文や関連図書を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。	
	顕微解剖学 実験・実習	広い見地に立った研究を遂行できるよう、顕微解剖学ならびに組織細胞化学において以下の必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになる。 1. 光学顕微鏡および電子顕微鏡観察のための試料作製法、機器の操作法、写真撮影手技などを修得し、併せて、得られた顕微鏡画像を解釈する能力を身につける。 2. 光学顕微鏡および電子顕微鏡レベルでの組織細胞化学を修得し、所見を解析する。 3. 分子生物学の手法、複合糖質の分析手法を修得し、所見を解析する。 4. 疾患モデル（糖尿病ラットなど）、培養癌細胞などを用い、細胞接着因子、糖鎖抗原、分化抗原、ホルモン受容体などの組織細胞化学的動態を解析する。 光学顕微鏡と電子顕微鏡の試料作製と観察の経験を積み重ね、顕微解剖学および組織細胞化学の研究手技を修得する。	

専門科目 (主科目・副科目)	顕微解剖学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき以下を到達目標として顕微解剖学ならびに組織細胞化学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 <p>上記の目標達成のため、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織細胞化学的手法をマスターし、その利用法を学ぶ。 2. 自らが注目した生体高分子の局在を顕微鏡下で解析する。 3. 得られた所見を整理し、機能的意義を考察する。 4. 必要に応じて組織細胞化学的手法以外の実験手技についても実験を追加する。 	
	統合生理学 講義・演習	<p>統合生理学 講義・演習では、広い見地に立った研究を遂行できるよう、神経生理学において必要とされる情報の収集と分析能力を高い高度な専門知識を獲得することを目的とする。具体的には、以下の4点を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の正常な活動は、神経系、感覚系、運動系さらに内臓諸器官などの統一の取れた連繋のもとに成り立っている。このように人の統合された行動を制御する神経系の機能の最新の知見を収集し、統一的にまとめることができる。 2. 感覚・認知のメカニズムを理解し、その異常による病態を説明できる。 3. 神経系を検査・評価するための手法の原理を理解し、得られたデータが説明できる。 4. 研究を行う上での倫理的問題点を理解し、それを解決するための手続きを説明できる。 <p>このため、神経生理学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。</p>	
	統合生理学 実験・実習	<p>統合生理学 実験・実習では、広い見地に立った研究を遂行できるよう、神経生理学において必要とされる専門知識と技能を高い、適切な情報の収集と分析ができるようになることを到達目標とする。具体的には、神経生理学特論、脊髄脳幹・大脳・感覚生理学で得た知識を有機的に結びつけて、中枢神経系の機能を解明するためにどのような研究を行ったらよいか、実験計画が立てられるようにする。神経生理学に関する研究方法を理解・修得し、その方法で得られたデータの解析方法を学ぶ。</p>	
	統合生理学 課題研究	<p>統合生理学 課題研究では神経生理学について学んだ知識と技能を用い、実験を実施することができるようになることを目標とする。更に、得られたデータについて、自ら解析を行ない解釈できるようになる。具体的内容は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	病態生理学 講義・演習	<p>生体を制御する様々な神経機能を、個々の分子や生化学反応の羅列ではなく、統合された神経生理学的なシステムとして理解し、様々な神経疾患の病態生理学的な基盤について考察することを学習の目的としている。そのための基礎となる神経系のシステムおよび神経細胞レベルの2つのレベルで学習する。1. ヒトで行動学的・電気生理学的手法を用いて神経系のシステムレベルでの機能解析法について学習し、磁気刺激法・脳波・誘発電位をはじめとする神経系の機能解析の手法についての理解を深める。2. 神経系は神経細胞とそれを支持するグリア細胞から構成される。これらの細胞の機能維持に働く生化学的応答を理解することは、神経系の機能を理解する上で必須である。シナプス機能を司る分子の中でも神経伝達物質の開口放出機構に中心的な役割を果たすと考えられている分子群について解説し、シナプスのみならず高次神経機能における生理学的意義・役割について理解する。</p>	
	病態生理学 実験・実習	<p>実験・実習では具体的な神経疾患を念頭において、生体を制御する様々な神経機能をシステムレベル・細胞レベルで理解するとともに、その病態を明らかにするための技術の基礎的修得を行う。そのために必要となるアプローチを以下の2つのうちから選択し、指導教員と協議して詳細に実験目的を設定し、神経疾患の病態基盤を生理学的に明らかにする研究を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非侵襲的な方法を用いたヒトの正常の脳機能解析およびこれを応用した神経疾患の病態解析に関する研究を行う。また磁気刺激法・脳波・誘発電位をはじめとする神経系の機能解析の手法についての理解を深め、非侵襲的な脳機能解析法の基本に習熟する。 2. 行動学的・電気生理学的手法を用いて、細胞レベルで神経ネットワークの機能を明らかにする基本的な研究手技について理解を深めるとともに、システムレベルでの神経機能の解析に必要な解析手法を修得する。 	

専門科目 (主科目・副科目)	病態生理学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき神経疾患の病態生理基盤に関する研究を行う。具体的な研究領域には以下のようなものが含まれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床例の解析と合わせ神経疾患の病態生理を明らかにする研究 <ul style="list-style-type: none"> 磁気刺激法を用いた大脳皮質機能の解明 磁気刺激法を用いた神経疾患の病態解明および治療法開発 神経疾患における眼球運動障害の解析と病態の解明 ヒトにおける時間的情報処理機構の解明と神経疾患患者における病態の研究 シナプス機能を制御している分子およびこれに関連した神経病態の解明 <ul style="list-style-type: none"> Syntaxin 1A/HPC-1, syntaxin 1Bに関する解析 シナプス伝達におけるSyntaxin 1A/HPC-1, syntaxin 1Bの生理機能の解析 シンタキシン1Bの機能欠損によるてんかん発症メカニズムの解析 <p>また、以下到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 正しく統計処理ができる。 結果を科学的に図表にまとめられる。 実験内容を正しく記載し記録できる。 追加実験を自分で立案できる。 	
	代謝生化学 講義・演習	<p>生命科学の基本的な知識をふまえて、代謝に関わる諸問題について生化学的観点から講義を行う。具体的には、活性酸素に関する基礎知識をまとめ、酸素ストレスに起因する臓器疾患の発症機序と防御方法を対症的な側面のみではなく栄養学的見地から考察し、代謝生化学の視点から健康を維持するために必要な「基礎栄養学」、および臨床医学と関連する「臨床栄養学」について学び、そして生命現象を生体分子の構造に基づいて理解する「構造生物学」の基本的な考え方や研究手法を学ぶ。</p> <p>また、代謝生化学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。</p>	
	代謝生化学 実験・実習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、代謝生化学において必要とされる専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになることを目指す。まずは、疾患と活性酸素・フリーラジカルの関係を実験的・文献的に調査し、発生の機序と防御の方法を探り、次に文献および実習を通して、「基礎栄養学」と「臨床栄養学」の知識を深め、そして生体組織からの蛋白質の調製と精製、電子顕微鏡による観察、X線結晶構造解析のための三次元結晶化等を通して構造生物学上の基本的な技術を修得する。これにより、代謝生化学・生命科学における基本的な実験手技を修得し、実習課題の解決能力を涵養する。</p>	
	代謝生化学 課題研究	<p>本科目では、独立した研究者となるために講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、自ら立案した研究計画に基づき以下を到達目標として代謝生化学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 正しく統計処理ができる。 結果を科学的に図表にまとめられる。 実験内容を正しく記載し記録できる。 追加実験を自分で立案できる。 	
	細胞生化学 講義・演習	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、細胞生化学において必要とされる専門知識を培うことを教育の基本方針とする。到達目標は以下の4項目とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 細胞内シグナル伝達の知識を獲得する。 細胞生化学をはじめとする基礎医学研究を行うために必要な遺伝子工学技術を学びその原理を理解する。 生命の基本単位である細胞の機能を分子レベルで理解する。 糖尿病をはじめとする生活習慣病の病態生理について分子レベルから理解を得る。 <p>また細胞生化学に関する最新の英語原著論文の抄読を通して、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点および残された課題について討論する。</p>	
	細胞生化学 実験・実習	<p>実験・実習では広い見地に立った研究を遂行できるよう、細胞生化学において必要とされる専門知識と技能の修得および適切な情報の収集力と分析力を培うことを教育の基本方針として、細胞生化学・生命科学における基本的な実験手技の解説、修得、実習課題の解決を通して到達目標の達成を目指す。到達目標は以下の4項目とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 細胞生化学研究を行うために必要な遺伝子工学技術を学び応用できる技術を修得する。 生命の基本単位である細胞の機能を分子レベルで理解し、その知見、研究手法を医学研究に応用することを学ぶ。 糖尿病をはじめとする生活習慣病の病態生理について実験・実習を通して分子レベルから理解を得る。 	

専門科目 (主科目・副科目)	細胞生化学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき以下到達目標として細胞生化学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	薬理学 講義・演習	<p>薬理学の基本原則、分子生物学、生化学、細胞生物学、再生医療の基礎知識を薬理学への応用の観点から学ぶ。具体的には下記の内容となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理学の基本概念、および薬理学研究に必須な考え方と必要な解析法を修得する。 2. 再生医療の基本的な考え方と最近の動向を理解する。 3. 腎臓作用薬の作用メカニズムの研究や創薬研究を遂行できる。 4. 薬物作用の分子機構の理解に必要なタンパク質の三次元構造、生体応答の網羅的把握を可能とするポストゲノム技術を理解し、薬力学、薬物動態学の中でそれらを活用できる。 5. 投与された薬物の生体内での動きと、薬物の主作用・副作用の発現に及ぼす因子を述べることができる。 6. トキシコロジーの古典的な考え方を把握した上で、ポストゲノム技術を取り入れた近代的トキシコロジーを理解できる。 	
	薬理学 実験・実習	<p>薬理学の基本となる生理学的実験手法と現代の医・生物学の基礎となる生化学、細胞生物学、分子生物学的実験手法を修得する。具体的には以下の技法である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体膜輸送の実験手技とデータ解釈 2. 遺伝子発現解析、遺伝子解析の技法 3. 遺伝子改変動物の解析法 4. 免疫組織染色、ウェスタンブロット、免疫沈降法 5. 細胞培養技術 6. 蛋白発現法 	
	薬理学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき以下を到達目標として薬理学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	病理学 講義・演習	<p>人体病理学・分子病理学において必要とされる専門知識と技能の修得を目的とした講義・演習を行う。具体的には、正常組織および各種疾患の形態学を理解し、また、各種疾患の病態・発生機序に関わる分子遺伝学的知見を深めることを目標とし、併せて人体病理学・分子遺伝学の基本的実験手技を理解することが目標となる。</p> <p>病理学に関する成書、最新の英語原著論文を精読し、特に論文の精読において、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する（カンファレンス、抄読会、学会参加等もその一部分とみなす）。</p>	
	病理学 実験・実習	<p>人体病理学・分子病理学の実践、研究において必要な手技を修得することを目的とする。具体的には以下について取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理解剖を通して諸臓器の肉眼的・組織学的な検索、診断法を修練する。 2. 外科病理検体について検索、診断法を修練する。 3. 電子顕微鏡や免疫組織化学を用いた検索、診断法を修練する。 4. 病因と病態発生について仮説をたて、実験的に検証する方法を理解する。 5. 培養細胞、実験動物の取り扱い方などの基本的な実験病理学的な研究手法を修得する。 	
	病理学 課題研究	<p>指導教員の指導の下に人体病理学・分子病理学的な研究テーマを設定し、研究計画を立案の上、研究を遂行し、結果をまとめ、発表する。</p> <p>具体的には以下に沿って課題に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導教員の指導の下に研究計画を立てる。 2. 研究計画に従い研究を実行する。 3. 研究（実験）内容を正しく記載し記録する。 4. 研究結果を科学的に図表にまとめ、正しく統計処理をする。 5. 追加研究（実験）を立案する。 	

専門科目 (主科目・副科目)	感染症学 講義・演習	<p>主要な感染症の現状を把握し的確な診断と治療方法を修得する。広い見地に立った研究を遂行できるよう、微生物学および寄生虫学において必要とされる専門知識と技能を培うとともに、情報収集能力および分析力、問題解決能力、情報発信力を修得する。具体的には病原体の分類・形態・性状・遺伝子発現メカニズムを学習し、病原性発現機構を理解する。国内外における院内感染の実態を理解し院内感染起因菌の診断とその感染症の治療・予防に関して深く理解する。</p>	
	感染症学 実験・実習	<p>専門分野の情報収集力と分析力を高め、病原体に関する知識を元に正しく取り扱うための手技を修得する。微生物学分野または寄生虫学分野において必要とされる専門知識を修得し、それを生かした技能を培う。具体的には感染症を引き起こす病原体に対する宿主の免疫応答を理解し、微生物の生体への感染・定着メカニズムを学習することで、病原性の発現過程を種々の病原原因の発現の観点から理解する。またプラスミド・バクテリオファージ・トランスポゾンなどの細菌の遺伝子発現を調節する遺伝学的エレメントについて学習する。</p>	
	感染症学 課題研究	<p>計画に則って研究を実施し一定の成果を目指す。問題解決能力および情報発信力を高める。これらを踏まえて実験の目的を明確にし、得られたデータを正しく解析できるための情報の収集と分析する能力を育成する。研究の実施を通じて1.病原細菌および病原ウイルスの臨床検体からの分離培養に関する知識および技術を修得する。2.病原細菌および病原ウイルスのゲノム構造に基づく遺伝子検出手技を修得する3.寄生虫症の検査手技を修得する。4.未知の病原体の取り扱い方・処理方法など実践的な知識を修得する。以下到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	衛生学・公衆衛生学 講義・演習	<p>衛生学・公衆衛生学領域の研究に際して必要とされる研究手法や疫学に関する基礎的・基本的な知識および技術を中心に講義する。具体的には、以下の内容について学修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境保健学分野の具体的な例について、柔軟性に富んだ社会医学的考え方、 2. 成人・老人保健学の意義・重要性、 3. 産業保健に関する具体的な例について、柔軟性に富んだ社会医学的考え方、 4. いくつかのフィールドワークを通じ、地域住民への啓発活動、コミュニケーションスキルの意義等と地域保健を専門とする医師に課せられている役割、 5. 因果関係の立証など疫学の意義、目的、具体的な疫学的手法と統計学的評価の方法、 6. 世界で発生しているさまざまな健康問題や保健統計学的データと、国際医療協力活動に資する基礎的素養や知識の取得法。 <p>また、衛生学・公衆衛生学分野に関する原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果、当該研究の意義、問題点、残された課題について解説・討論を行う。</p>	
	衛生学・公衆衛生学 実験・実習	<p>衛生学・公衆衛生学の領域において必要とされる専門知識と技能を培うため、実データに基づいて実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学研究に際して求められる科学的な考え方について、疫学の系統的・応用的な知識や技術の学修を通じて具体的に理解する。 2. 作業仮説を立て、その仮説の正否を合理的に証明するにはどのような研究手法や要素（情報）が必要であるかについて、さらにそのために必要な実験手技や要素（情報）の収集方法について、実際の解析・検討の手法を理解するとともに実践する。 	
	衛生学・公衆衛生学 課題研究	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を活用し、各自が立案した研究計画に基づき以下を到達目標として衛生学・公衆衛生学分野に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	

専門科目 (主科目・副科目)	法医学 講義・演習	法医解剖を修得し、剖検例の死因究明について講義する。法医剖検例には、死因究明が困難である事例があり、病態の解明による診断の精度の向上が必要である。まずは、法医解剖の基礎である、手技および検査法（病理組織学的検査、分子生物学的検査、薬毒物検査等）を学び、検査データから死因を診断する過程を解説する。次に、法医剖検例でも診断に苦慮する若年者の突然死について、不整脈との関連性を中心に解説する。特に不整脈の病態については、遺伝子異常が指摘されており、分子生物学的解析の重要性を紹介する。さらに、薬物依存、特に覚醒剤依存症について、ヒトにおける脳および心臓における病態を紹介する。	
	法医学 実験・実習	法医剖検の診断および病態の解明に必要な実験方法の修得を目指す。 1. 病理組織学的検査 特に免疫組織学的染色による遺伝子発現の有無または程度について評価することを修得する。具体的には、酵素抗体法および蛍光抗体法の特徴を学び、目的に合った方法を選択し、手技を修得するものである。 2. 遺伝子の解析 法医剖検例でも見られる疾病または障害に関連する遺伝子は多数が知られているが、基本となる試料の採取、核酸の抽出、(リアルタイム)PCR検査について学ぶ。さらに、多数の遺伝子を解析するために、DNAマイクロアレイを修得する。	
	法医学 課題研究	講義・演習および実験・実習で修得した知識・技術等を応用し、以下を到達目標として剖検例における病態の解明に基づく死因究明を目的とした法医学分野に関する研究を行う。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	
	発生・遺伝学 講義・演習	自分が何に興味を持ち、これから何を学び何を研究すべきか、こうした問題に自ら答えが出せるようになることを目標とする。そのために、まず生命科学の基礎についての再学習を行い、そのうえで発生生物学と遺伝学についての基本的知識を修得する。そして、分子・遺伝子レベルにおける最先端の研究内容を理解するための鍵となるメカニズムや概念を学習する。 学習については、以下の3点を到達目標とする 1. 分子レベルでの細胞の増殖と分裂を理解する。 2. 受精から形態形成に至る動物の発生を遺伝子レベルで、その基本原理を理解する。 3. 分子遺伝学の基本と手法を学び、生体機能と発生メカニズムを理解する。	
	発生・遺伝学 実験・実習	研究活動を行うために必要不可欠な、研究の立案と実施、実験データの解析について学ぶとともに、これまで行われてきた先人達の研究成果を通して、研究における独創性と創造性を学ぶ。そのために、主に発生学と遺伝学に注目して、これらを遺伝子・分子レベルで解析した原著論文を精読し理解する。また、比較的小さな研究テーマについて自ら研究を立案して、実験の遂行から研究結果の発表までを行う。 以下の3点を到達目標とする 1. 最新の生命科学研究の原著論文の読解力と説明力、プレゼンテーション能力を養う。 2. 研究遂行のための、実験を計画し実施するスキルを修得する。 3. 実験データを解析する能力を身につける。	
	発生・遺伝学 課題研究	新規性があり、かつ独創性を含んだ研究計画を自ら立案し、これに沿った実験を実施し、所定の研究成果を得ることで、独立した研究者として研究活動を行う能力を養う。以下を到達目標とする。 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。	

	<p>生体物理工学 講義・演習</p>	<p>広い見地に立った研究を遂行できるよう、生物物理学、生体工学、放射線物理学において必要とされる専門知識と技能を培うことを基本方針とする。生体膜の構造・機能、生体工学の基礎と応用、放射線の性質と医学への応用について講義・演習を通じてこの分野の研究を進めるための基本的知識を学習する。</p> <p>生体工学の基礎的な工学的・生物学的・医学的考え方、先端医療技術について学習し、生体膜の物性や構造・機能について理解することを目標とする。また、放射線の発生メカニズム、物質との相互作用の素過程、放射線診断装置の作動原理などを学ぶ。</p> <p>また、生物物理学、生体工学、放射線物理学に関する最新の英語原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。</p>	
	<p>生体物理工学 実験・実習</p>	<p>生物物理学、生体工学、放射線物理学に関連した研究分野において適切な情報の収集と分析ができるようになることを基本方針とする。生物物理学、バイオメカニクス、生体材料、人工臓器に関連した分野の論文を読むことを通じて周辺知識の獲得を目指し、「生体工学」講義で扱うバイオメカニクスの構造計算等の実習を行なう。また、コンピュータを用いた計算手法を修得するとともに、医学をテーマにした放射線物理学関連の論文を理解できる知識、技法の獲得を目標とした実習を行う。</p>	
	<p>生体物理工学 課題研究</p>	<p>講義・演習および実験・実習で修得した知識・技能を元に、自ら設定した生物物理学、生体工学、放射線物理学に関連する研究計画に従って、以下を到達目標として研究を遂行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	
	<p>分子機能生化学 講義・演習</p>	<p>生体分子の機能を、物質輸送に関わる蛋白質を中心に講義する。生体内での物質輸送はATPの加水分解の自由エネルギーを用いて行われる、まずは、ATPの自由エネルギー、それによって行われる化学的な仕事について熱力学的に解説する。次に生体内でATPが関わるエネルギー変換として、プロトン濃度勾配からATPの化学エネルギーへのエネルギー変換（ATP生成）、筋肉によるATPの化学エネルギーから力学的エネルギーへの変換（ATP消費）を取り上げ、生物物理学的知見を含めて解説していく。また、蛋白質の機能を解析していく手法の代表的なものである速度論的な解析の方法、その方法を軸として、アミノ酸変異導入による蛋白質の機能の解析から明らかになったイオン輸送メカニズムについて紹介する。さらに、イオン輸送蛋白質などの機能調節を紹介する。さらにイオン輸送蛋白質の機能と生命活動をつないだ話題を紹介する。イオン輸送蛋白質の機能破綻により引き起こされる疾患、エネルギー変換酵素を用いた有用な分子やエネルギー獲得への応用を紹介する。</p>	
	<p>分子機能生化学 実験・実習</p>	<p>蛋白質の機能を様々なレベルで解析する上で必要な実験方法の修得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 速度論的測定による蛋白質分子の機能解析 蛋白質の機能解析方法として、反応速度論的方法を修得する。細胞や組織から調製した蛋白質分子の活性を様々なイオン環境、阻害剤の有無などの条件下で測定し、酵素反応のパラメータを決定する。さらに、反応パラメータからの反応機構の推定を行う。 2. 変異体導入による蛋白質内のアミノ酸の機能解析 蛋白質の機能をより詳細に解析するためには、特定のアミノ酸に変異を加えた変異体蛋白質を用いた解析を行うことが定石である。まず、変異体蛋白質を培養細胞あるいは酵母で発現させる手法を学び、次に、目的の変異体蛋白質を培養細胞あるいは酵母から調製し、蛋白質の反応速度論的解析を行い、特定のアミノ酸の機能を推定する。 3. 細胞内での蛋白質の機能解析 目的の蛋白質の細胞内で機能を解析するために、機能欠失体を含む様々な変異体蛋白質を発現させ、細胞機能への影響を観察する。細胞機能を観察するための手法を修得する。 	
	<p>分子機能生化学 課題研究</p>	<p>分子機能生化学 講義・演習および分子機能生化学 実験・実習で修得した知識・技能を元に、各自で立案した研究計画に従って以下を到達目標として研究を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. 正しく統計処理ができる。 3. 結果を科学的に図表にまとめられる。 4. 実験内容を正しく記載し記録できる。 5. 追加実験を自分で立案できる。 	

必修科目（主科目）	特別研究	<p>医学・生命科学の独立した研究者として必要となる科学的思考を養うため、学位論文作成を通じて、実現可能性や研究の意義・妥当性が十分に検討された研究計画の立案方法、研究結果を発表するためのプレゼンテーション方法、研究成果を原著論文にする手法を学ぶ。研究成果の報告は、論文作成の経過報告を行なう中間報告会のほか、学外の学会や研究会などでも行うことを目標とする。また、関連する領域の知識を得るために文献を調査し、該当する文献を熟読して理解力・洞察力を養う。これらを踏まえて学位論文の完成を目指す。</p> <p>(41. 千葉 厚郎) 臨床神経学、神経免疫学、神経生化学</p> <p>(5. 市川 弥生子) 臨床神経学、分子神経遺伝学、臨床遺伝</p> <p>(148. 宮崎 泰) パーキンソン病など神経変性疾患の臨床の解析とdisease-modifying therapyなど早期介入により有効な治療法および機能外科などに関する検討</p> <p>(4. 石井 晴之) 呼吸器内科一般 特にびまん性肺疾患（肺蛋白症、間質性肺炎）および胸部画像診断学</p> <p>(83. 血谷 健) 呼吸器内科一般 特に呼吸器感染症、びまん性肺疾患の病態生理</p> <p>(20. 要 伸也) 腎臓病および透析の各種病態の解析と治療法の開発：特に臨床研究ないし基礎病態モデルを用いた進行性腎障害・腎炎・血管炎の発症・進展メカニズム解明</p> <p>(30. 駒形 嘉紀) 自己免疫疾患発症に関わるT細胞と抑制性T細胞に関する研究、血管炎発症メカニズムに関する研究</p> <p>(75. 岸本 暢将) ASAS主導末梢性脊椎関節炎国際共同研究、乾癬性関節炎の治療薬開発、強直性脊椎炎の治療薬の開発</p> <p>(139. 福岡 利仁) 自己炎症疾患・血管運動浮腫の病態に関する研究、膠原病における補体遺伝子異常によるTMAの研究、関節リウマチの生物製剤を用いた寛解導入・維持療法の研究、高血圧症におけるRASの関与に関する研究、有機代謝産物としての腹膜透析液の有効利用、慢性腎臓病のミネラル代謝に関する研究、多職種連携による患者教育に関する研究</p> <p>(113. 川上 貴久) 自然免疫・炎症を標的とした慢性腎臓病・急性腎障害の病態解明と新規治療の開発</p> <p>(37. 副島 京子) 様々な不整脈に対するカテーテル治療。複雑な器質的心疾患に合併する心室頻拍に対するカテーテル治療、心房細動・頻拍の治療を3Dマッピング</p> <p>(32. 坂田 好美) 虚血性心疾患の病態解明と治療、心不全の病態評価</p> <p>(27. 河野 隆志) 多施設共同大規模レジストリを用いた、心不全の診療実態把握、アウトカム（予後）や医療の質評価</p> <p>(81. 金剛寺 謙) 重症下肢虚血（創傷治療と血流評価）、Multifunction CardioGram (MCG)</p> <p>(115. 合田 あゆみ) 運動中の肺循環応答に関する研究、心不全のレジストリー研究、循環器疾患における睡眠障害に関する研究</p> <p>(142. 松尾 征一郎) 不整脈・カテーテルアブレーション</p> <p>(38. 高山 信之) 造血器腫瘍に対する新たな造血幹細胞移植法の開発</p> <p>(82. 佐藤 範英) リンパ系腫瘍における予後因子の解析</p> <p>(52. 久松 理一) 炎症性腸疾患の病因解明、腸管免疫学、非特異性多発性小腸潰瘍症の病態解明</p> <p>(96. 松浦 稔) 消化器内視鏡学、炎症性腸疾患の病態解明</p> <p>(133. 土岐 真朗) 膵癌早期発見、胆道3Dナビゲーションを用いたERCP関連手技</p> <p>(64. 安田 和基) 糖尿病・内分泌・代謝疾患の成因と病態、治療</p>	
-----------	------	---	--

必修科目（主科目）	特別研究	<p>(118. 近藤 琢磨) 転写因子群を介した膵β細胞の機能調節とストレス反応、生活習慣病の成 因・病態・治療法の開発</p> <p>(45. 長島 文夫) 腫瘍内科学、老年腫瘍学、臨床薬理学”</p> <p>(26. 神崎 恒一) 老年医学、認知症、加齢性筋肉減少症（サルコペニア）、フレイル、動脈硬 化</p> <p>(72. 海老原 孝枝) 老年医学、認知症と誤嚥性肺炎・摂食嚥下障害のメカニズムに関する研究、 老年症候群とアロマセラピー</p> <p>(70. 渡邊 衡一郎) 臨床精神医学、臨床精神薬理学</p> <p>(132. 坪井 貴嗣) 精神科薬物療法を含めた治療の最適化、精神疾患のガイドラインの作成およ び普及</p> <p>(120. 櫻井 準) 臨床精神医学全般（特に気分障害）・精神科薬物療法</p> <p>(49. 成田 雅美) 小児科学、免疫学、小児アレルギー疾患発症予防</p> <p>(101. 吉野 浩) 小児の血液腫瘍疾患の治療抵抗性の解明</p> <p>(94. 保崎 明) 循環系の制御機構の解析</p> <p>(141. 細井 健一郎) 新生児呼吸器疾患</p> <p>(130. 田中 絵里子) 小児特発性ネフローゼ症候群の病態解明と治療法の開発、腎糸球体上皮細胞 （ポドサイト）の機能解析、小児腎疾患の発症に関与する免疫学的因子の解 明</p> <p>(140. 福原 大介) 小児科学、小児腎臓病学、小児膠原病学</p> <p>(2. 阿部 展次) 腹腔鏡/ロボット支援下胃切除術に関する臨床研究、内視鏡的胃全層切除術 に関する臨床研究、消化管腔内遊離癌細胞に関する基礎的・臨床的研究、 十二指腸腫瘍に対する新しい低侵襲治療法の確立、十二指腸腺腫・膵癌にお ける分子生物学的背景の解明、胃癌発生の分子生物学的検討</p> <p>(33. 阪本 良弘) 高齢者・ハイリスク患者に対する安全な肝胆膵外科手術、膵癌に対する集学 的治療、術前の予定残肝再生を利用した積極的肝切除、安全な腹腔鏡下肝切 除・膵切除の導入、3DシミュレーションやICG蛍光法を用いた系統的な肝切 除</p> <p>(36. 須並 英二) 大腸癌に対する低侵襲治療に関する臨床研究、ロボット支援下直腸癌手術に 関する臨床研究、直腸癌に対する集学的治療に関する研究、血液中遊離DNA の臨床応用、放射線化学療法効果に関する基礎的臨床的研究、大腸転移機序 に関する基礎的研究</p> <p>(84. 鈴木 裕) 膵切除術の合併症対策、嚢胞性膵腫瘍、肝内結石症、胆膵疾患の内視鏡治療 などにおける臨床研究</p> <p>(116. 吉敷 智和) 大腸癌の進展や分子標的治療の効果に影響する分子異常解析研究、Stage4大 腸癌予後予測因子研究、大腸癌血管新生関連因子解析研究、シミュレーショ ンモデルを利用した外科教育学研究</p> <p>(128. 竹内 弘久) 内視鏡治療器具の開発、早期胃癌における未分化型混在比率の病理学的定量 測定法の確立</p> <p>(53. 平野 浩一) 甲状腺外科、頭頸部腫瘍外科、機能温存手術</p> <p>(89. 田中 良太) 呼吸器外科学、肺癌の画像診断、外科教育、病理・細胞診断学、分子生物学</p> <p>(8. 井本 滋) センチネルリンパ節生検の臨床試験、宿主癌免疫動態の解明、バイオマー カーによる乳癌治療の個別化、ラジオ波焼灼治療による非切除治療の開発</p> <p>(103. 麻賀 創太) 乳癌の個別化治療、Liquid biopsyを用いた乳癌の早期診断と予後解析</p>	
-----------	------	---	--

必修科目（主科目）	特別研究	<p>(9. 浮山 越史) Hirschsprung病、新手術手技、悪性腫瘍、小児救急、性分化 (65. 山口 芳裕) 外科侵襲学、集団災害、特殊災害（NBCRE）、安全保障、重症外傷、中毒学 (109. 海田 賢彦) 熱傷、再生医療 (48. 永根 基雄) 悪性脳腫瘍の治療、化学療法、薬剤耐性、分子生物学、臨床試験 (47. 中富 浩文) 脳血管障害、良性脳腫瘍、頭蓋底疾患 (93. 野口 明男) 良性脳腫瘍、脳血管障害、認知症 (145. 丸山 啓介) 3次元コンピューターグラフィックスなどを駆使した脳血管障害・良性脳腫瘍に対する低侵襲・安全な治療 (23. 窪田 博) 成人心疾患の外科治療（虚血性心疾患、弁膜疾患など）、大血管疾患の外科治療（胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、大動脈解離など）、不整脈、特に心房細動の外科治療、肺塞栓症の外科治療 (57. 細井 温) 血管外科、静脈疾患、末梢血管の外科治療 (73. 遠藤 英仁) 成人心臓外科、大血管・虚血性心疾患・弁膜症・不整脈などの外科治療 (147. 峯岸 祥人) 成人心臓血管疾患の外科治療 (58. 細金 直文) 脊椎脊髄外科、脊柱変形、骨代謝 (62. 森井 健司) 骨軟部腫瘍の臨床的および基礎的研究 (79. 小寺 正純) 股関節疾患、小児運動器疾患、骨代謝 (126. 高橋 雅人) 脊椎脊髄病学、脊髄神経生理学、脊髄モニタリング、脊椎脊髄腫瘍、靭帯骨化症、脊柱変形 (16. 大山 学) 皮膚科一般、脱毛症、再生医学、幹細胞と皮膚疾患、水疱症、遺伝性疾患、皮膚付属器の免疫学、皮膚症状の画像解析 (60. 水川 良子) アレルギー性疾患、アトピー性皮膚炎、ウイルス感染症、膠原病、薬疹、皮膚生理機能、皮膚科一般 (117. 倉田 麻衣子) アレルギー性疾患、アトピー性皮膚炎、ウイルス感染症、薬疹、皮膚科一般 (39. 多久嶋 亮彦) 顔面神経麻痺、マイクロサージャリー、頭頸部再建外科 (12. 大浦 紀彦) 難治性潰瘍、褥瘡、熱傷、創傷治癒、微小循環 (19. 尾崎 峰) 顔面骨折（特に下顎骨骨折）や顎変形・顎強直症の治療、血管奇形に対する硬化剤の選択 (55. 福原 浩) 前立腺癌、ウイルス療法、腎癌、膀胱癌、尿路結石 (90. 多武保 光宏) 尿路結石、泌尿器悪性腫瘍 (17. 岡田 アナベル あやめ) 眼炎症や黄斑疾患の薬物療法 (67. 山田 昌和) ドライアイなどの角結膜疾患、角結膜疾患のバイオマーカーの探索、臨床疫学研究・多施設共同研究、医療経済の分析 (6. 井上 真) 小切開硝子体手術、画像診断 (25. 慶野 博) ぶどう膜炎の病因解明と新規治療法の開発 (80. 厚東 隆志) 網膜硝子体疾患の手術治療、小切開硝子体手術、眼内広角観察システム</p>	
-----------	------	---	--

必修科目（主科目）	特別研究	<p>(76. 北 善幸) 緑内障の画像診断 (138. 廣田 和成) さまざまなタイプの網膜剥離の治癒率向上 (124. 鈴木 由美) 弱視斜視治療・小児眼瞼疾患 (143. 松木 奈央子) 水晶体疾患、白内障手術 (105. 石田 友香) 網膜疾患の画像診断、網膜硝子体手術 (110. 片岡 恵子) 網膜硝子体、黄斑疾患 (31. 齋藤 康一郎) 喉頭科学、音声言語医学 (99. 横井 秀格) 内視鏡下鼻副鼻腔手術、内視鏡下頭蓋底手術、アレルギー性鼻炎や慢性副鼻腔炎の病態と治療に関する基礎的検討（マスト細胞、好酸球、神経増殖・反発因子）他 (95. 増田 正次) 中耳・内耳解剖、老人性難聴、変動性難聴、急性感音難聴の病態生理、蝸牛外側壁（血管条、らせん靭帯）に関わる基礎実験 (104. 池田 哲也) 口腔粘膜疾患、顎関節症、EBウイルス、舌痛症、有病者の抜歯 (29. 小林 陽一) 子宮内膜症とその癌化の病態、間質細胞と癌浸潤の関連性、メラトニンと婦人科腫瘍 (40. 谷垣 伸治) 周産期医学 (88. 田嶋 敦) 周産期医学、遺伝性疾患 (97. 森定 徹) がん予防としての子宮頸がん検診、婦人科癌リンパ行性転移の分子機構 (144. 松本 浩範) ロボット手術の安全性や技術の向上 (149. 百村 麻衣) 閉経後女性の超音波所見における子宮内膜の肥厚と子宮体癌との関連について (68. 横山 健一) 放射線診断全般 (85. 須山 淳平) 核医学 (111. 片瀬 七朗) 放射線診断全般 (108. 小野澤 志郎) 抗がん剤灌流療法、IVRにおける遠隔医療、塞栓物質 (11. 江原 威) 放射線治療全般 (44. 戸成 綾子) 腫瘍放射線治療、緩和ケア治療 (69. 萬 知子) CVC安全管理、カテーテル関連血流感染症予防、医学教育、シミュレーション教育 (43. 徳嶺 譲芳) 超音波ガイド下中心静脈穿刺の教育および安全管理、輪状甲状間膜穿刺を含む緊急気道確保 (63. 森山 潔) 急性肺傷害、敗血症治療、肺高血圧、酸素療法シミュレーション (92. 中澤 春政) 敗血症および重症熱傷に対する分子標的治療 (86. 関 博志) 周術期医学、術後疼痛管理、術中気道管理 (59. 松田 剛明) バクテリオファージの臨床応用 (50. 長谷川 浩) 高齢者救急およびフレイル・認知症の研究 (18. 岡本 晋) 炎症性腸疾患の病態解明と新たな治療法の開発 (24. 倉井 大輔) マイコプラズマ感染症の病態に関する研究 (91. 徳永 健吾) ピロリ菌が関与する生活習慣病の病態解明 (54. 平野 照之) 脳梗塞の急性期画像診断に基づく治療法の開発、虚血性脳卒中に対する抗血栓療法最適化、遺伝性脳卒中の病態解明</p>
-----------	------	--

必修科目（主科目）	特別研究	<p>(71. 海野 佳子) 頭痛を呈する脳卒中の病態解析、臨床指標に基づく脳卒中診療の最適化に関する研究</p> <p>(114. 河野 浩之) 脳卒中の治療と画像診断</p> <p>(66. 山田 深) 日常生活動作評価尺度、軌道上での効率的・効果的運動、微小重力環境下での歩行動作解析、国際生活機能分類</p> <p>(129. 田代 祥一) 経頭蓋交流電気刺激の脳卒中リハへの応用、慢性期脳卒中に対するニューロリハ、慢性期脊髄損傷に対する再生リハ、最重度末梢神経障害に対する装具療法、災害と嚙下機能</p> <p>(15. 大西 宏明) 悪性腫瘍における遺伝子異常、非定型抗酸菌の遺伝子解析、安全な採血法の確立</p> <p>(46. 長瀬 美樹) 解剖学、臨床解剖学、イメージング、分子細胞生物学、腎臓病学</p> <p>(106. 上野 仁之) 腎糸球体ポドサイトの形態学的研究</p> <p>(107. 大石 篤郎) G蛋白質共役型受容体のシグナル解析、Orphan受容体の解析、新規バイオセンサーの開発、特定の状況における糖代謝について</p> <p>(1. 秋元 義弘) 糖尿病におけるタンパク質のO-GlcNAc化の解析、細胞外マトリックスの組織細胞化学的検討、皮膚の発生における Homeobox 遺伝子の機能解析、プラズマ照射による組織・細胞への影響の分子形態学的解析</p> <p>(78. 宮東 昭彦) 精巣の精細管精上皮周期の加齢による変化、下垂体前葉におけるホルモン分泌細胞の動態、組織細胞化学分野におけるデジタル画像解析手法の適用</p> <p>(13. 大木 紫) ヒトの脊髄神経回路への可塑的变化誘導、運動意識に関わる脳活動</p> <p>(98. 八木 淳一) 痛覚情報の受容と符号化のメカニズム</p> <p>(121. 渋谷 賢) 身体性自己意識に関する研究、頸髄症患者の到達保持運動に関する研究、多種感覚統合による脳内身体表現に関する研究、腕到達運動に伴う空間的注意の変化に関する研究</p> <p>(134. 中島 剛) 運動調節に関わる脊髄神経機構とその可塑性について</p> <p>(42. 寺尾 安生) 非侵襲的な方法を用いたヒトの正常の脳機能解析およびこれを応用した神経疾患の病態解析に関する研究</p> <p>(146. 三嶋 竜弥) シナプス伝達におけるSyntaxin 1A/HPC-1、syntaxin 1Bの生理機能の解析、シンタキシン1Bの機能欠損によるてんかん発症メカニズムの解析</p> <p>(28. 後藤田 貴也) メタボリックシンドロームとその関連病態（糖尿病、脂質異常症、高血圧症、肥満症）の遺伝素因の解明</p> <p>(131. 田原 義和) イオンポンプによるATP加水分解と共役したイオンの膜輸送を、分子構造やエネルギーの観点から理解すること</p> <p>(7. 今泉 美佳) 細胞生物学、開口放出機構の分子機構</p> <p>(102. 青柳 共太) インスリン分泌の分子機構、極性分泌の分子機構</p> <p>(34. 櫻井 裕之) 腎臓発生のメカニズム、腎尿管上皮の細胞生物学、再生医学、癌の浸潤、尿酸トランスポーター</p> <p>(35. 柴原 純二) 消化器の病理、脳腫瘍の病理</p> <p>(56. 藤原 正親) 肺癌の病理</p> <p>(122. 下山田 博明) 血管内皮増殖因子(VEGF)の作用機序を応用した肺癌や悪性中皮腫の治療法の開発</p> <p>(135. 長濱 清隆) 非腫瘍性腎疾患の病理</p> <p>(136. 林 玲匡) 肝胆膵領域腫瘍（特に膵癌）の組織形態学および分子遺伝学的検索</p> <p>(61. 三戸部 治郎) 細菌学、分子微生物学</p> <p>(14. 大崎 敬子) ヘリコバクター・ピロリの病原性に関する研究、常在細菌叢の解析とその役割について</p> <p>(51. 花輪 智子) 百日咳菌バイオフィルム関連病原因子の役割とその発現制御</p>	
-----------	------	--	--

<p style="text-align: center;">必修科目 (主科目)</p>		<p>(21. 苅田 香苗) 環境諸因子のバイオリジカルモニタリングと健康影響評価 (100. 吉田 正雄) 生活習慣病のリスクファクターや抗加齢医学に関する臨床疫学研究 (119. 櫻井 拓也) 運動分子生物学、脂肪細胞と酸化ストレス (22. 北村 修) 法医病理学、薬物依存 (77. 桐生 京佳) 法医病理学、ショック等の病態生理学 (125. 高篠 智) 肉眼解剖における変異の研究、脳ヘルニアにおける脳幹部の免疫組織化学的研究、心臓の刺激伝導系における免疫組織化学的研究、Embalming(エンバールミング) (3. 栗崎 健) ショウジョウバエ脳神経組織をモデル実験系に用いた神経幹細胞の発生・分化と神経回路進化の関係性の解析および神経-グリア相互作用の基本原理の解析 (137. 平井 和之) 受精期における染色体DNA複製および染色体分配機構 (112. 加藤 健太郎) ショウジョウバエ中枢神経系をモデルとして、 (1) 損傷応答におけるグリア細胞の役割とその細胞・分子基盤 (2) グリア細胞の発生 (87. 高原 哲士) 原子核構造の理論的研究、生物物理学の理論的研究 (74. 大谷 宗久) 核子および中間子の性質や構造に関する理論的研究、カイラル対称性と質量起源に関する理論的研究 (10. 丑丸 真) 骨格筋小胞体Ca²⁺-ATPaseのCa²⁺輸送のエネルギー論、イオン輸送ATPaseのイオン選択性原理 (150. 山本 幸子) 骨格筋小胞体Ca²⁺-ATPaseのCa²⁺輸送機構の解析 (123. 須賀 圭) 神経科学の分野におけるSyntaxinファミリー分子とCa²⁺-ATPaseの構造とそれらの生理的役割および神経変性疾患発症機構における役割の解明</p>	
---	--	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">必修科目 (副科目)</p>	<p>医学研究講義 I</p>	<p>医科学研究を実施するためには専門的な知識・技能だけではなく、医科学共通の基本的な事項を理解して研究に臨む必要がある。高い倫理観を持って研究を実施するための基本的な倫理教育、安全かつ正確に研究を進めるための薬品の使用・管理方法、機器の使用法、情報収集と分析法を学ぶための医学文献収集管理の技術、統計解析法などの講義を行い、医科学研究を行うための基礎的知識を修得する。 (オムニバス方式／全30回)</p> <p>(2. 阿部 展次／1回) 論文執筆法 (7. 今泉 美佳／1回) 研究成果発表のための技術 (10. 丑丸 眞／1回) 薬物・薬品管理の基本 (11. 江原 威／1回) 放射線治療の基礎と臨床 (13. 大木 紫／1回) 身体意識と機能回復 (15. 大西 宏明／1回) がんの分子生物学と臨床検査 (21. 苅田 香苗／3回) 医学研究の倫理、疫学研究の基礎、疫学研究の実践 (30. 駒形 嘉紀／1回) 自己免疫疾患発症のメカニズム (34. 櫻井 裕之／2回) 質量分析計を用いたタンパク質解析 (42. 寺尾 安生／1回) 非侵襲的脳機能計測法の臨床への応用 (45. 長島 文夫／1回) 超高齢社会におけるがん診療、がん死亡率増加は食い止められるのか (46. 長瀬 美樹／1回) 分子細胞生物学研究と解剖体研究の実際 (48. 永根 基雄／1回) 動物実験に関する基本的事項 (74. 大谷 宗久／2回) 基礎統計学1、基礎統計学2 (78. 宮東 昭彦／2回) 実験データのデジタル画像処理・解析、形態学的研究法 (83. 皿谷 健／1回) 英文でのCase reportの書き方 (102. 青柳 共太／1回) 遺伝子の単離とその機能の解析 (119. 櫻井 拓也／1回) 慢性炎症性疾患－肥満症－ (127. 高橋 良／1回) フローサイトメトリーの基礎と応用 (136. 林 玲匡／1回) がんの生物学と病理学 (146. 三嶋 竜弥／1回) 遺伝子組み換えマウスの作成と解析 (152. 小藤 剛史／1回) 放射線の基礎と医学研究への応用 (157. 高木 晴良／4回) SPSSを用いた統計解析法(基礎1)、SPSSを用いた統計解析法(基礎2)、 SPSSを用いた統計解析法(応用1)、SPSSを用いた統計解析法(応用2)</p>	<p>オムニバス方式</p>
---	-----------------	--	----------------

<p style="text-align: center;">必修科目 (副科目)</p>	<p>医学研究講義Ⅱ</p>	<p>医学研究を実施するには専門分野に関する高度な知識を修得することは必須であるが、専門分野外の専門知識に触れることで、自身の研究に新たな知見やヒントがもたらされることがある。本講義では基礎・臨床を問わず様々な分野の教員を講師とし、各教員の専門分野に関する基本的な知識や最新のトピックスに関する講義を行い、専門分野外に関する知識や研究手法などを学ぶことで、自身の研究がより発展的なものとなることを目標とする。 (オムニバス方式／全15回)</p> <p>(25. 慶野 博／1回) 全身性炎症性疾患と眼炎症疾患との接点 (58. 細金 直文／1回) 成人脊柱変形の最近の知見 (71. 海野 佳子／1回) 脳梗塞治療の進歩と今後の展望 (99. 横井 秀格／1回) アレルギー性鼻炎の病態と神経原性炎症 (100. 吉田 正雄／1回) 生活習慣病の疫学 (103. 麻賀 創太／1回) 遺伝性乳癌卵巣癌症候群の最新情報 (113. 川上 貴久／1回) 多様なマクロファージ ～全身ではたらくユーティリティープレーヤー～ (116. 吉敷 智和／1回) 大腸癌治療の変遷と手術教育について (123. 須賀 圭／1回) 分子レベルから探る細胞内ストレス応答と神経変性疾患の関連 (137. 平井 和之／1回) 受精卵における染色体DNA複製と有糸分裂 (151. 内堀 歩／1回) 神経免疫疾患と抗神経抗体～Guillain-Barre症候群を中心に～ (153. 末弘 淳一／1回) 血管生物学分野における最新の知見 (154. 寺田 さとみ／1回) 神経疾患における生理学的評価 (155. 三好 潤／1回) 腸管微生物叢と宿主の健康・疾病 (156. 山本 隆史／1回) メタボリックシンドロームと遺伝素因</p>	<p>オムニバス方式</p>
---	----------------	---	----------------

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨および当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

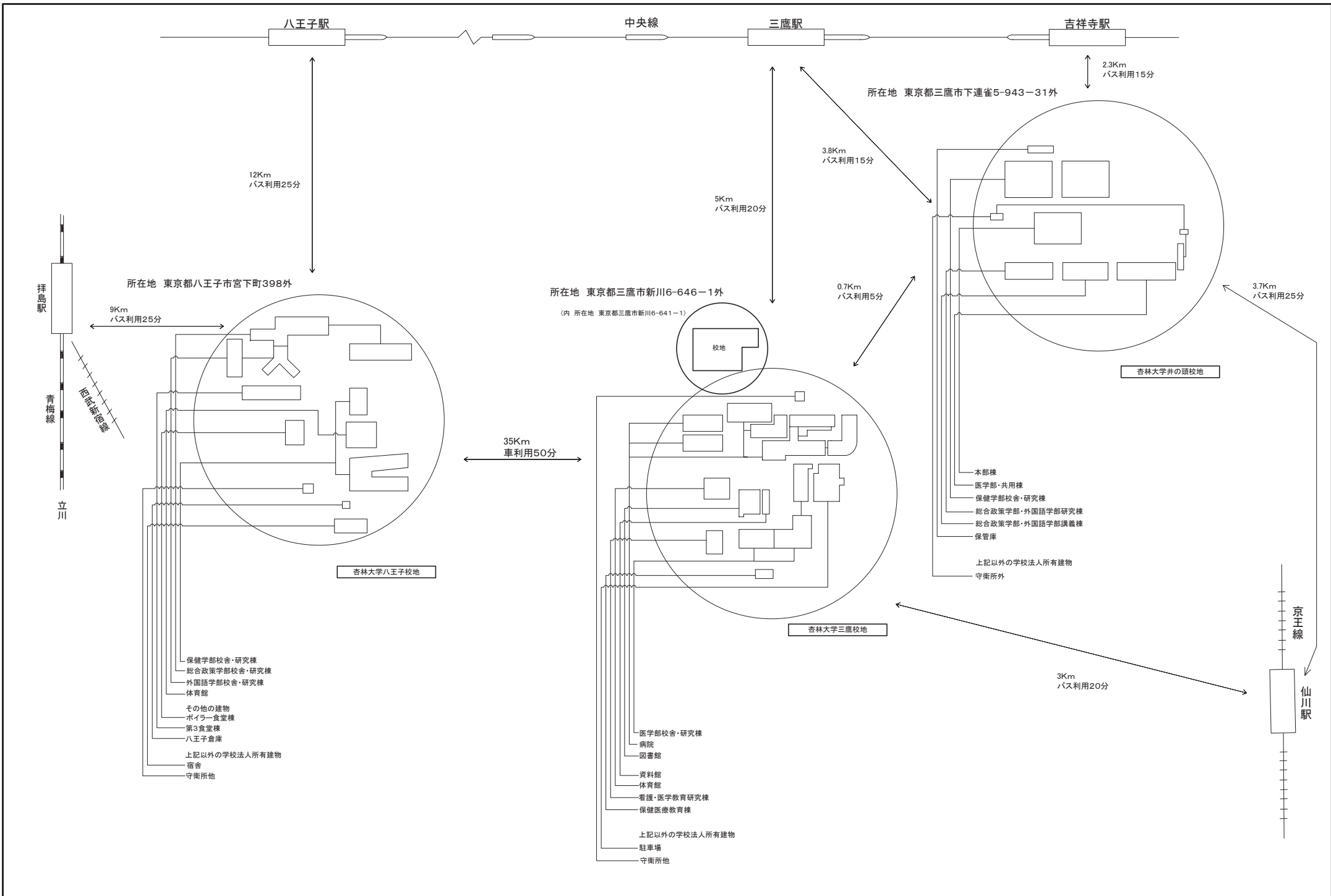
学校法人杏林学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更事由
杏林大学					杏林大学				
医学部					医学部				
医学科	115	-	698	→	医学科	<u>105</u>	-	<u>650</u>	臨時収容定員増のための変更届出済み
保健学部					保健学部				
臨床検査技術学科	120	-	480	→	臨床検査技術学科	120	-	480	
健康福祉学科	50	-	200	→	健康福祉学科	<u>120</u>	-	<u>480</u>	収容定員増(令和3年3月認可申請中)
看護学科	150	-	600	→	看護学科	150	-	600	
看護学専攻	(100)	-	(400)		看護学専攻	(100)	-	(400)	
看護養護教育学専攻	(50)	-	(200)		看護養護教育学専攻	(50)	-	(200)	
臨床工学科	60	-	240	→	臨床工学科	60	-	240	
救急救命学科	50	-	200	→	救急救命学科	50	-	200	
理学療法学科	56	-	224	→	理学療法学科	56	-	224	
作業療法学科	54	-	216	→	作業療法学科	54	-	216	
診療放射線技術学科	66	-	264	→	診療放射線技術学科	66	-	264	
臨床心理学科	80	-	320	→	臨床心理学科	80	-	320	
外国語学部					外国語学部				
英語学科	130	3年次 4	528	→	英語学科	130	3年次 4	528	
中国語学科	30	3年次 5	130	→	中国語学科	<u>32</u>	<u>3年次 2</u>	<u>132</u>	収容定員変更(令和3年3月認可申請中)
観光交流文化学科	90	3年次 3	366	→	観光交流文化学科	90	<u>3年次 2</u>	<u>364</u>	収容定員変更(令和3年3月認可申請中)
総合政策学部					総合政策学部				
総合政策学科	150	3年次 3	606	→	総合政策学科	150	<u>3年次 4</u>	<u>608</u>	収容定員変更(令和3年3月認可申請中)
企業経営学科	80	3年次 3	326	→	企業経営学科	80	<u>3年次 2</u>	<u>324</u>	収容定員変更(令和3年3月認可申請中)
計	1281	3年次 18	5398		計	<u>1343</u>	<u>3年次 14</u>	<u>5630</u>	
杏林大学大学院					杏林大学大学院				
医学研究科					医学研究科				
生理系専攻 (博士課程)	4	-	16	→	生理系専攻 (博士課程)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
病理系専攻 (博士課程)	3	-	12	→	病理系専攻 (博士課程)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
社会医学系専攻 (博士課程)	3	-	12	→	社会医学系専攻 (博士課程)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
内科系専攻 (博士課程)	12	-	48	→	内科系専攻 (博士課程)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
外科系専攻 (博士課程)	12	-	48	→	外科系専攻 (博士課程)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
				→	医学専攻 (博士課程)	<u>25</u>	-	<u>100</u>	専攻の設置、収容定員の変更 (令和3年6月届出)
保健学研究科					保健学研究科				
保健学専攻 (博士前期課程)	7	-	14	→	保健学専攻 (博士前期課程)	7	-	14	
看護学専攻 (博士前期課程)	7	-	14	→	看護学専攻 (博士前期課程)	2	-	4	収容定員の変更 (令和3年6月届出)
					臨床心理学専攻 (博士前期課程)	<u>25</u>	-	<u>50</u>	専攻の設置 (令和3年6月届出)
保健学専攻 (博士後期課程)	4	-	12	→	保健学専攻 (博士後期課程)	4	-	12	
看護学専攻 (博士後期課程)	2	-	6	→	看護学専攻 (博士後期課程)	1	-	3	収容定員の変更 (令和3年6月届出)
国際協力研究科					国際協力研究科				
国際開発専攻 (博士前期課程)	10	-	20	→	国際開発専攻 (博士前期課程)	<u>6</u>	-	<u>12</u>	収容定員の変更 (令和3年6月届出)
国際医療協力専攻 (博士前期課程)	6	-	12	→	国際医療協力専攻 (博士前期課程)	4	-	8	収容定員の変更 (令和3年6月届出)
グローバル・コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	24	-	48	→	グローバル・コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	<u>10</u>	-	<u>20</u>	収容定員の変更 (令和3年6月届出)
開発問題専攻 (博士後期課程)	10	-	30	→	開発問題専攻 (博士後期課程)	<u>5</u>	-	<u>15</u>	収容定員の変更 (令和3年6月届出)
計	104	-	292		計	<u>89</u>	-	<u>238</u>	

都道府県内における位置関係を示す図面

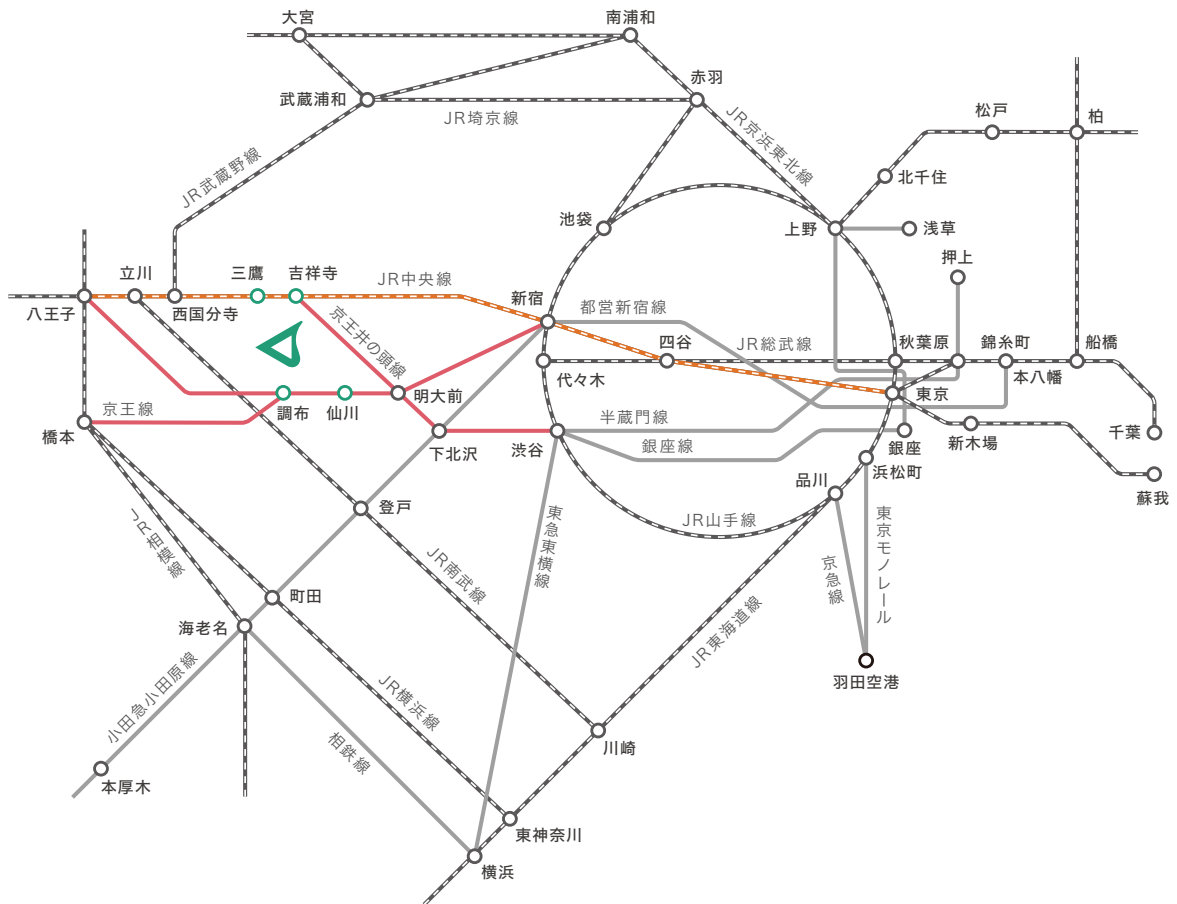


学校の位置及び校地、校舎の配置図の概要



BY TRAIN

最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



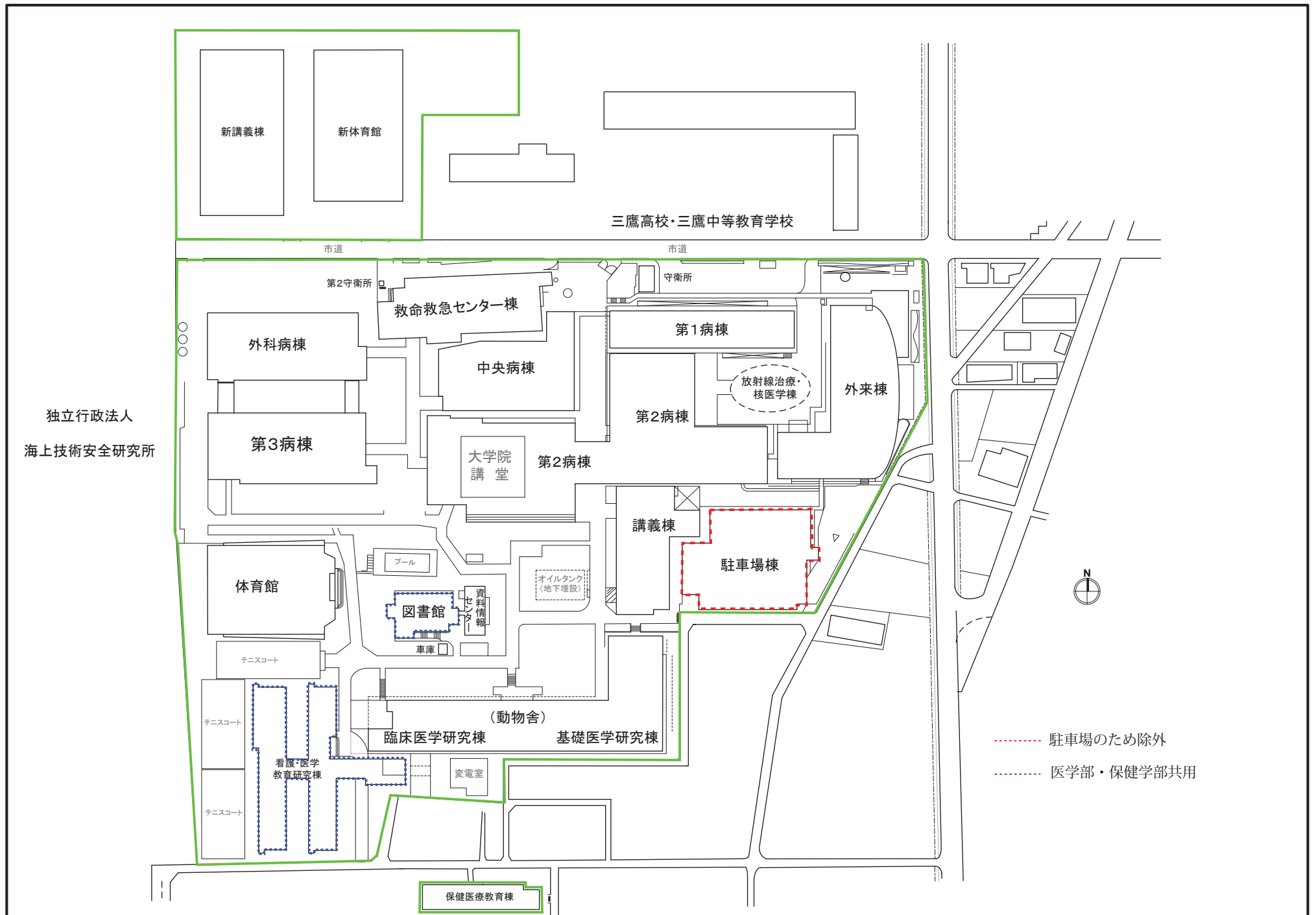
 <http://www.kyorin-u.ac.jp>

 杏林大学 Kyorin University

 @kyorin_univ

三鷹校地及び建物配置図

三鷹市新川6丁目646番1外
73,053.42㎡(敷地)



○杏林大学大学院学則

制定	昭和51年	4月	1日			
改正	昭和54年	4月	1日	昭和57年	4月	1日
	昭和59年	4月	1日	昭和61年	3月	18日
	平成3年	1月	30日	平成4年	10月	26日
	平成6年	1月	24日	平成7年	3月	16日
	平成7年	3月	27日	平成7年	9月	28日
	平成8年	10月	23日	平成10年	3月	27日
	平成11年	2月	15日	平成11年	6月	21日
	平成11年	9月	20日	平成12年	9月	18日
	平成13年	3月	29日	平成13年	6月	28日
	平成14年	2月	26日	平成14年	3月	29日
	平成14年	4月	25日	平成15年	2月	17日
	平成15年	10月	20日	平成16年	3月	26日
	平成16年	12月	8日	平成17年	10月	26日
	平成18年	3月	29日	平成18年	12月	8日
	平成19年	3月	29日	平成19年	9月	10日
	平成20年	3月	28日	平成21年	10月	26日
	平成21年	12月	3日	平成22年	12月	3日
	平成23年	5月	27日	平成23年	12月	2日
	平成24年	3月	30日	平成24年	12月	7日
	平成25年	5月	24日	平成25年	7月	22日
	平成26年	2月	17日	平成27年	3月	27日
	平成28年	3月	25日	平成29年	3月	24日
	平成30年	12月	7日	平成31年	3月	29日
	令和2年	9月	25日	令和3年	3月	26日
	令和3年	5月	28日			

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この学則は、杏林大学学則（以下「本学学則」という。）第4条の規定に基づき、杏林大学大学院（以下「大学院」という。）に関し必要な事項を定める。

（目的）

第2条 大学院は、大学建学の精神に則り、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、優れた研究者及び高度専門職業人を養成することにより、文化の進展に寄与することを目的とする。

（自己評価等）

第2条の2 大学院は、その教育水準の向上を図り前条の目的及び使命を達成するため、大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制については別に定める。

（研究科）

第3条 大学院に医学研究科、保健学研究科及び国際協力研究科を設け、医学研究科、保健学研究科及び国際協力研究科にそれぞれ博士課程を置く。

2 医学研究科博士課程の標準修業年限は4年とする。

3 保健学研究科及び国際協力研究科の標準修業年限は5年とし、これを博士前期課程（2年）及び博士後期課程（3年）に区分し、前者を修士課程として取扱うもの

第3類（杏林大学大学院学則）

とする。（以下「前期課程」という。）

- 4 前項の規定にかかわらず、前期課程においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であって、教育研究上の必要があり、かつ、昼間と併せて夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を1年以上2年未満の期間とすることができる。
- 5 博士後期課程及び医学研究科博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又は、その他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
- 6 前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

（専攻）

第4条 医学研究科、保健学研究科及び国際協力研究科にそれぞれ次の専攻を置く。

医学研究科

医学専攻

保健学研究科

保健学専攻

看護学専攻

臨床心理学専攻

国際協力研究科

国際開発専攻

国際医療協力専攻

グローバル・コミュニケーション専攻

開発問題専攻

（研究科又は専攻の目的）

第4条の2 研究科又は専攻ごとの人材の養成その他の教育研究上の目的については、次のとおりとする。

2 医学研究科

医学研究科は、科学的な問題解決能力を備える臨床医、旺盛な創造性を持つ基礎医学・生命科学の研究者、社会医学に貢献する有為な人材等豊かな人間性と倫理観・使命感にあふれる医療人の養成を目的とする。

3 保健学研究科

保健学研究科は、保健、医療、看護、福祉及び心理の専門分野において、広い視野と豊かな学識を有し、専門性の高い業務を遂行する人材、並びに研究能力を有する人材を養成することを目的とする。

- (1) 保健学専攻前期課程は、学部教育や職業経験により培った知識・技術をさらに高め、専門職としての卓越した判断力と実践力、および指導力とマネジメント能力を持った高度専門職業人の養成を目的とする。
- (2) 看護学専攻前期課程は、学部教育や職業経験により培った知識・技術をさらに深め、卓越した看護実践力、および指導力とマネジメント能力を持った看護師・保健師・助産師を養成する。また、「がん看護」「クリティカルケア看護」「精神看

第3類（杏林大学大学院学則）

護」に関する専門看護師、感染管理や医療安全管理の指導者の養成を目的とする。

- (3) 臨床心理学専攻前期課程は、心理に関する支援を要する者とその関係者に対して、心理状態の観察、結果の分析、心理に関する相談及び助言、指導その他の支援といった、ニーズに応じた支援を提供できる人材を養成する。また、心理的支援を要する者やそれを取り巻く環境に対して、心の健康に関する知識を普及するための教育ができる人材の育成を目的とする。
- (4) 保健学専攻博士後期課程は、前期課程で培われた専門能力と識見、科学的な思考力をさらに深化させて、学問的基盤を確立するとともに、学際的・国際的な視野に立って諸課題を探究できる研究・教育者の養成を目的とする。
- (5) 看護学専攻博士後期課程は、現代社会における看護・保健領域の複雑かつ多様な看護ニーズに応えるために、前期課程で培われた看護学の専門能力と識見、看護感性をさらに深化させて、学問的基盤を確立するとともに、学際的・国際的な視野に立って諸課題を探究できる研究・教育者の養成を目的とする。

4 国際協力研究科

国際協力研究科は、国際社会において発生する様々な課題を、法律、政治、経済、経営、文化交流、言語、医療、保健衛生、福祉など多くの側面から学際的に把握し、理論的かつ実証的に問題を分析して的確に処理できるような人材を育成し、国際社会に対する支援・協力を推進することを目的とする。

- (1) 国際開発専攻は、世界諸地域の経済社会の発展に資するための開発及び国際協力のあるべき方法・施策を社会科学諸分野にわたり、理論的・実証的に究明するとともに、わが国の政治・経済・経営及び法律・税務の各専門領域について考究し、これらを通じて必要な専門知識の修得はもとより関連分野にも通曉し、実務にも対応できる人材の養成を目的とする。
- (2) 国際医療協力専攻は、世界諸地域に対する保健医療福祉分野の国際協力に必要な幅広い知識と高度な理論を身に付け、国際社会での実践活動に貢献すると共に、問題解決に向け自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を活かすことのできる人材の養成を目的とする。
- (3) グローバル・コミュニケーション専攻は、わが国を取り巻く国際社会及び、国内で進む多文化共生社会にあって、互いの文化・言語・社会に対する理解の欠如等に起因する諸問題解決のため、異文化間コミュニケーションの専門分野に熟達し、理論と実践、複眼的視座からの深い知見と洞察力をもとに、国内外でこの分野の先導的な役割を担って活躍しうる優れた研究者、及び高度専門職業人に必要な諸技能を身につけた人材の養成を目的とする。
- (4) 開発問題専攻は、国際協力の実践場面で、あるいはその研究分野で、各専門領域の知識と技能を修めた高度な専門家として活躍できる、有用な人材の養成を目的とする。

(研究指導及び授業)

第5条 研究科における研究の指導及び授業は、原則として本学の教授が担当する。ただし、必要があるときは教授以外の者に分担させることができる。

(研究科長)

第6条 各研究科に研究科長を置く。

第3類（杏林大学大学院学則）

2 研究科長は教授の兼務とし、学長の推薦に基づき、学園の理事会の議を経て、学園の理事長が任命し、その任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

3 研究科長は、その研究科に関する事項を掌理する。

（教務担当）

第6条の2 研究科又は専攻ごとに教務担当を置く。

2 教務担当は教授の兼務とし、研究科長の推薦に基づき、学園の運営審議会の議を経て、学長が任命し、その任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

3 教務担当は、所属する研究科又は専攻の教務に関する事項を掌る。

第2章 運営組織

（大学院委員会及び研究科委員会）

第7条 大学院及び研究科を管理運営するために、大学院委員会及び研究科委員会を置く。

（大学院委員会の組織）

第8条 大学院委員会は学長、副学長、各研究科委員長及び各研究科委員から選ばれた若干名の委員をもって組織する。

2 大学院委員会の委員長は学長とする。

（大学院委員会の職務）

第9条 大学院委員会は次の事項を審議する。

（1）大学院の運営に関する事項

（2）大学院の組織に関する事項

（3）その他大学院に関する重要事項

（研究科委員会の組織）

第10条 各研究科に研究科委員会を置く。

2 各研究科委員会は大学院各研究科の教授をもって組織する。ただし、必要ある場合は関係の准教授・講師を加えることができる。

3 研究科委員会の委員長は研究科長とする。

（研究科委員会の職務）

第11条 研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

（1）学生の入学、卒業及び課程の修了

（2）学位の授与

（3）第1号及び第2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 研究科委員会は、前項に規定するもののほか、学長及び研究科長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（1）教育及び研究に関する事項

（2）教員人事に関する事項

（3）学生に関する事項

（4）学長等の諮問に関する事項

3 学園長、学長、副学長は各研究科委員会に出席し意見を述べるができる。

第3類（杏林大学大学院学則）

第12条 大学院委員会及び各研究科委員会に関する細則は別に定める。

第3章 在学年限及び学生定員

（在学年限）

第13条 同一研究科に在学し得る最長年限は、前期課程においては4年、博士後期課程においては6年、医学研究科においては8年とする。

（学生定員）

第14条 研究科専攻別学生定員は、次のとおりとする。

研究科名	専攻	博士課程		博士前期課程		博士後期課程		備考
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
医学研究科	医学	25	100					
	計	25	100					
保健学研究科	保健学			7	14	4	12	
	看護学			2	4	1	3	
	臨床心理学			25	50			
	計			34	68	5	15	
国際協力研究科	国際開発			6	12			
	国際医療協力			4	8			
	グローバル・コミュニケーション			10	20			
	開発問題					5	15	
	計			20	40	5	15	

第4章 学年、学期及び休業日

（学年）

第15条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。ただし、秋学期入学者は9月15日に始まり、翌年9月14日に終わる。

（学期）

第16条 学年を分けて前期又は春学期、後期又は秋学期の2学期とする。

2 前項の学期の呼称及び期間は、各研究科において定める。

（休業日）

第17条 休業日は次のとおりとする。ただし、第4号から第6号の休業期間の始期及び終期は、年度ごとに学長が定める。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に定めた祝日
- (3) 杏林学園創立記念日 11月11日
- (4) 春季休業
- (5) 夏季休業

第3類（杏林大学大学院学則）

（6）冬季休業

- 2 学長は、必要により臨時に休業日を設け、又は休業日を授業日に変更することができる。

第5章 授業科目、単位及び履修方法

（授業科目）

- 第18条** 研究科における授業科目及び単位については、別表1-1、1-2、1-3、1-4、2-1、2-2、2-3、3-1及び3-2のとおりとする。

（指導教授）

- 第19条** 入学を許可された者には、専攻課程に従って、それぞれ指導教授を定める。

- 2 指導教授は、必要に応じて2人以上とすることができる。

- 第20条** 学生は指導教授の指示をうけ、指定された期日までに履修計画を研究科長に提出しなければならない。

- 第21条** 研究科の授業科目は、主科目、及び副科目とする。

（履修の方法）

- 第22条** 教育課程及び履修方法の細部については、各研究科において定める。

- 2 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、予め協議の上、本学の他研究科又は他大学の大学院等の授業科目を履修させることができ、15単位を超えない範囲で本学各研究科において履修したものとみなすことができる。

- 3 学生が本学入学前に他の大学院において履修した授業科目の単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を、15単位を超えない範囲で本学において履修したものとみなすことができる。

- 4 前2項の規定により認定できる単位数は合わせて20単位を超えないものとし、当該単位数と修得に要した期間等を勘案して、1年を超えない範囲で本学の在学期間として算入することができる。ただし、博士後期課程の在学期間には適用しないものとする。

（教育方法の特例）

- 第22条の2** 各研究科において、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

- 2 文部科学大臣が別に定めるところ（平成13年文部科学省告示第51号）により、授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

（科目履修の認定）

- 第23条** 学科目の履修の認定は、学期末又は学年末に試験又は研究報告によって行い、その方法は学科目担当教授が定める。

- 2 試験又は研究報告の成績は、S（90点以上～100点）、A（80点以上～90点未満）、B（70点以上～80点未満）、C（60点以上～70点未満）、D（60点未満）の5種とし、SABCを合格、Dを不合格とする。

（単位の認定）

- 第24条** 合格した学科目については、所定の単位を与える。

- 2 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする

第3類（杏林大学大学院学則）

内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、毎週1時間から2時間15週の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、毎週2時間から3時間15週の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前各号に規定する基準を考慮して1単位とする。

(再試験・追試験)

第25条 不合格の学科目については、再試験を行うことがある。病気その他やむを得ない事由により、正規の試験を受けることができなかつた者については、追試験を行うことがある。

第6章 課程の修了要件

(前期課程の修了要件)

第26条 前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、当該大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、次に該当するものは定めるとおり同課程に在学すれば足りるものとする。

特に優れた研究業績を挙げた者 1年以上

第22条により単位が認定された者 1年以上

(博士課程の修了要件)

第26条の2 博士課程の修了要件は、次の各号のとおりとする。

- (1) 医学研究科博士課程の修了要件は、同課程に4年以上在学し、30単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、次に該当するものは定めるとおり同課程に在学すれば足りるものとする。

特に優れた研究業績を挙げた者 3年以上

第22条により単位が認定された者 3年以上

特に優れた研究業績を挙げ、かつ第22条により単位が認定された者 2年以上

- (2) 保健学研究科及び国際協力研究科博士課程の修了要件は、同課程に5年（前期課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、前期課程の修得30単位を含め50単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を挙げた者については、同課程に3年（前期課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

2 前条ただし書きの規定による在学期間をもって前期課程を修了した者の博士課程の修了の要件は、前期課程における在学期間に3年を加えた期間当該課程に在学し、

第3類（杏林大学大学院学則）

各研究科の所定の単位を修得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。ただし、特に優れた研究業績を挙げた者については、当該課程に3年（前期課程における在学期間を含む。）在学し、各研究科の所定の単位を修得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。

- 3 第1項及び前項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則第70条の2の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本大学院が、認めた者が博士課程の後期課程に入学した場合の博士課程修了の要件は、同課程に3年以上在学し、学位論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を挙げた者については、同課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

（学位論文及び最終試験の可否）

第27条 学位論文及び最終試験の合格、不合格は、当該研究科委員会の審査報告に基づいて学長が決定する。

- 2 審査の方法は各研究科において決定する。

（学位）

第27条の2 前条第1項により合格した者に次に定める学位を授与する。

修士

保健学研究科

保健学専攻

修士（保健学）

看護学専攻

修士（看護学）

臨床心理学専攻

修士（臨床心理学）

国際協力研究科

国際開発専攻

修士（開発学）

国際医療協力専攻

修士（国際医療協力）

グローバル・コミュニケーション専攻 修士（学術）

博士

医学研究科

博士（医学）

保健学研究科

博士（保健学）

博士（看護学）

国際協力研究科

博士（学術）

（単位認定書の交付）

第28条 博士後期課程及び医学研究科博士課程において、在学期間中に所定の単位を修得したが、学位論文の提出に至らなかった者は、単位認定書の交付を受けることができる。

第7章 入学・休学・復学・退学及び転学

（入学の時期）

第29条 入学の時期は各学年の始めとする。

（入学の資格）

第30条 医学研究科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- （1）大学における医学、歯学若しくは獣医学を履修する課程を卒業した者
- （2）大学における修業年限6年の薬学を履修する課程を卒業した者

第3類（杏林大学大学院学則）

- (3) 文部科学大臣の指定した者
 - (4) 外国において、学校教育における18年の課程を修了し、その最終の課程が医学、歯学、獣医学又は薬学の課程であった者
 - (5) 医学、歯学、獣医学又は薬学を履修する課程に4年以上在学し、又は外国において学校教育における医学、歯学、獣医学又は薬学を含む16年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと大学院が認めた者
- 2 保健学研究科及び国際協力研究科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。
- (1) 大学を卒業した者
 - (2) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (3) 文部科学大臣の指定した者
 - (4) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - (5) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得した者と大学院が認めた者
 - (6) その他第1号に該当する者と同等以上の学力があると、大学院が認めた者で22歳に達したもの
- 3 保健学研究科及び国際協力研究科の博士後期課程に入学（本学前期課程からの進学及び他大学大学院からの入学）する資格のある者は、修士の学位を有する者、文部科学大臣の指定した者、又はそれと同等以上の学力があると、大学院が認めた者で24歳に達したものとする。

（入学出願）

第31条 入学を志願する者は、別に定める入学検定料を添えて、所定の入学願書を提出しなければならない。

（入学許可者の選考）

第32条 入学は、志願者の学力、人物、健康等について選考のうえこれを許可する。

（入学手続）

第33条 入学の許可を受けた者は、所定の期日までに所定の学納金を添えて誓約書を提出しなければならない。

（休学）

第34条 疾病その他やむを得ない事由のため、3月以上修学できないときは、学長に願い出て休学をすることができる。この場合、その事由が病気であるときは、医師の診断書を添付しなければならない。

- 2 休学の期間は1年を超えることはできない。ただし、特にやむを得ない事情があると認められるときは、さらに1年を限り延長することができる。

第35条 疾病のために修学することが適当でない認められる者に対しては、学長は研究科委員会の議を経て、休学を命ずることができる。

（復学）

第36条 休学の期間中であっても、その事由が消滅したときは、学長に願い出て復学することができる。この場合、休学の事由が病気であるときは、本学付属病院の

第3類（杏林大学大学院学則）

医師の診断書を添付しなければならない。

第37条 休学の期間は、第13条の修業年限に算入しない。

（退学）

第38条 疾病その他の事由により、退学しようとする者は、理由書を添え、保証人連署のうえ当該研究科長を経て学長に願い出て、許可を受けなければならない。この場合、退学の事由が疾病によるときは、医師の診断書を添付しなければならない。ただし、死亡の場合は、死亡診断書等の確認により、死亡した日をもって退学とする。

（再入学）

第39条 前条により退学した者で、退学の事由が消滅し、再び入学を願い出る者があるときは、当該研究科委員会の議を経て、これを許可することができる。

2 退学により再入学までの期間は本学学則第37条の規定に準ずる。

（転学）

第40条 他の大学院から本大学院に転入学を志願する者については、選考のうえこれを許可することがある。この場合、他の大学院において修得した単位及び在学年数は本大学院における単位及び在学年数として、これを換算することができる。

2 本大学院から他の大学院に転学を志願する者は、主科目担当教授を経て学長に願い出て、許可を受けなければならない。

（教職課程）

第40条の2 大学院に教職課程を置く。

（教育職員免許取得に必要な科目及び単位数）

第40条の3 教育職員免許を得ようとする者は、別に定める大学院教職課程履修規程及び教育職員免許法並びに同法施行規則の定めるところに従い、それぞれ所定の科目及び単位を修得しなければならない。

（免許状の種類及び履修研究科・専攻）

第40条の4 前条に規定する単位を修得することによって得られる免許状の種類並びに履修する研究科・専攻は次のとおりとする。

履修する研究科・専攻	免許状の種類	
保健学研究科 保健学専攻	養護教諭 専修免許状	養護
	中学校教諭 専修免許状	保健
	高等学校教諭 専修免許状	保健

第8章 除籍及び懲戒

（除籍）

第41条 次の各号の一に該当する者は、当該研究科委員会の議を経て学長がこれを除籍する。

- (1) 故なくして、3月以上授業料その他の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 第34条第2項に定める休学期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 第13条に定める在学年限を超える者

第3類（杏林大学大学院学則）

- （4）行方不明で失踪の届出のあった者
（懲戒）

第42条 本学の建学精神、教育方針に違背し、大学院学生としてふさわしくない行為をした者は、当該研究科委員会の議を経て、学長が懲戒する。

- 2 前項の懲戒は、その軽重に応じ、譴責、停学及び退学とする。
- 3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。
 - （1）性行不良で、改善の見込みのないと認められる者
 - （2）学力劣等で、成業の見込みがないと認められた者
 - （3）正当の理由がなくて、出席常でない者
 - （4）本学の定める諸規程に反し、又は学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第9章 学納金

（入学検定料、入学料等の額）

第43条 本学に入学を志願する者は、別に定める入学検定料を納入しなければならない。

- 2 入学料、授業料その他の学納金の額については、別表4のとおりとする。
（授業料等の納入）

第44条 授業料、施設設備費は、それぞれの年額の半額を前期、後期の始業時まで
に納入するものとする。

- 2 休学又は停学中であっても、授業料等は徴収する。ただし、休学の期間が6か月以上をわたる者の授業料その他の学納金については別に定めるところにより、減免することがある。
- 3 海外留学する場合、本学に納入すべき費用については別に定める。
- 4 第2項の規定にかかわらず、国際協力研究科に在籍する者で企業等に在職中の者が企業等の都合により第16条に規定する1学期間にわたり休学する場合は、授業料等は徴収しない。
- 5 前項の規定により休学する者は、企業等の所属長による休学の事由書を添付の上、学長に休学を願い出るものとする。ただし、授業料等を徴収しない休学の期間は、1年を超えることはできない。
- 6 授業料等学納金を所定の期日までに納入しない者は、授業への出席、図書の見学その他施設の利用を認めない。

第45条 授業料その他既納の学納金は、いかなる理由があっても還付しない。

第46条 削除

第10章 外国人特別生、科目等履修生、聴講生、特別聴講生、委託生及び研究生

（外国人特別生）

第47条 大学院に入学を希望する外国人で、外務省在外公館又は自国公館の紹介ある者は、第32条の規定にかかわらず選考のうえ、外国人特別生として入学を許可することがある。

（科目等履修生）

第47条の2 本大学院の学生以外の者で本大学院の授業科目の一部を履修すること

第3類（杏林大学大学院学則）

を希望する者がいるときは、教育研究上支障がない限り、科目等履修生としてこれを許可することができる。

2 科目等履修生となることができる者は、次の各号の一に該当する者でその学力を考查し、履修する科目を理解するに足る学力があると当該研究科委員会が認めた者に限るものとする。

(1) 修業年限4年以上の大学を卒業した者

(2) 前号と同等以上の学力があると認められた者

3 科目等履修生には本学則を準用する。

4 科目等履修生には第23条及び第24条の定めにより所定の単位を与える。

5 科目等履修生を希望する者の手続並びに選考料、登録料及び履修料については別に定める。

(聴講生)

第48条 特定の学科目の聴講を志願するものがあるときは、当該研究科委員会において、その学力を考查し、欠員のある場合に限り聴講を許可することができる。

2 聴講生を志願することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 修業年限4年以上の大学を卒業した者

(2) 前号と同等以上の学力があると認められた者

3 聴講生を志願する者の手続並びに選考料、登録料及び聴講料については別に定める。

4 大学院は、他大学大学院との協議に基づき、他大学大学院の学生で本大学院の授業科目を履修する者を特別聴講生として受け入れることができる。この特別聴講生については別に定める。

(委託生)

第49条 公共団体又は他の大学大学院生等でその公共団体又はその大学大学院の委託によって、大学院研究科における授業科目のなかで聴講を希望する者がいるときは、欠員のある場合に限り当該研究科委員会の議を経た上で修学を許可することができる。

2 委託生が、聴講科目の試験に合格したときはその授業科目の修了証を授与する。

3 委託生を希望する者の手続並びに選考料、登録料及び聴講料は別に定める。

(研究生)

第49条の2 大学院に研究生をおくことができる。

2 研究生に関し必要な事項は別に定める。

第11章 研究指導施設

(研究指導施設)

第50条 大学院に研究室、実験実習室を設ける。

2 学生は、必要に応じ図書館、各学部の施設及び医学部附属病院の施設を使用するものとする。

第12章 雑則

(改正)

第51条 この学則を改正しようとするときは、杏林学園運営審議会の議を経たうえ、改正事項が単一の研究科に係る場合は当該研究科の研究科委員会に、2つ以上の研

第3類（杏林大学大学院学則）

究科に関連する場合は関連する各研究科の研究科委員会に諮り、いずれも研究科委員会委員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成を得たうえ、大学院委員会及び理事会の承認を得なければならない。

附 則

- 1 本学則に定めるもののほか、大学院学生については本学学則を準用する。
- 2 本学則を改正しようとするときは、研究科委員会委員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成を得たうえ、大学院委員会の承認を得なければならない。
- 3 前項の学則の改正については、理事会の承認を要する。
- 4 本学則は、昭和51年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和54年 4月 1日から施行し、既に在学している学生にも適用する。

附 則

本学則は、昭和57年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和59年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和61年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成 3年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成 5年 4月 1日から施行する。
- 2 本学則を改正しようとするときは、改正事項が単一の研究科に係る場合は当該研究科の研究科委員会に、二つ以上の研究科に関連する場合は関連する各研究科の研究科委員会に諮り、いずれも研究科委員会委員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成を得たうえ、大学院委員会の承認を得なければならない。

別表1

別表2

別表3

別表4

附 則

本学則は、平成 6年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成 7年 4月 1日から施行する。ただし、第30条第2項第4号の改正規定は、平成 6年 8月10日から施行する。

附 則

本学則は、平成 8年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成 9年 4月 1日から施行する。

第3類（杏林大学大学院学則）

附 則

本学則は、平成10年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成11年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成11年 7月 1日から施行する。
- 2 第43条第1項は、平成12年度入学志願者から適用する。

附 則

本学則は、平成12年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成13年 4月 1日から施行する。ただし、別表3（1）の専攻共通科目中の事例研究については平成12年10月 1日から適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成13年 4月 1日から施行する。
- 2 別表3-2の授業科目は、平成13年度以降の入学生から適用するものとし、別表3-1の授業科目は、平成12年度以前の入学生に適用する。
- 3 博士前期課程において平成12年度以前の入学生は、国際協力研究科博士前期課程履修規程に定める授業科目対応表により別表3-2の授業科目を受講するものとする。ただし、単位認定については、別表3-1の授業科目で行う。

附 則

本学則は、平成14年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成14年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成14年10月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成15年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成15年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成16年 4月 1日から施行する。
- 2 別表3-3の授業科目は、平成16年度以降の入学生から適用する。

附 則

- 1 本学則は、平成16年 4月 1日から施行する。
- 2 別表3-3（2）の授業科目は、平成15年度以前の入学生にも適用する。

附 則

本学則は、平成17年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成18年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第43条（別表4）及び第44条については、平成18年 4月 1日以降の入学生から適用し、平成17年10月 1日以前の入学生については、改正

第3類（杏林大学大学院学則）

前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成18年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成19年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成20年 4月 1日から施行する。ただし、第49条の2の規定は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 別表2-2及び2-3の授業科目は、平成20年度以降の入学生から適用するものとし、別表2-1の授業科目は、平成19年度以前の入学生に適用する。

附 則

本学則は、平成20年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成20年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成21年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第14条、第18条、第27条の2及び第43条（別表4）の規定は、平成22年4月1日以降の入学生に適用し、平成21年10月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成22年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第18条の規定は、平成22年4月1日以降の入学生に適用し、平成21年10月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成23年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第18条の規定は、平成23年4月1日以降の入学生に適用し、平成22年10月1日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 別表2-4及び2-5の授業科目は、平成24年度以降の入学生から適用するものとし、別表2-1、2-2、2-3の授業科目は、平成23年度以前の入学生に

第3類（杏林大学大学院学則）

適用する。

附 則

本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成24年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成25年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 別表2-6の授業科目は、平成25年度以降の入学生から適用するものとし、平成24年度以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成25年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、平成26年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成26年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第18条の規定は、平成26年4月1日以降の入学生に適用し、平成25年9月15日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成27年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第18条の規定は、平成27年4月1日以降の入学生に適用し、平成26年 9月15日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成28年 4月 1日から施行する。
（経過措置）
- 2 別表3-4の授業科目は、平成28年4月1日以降の入学生から適用するものとし、平成27年 9月15日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成29年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 本学則は、平成31年 4月 1日より施行する。
（経過措置）
- 2 この学則による改正後の第4条、第4条の2、第14条、第27条の2および別表3-4の規定は、平成31年4月1日以降の入学生に適用し、平成30年9月1

第3類（杏林大学大学院学則）

5日以前の入学生については、改正前の学則を適用する。

附 則

本学則は、平成31年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、令和 3年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、令和 3年 4月 1日から施行する。

附 則

本学則は、令和 4年 4月 1日から施行する。

第3類（杏林大学大学院学則）

別表 1 - 1

医学研究科における授業科目及び単位
（平成22年度入学者から適用）

専攻	専 門 分 野	授 業 科 目	単位数
生	器 官 構 築 学	肉眼解剖学 講義・演習	4
		肉眼解剖学 実験・実習	8
		顕微解剖学 講義・演習	4
		顕微解剖学 実験・実習	8
		ゲノム・遺伝学 講義・演習	4
		ゲノム・遺伝学 実験・実習	8
		器官構築学 課題研究	8
		器官構築学 研究論文演習	4
理	病 態 生 化 学	分子細胞生物学 講義・演習	4
		分子細胞生物学 実験・実習	8
		代謝生化学 講義・演習	4
		代謝生化学 実験・実習	8
		分子機能生化学 講義・演習	4
		分子機能生化学 実験・実習	8
		病態生化学 課題研究	8
		病態生化学 研究論文演習	4
系	生 体 機 能 制 御 学	細胞生理学 講義・演習	4
		細胞生理学 実験・実習	8
		統合生理学 講義・演習	4
		統合生理学 実験・実習	8
		生体物理工学 講義・演習	4
		生体物理工学 実験・実習	8
		生体機能制御学 課題研究	8
		生体機能制御学 研究論文演習	4
系	分 子 細 胞 薬 理 学	分子細胞薬理学 講義・演習	4
		分子細胞薬理学 実験・実習	8
		分子細胞薬理学 課題研究	8
		分子細胞薬理学 研究論文演習	4
病	病 理 学	病理学 講義・演習	4
		病理学 実験・実習	8
		病理学 課題研究	8
		病理学 研究論文演習	4
系	感 染 症 ・ 熱 帯 病 学	感染症・熱帯病学 講義・演習	4
		感染症・熱帯病学 実験・実習	8
		感染症・熱帯病学 課題研究	8
		感染症・熱帯病学 研究論文演習	4

第3類 (杏林大学大学院学則)

	臨床検査医学	臨床検査医学 講義・演習 臨床検査医学 実験・実習 臨床検査医学 課題研究 臨床検査医学 研究論文演習	4 8 8 4	
社会医学系	社会医療情報学	社会医療情報学 講義・演習 社会医療情報学 実験・実習 社会医療情報学 課題研究 社会医療情報学 研究論文演習	4 8 8 4	
	法科学	法科学 講義・演習 法科学 実験・実習 法科学 課題研究 法科学 研究論文演習	4 8 8 4	
内科	内科学	呼吸器内科学 講義・演習 呼吸器内科学 実験・実習 神経内科学 講義・演習 神経内科学 実験・実習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習 循環器内科学 講義・演習 循環器内科学 実験・実習 血液内科学 講義・演習 血液内科学 実験・実習 消化器内科学 講義・演習 消化器内科学 実験・実習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習 腫瘍内科学 講義・演習 腫瘍内科学 実験・実習 内科学 課題研究 内科学 研究論文演習	4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 8 4	
		加齢医学	加齢医学 講義・演習 加齢医学 実験・実習 加齢医学 課題研究 加齢医学 研究論文演習	4 8 8 4
		総合医療学	総合医療学 講義・演習 総合医療学 実験・実習 総合医療学 課題研究 総合医療学 研究論文演習	4 8 8 4

第3類 (杏林大学大学院学則)

内 科 系	小 兒 科 学	小 兒 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		小 兒 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		小 兒 科 学 課 題 研 究	8
		小 兒 科 学 研 究 論 文 演 習	4
	精 神 神 經 科 学	精 神 神 經 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		精 神 神 經 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		精 神 神 經 科 学 課 題 研 究	8
		精 神 神 經 科 学 研 究 論 文 演 習	4
	皮 膚 科 学	皮 膚 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		皮 膚 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		皮 膚 科 学 課 題 研 究	8
		皮 膚 科 学 研 究 論 文 演 習	4
放 射 線 医 学	放 射 線 医 学 講 義 ・ 演 習	4	
	放 射 線 医 学 実 験 ・ 実 習	8	
	放 射 線 医 学 課 題 研 究	8	
	放 射 線 医 学 研 究 論 文 演 習	4	
外 科 系	外 科 学	消 化 器 ・ 一 般 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		消 化 器 ・ 一 般 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		呼 吸 器 ・ 甲 状 腺 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		呼 吸 器 ・ 甲 状 腺 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		乳 腺 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		乳 腺 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		外 科 学 課 題 研 究	8
		外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
	救 急 医 学	救 急 医 学 講 義 ・ 演 習	4
		救 急 医 学 実 験 ・ 実 習	8
		救 急 医 学 課 題 研 究	8
		救 急 医 学 研 究 論 文 演 習	4
	整 形 外 科 学	整 形 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		整 形 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		リハビレテーション医学 講義・演習	4
		リハビレテーション医学 実験・実習	8
		整 形 外 科 学 課 題 研 究	8
		整 形 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
	脳 神 經 外 科 学	脳 神 經 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		脳 神 經 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		脳 神 經 外 科 学 課 題 研 究	8
		脳 神 經 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4

第3類（杏林大学大学院学則）

別表1-2

医学研究科における授業科目及び単位
（平成27年度入学者から適用）

専攻	専門分野	授業科目	単位数
生	器官構築学	肉眼解剖学 講義・演習	4
		肉眼解剖学 実験・実習	8
		顕微解剖学 講義・演習	4
		顕微解剖学 実験・実習	8
		ゲノム・遺伝学 講義・演習	4
		ゲノム・遺伝学 実験・実習	8
		器官構築学 課題研究	8
		器官構築学 研究論文演習	4
理	病態生化学	分子細胞生物学 講義・演習	4
		分子細胞生物学 実験・実習	8
		代謝生化学 講義・演習	4
		代謝生化学 実験・実習	8
		分子機能生化学 講義・演習	4
		分子機能生化学 実験・実習	8
		病態生化学 課題研究	8
		病態生化学 研究論文演習	4
系	生体機能制御学	細胞生理学 講義・演習	4
		細胞生理学 実験・実習	8
		統合生理学 講義・演習	4
		統合生理学 実験・実習	8
		生体物理工学 講義・演習	4
		生体物理工学 実験・実習	8
		生体機能制御学 課題研究	8
		生体機能制御学 研究論文演習	4
系	分子細胞薬理学	分子細胞薬理学 講義・演習	4
		分子細胞薬理学 実験・実習	8
		分子細胞薬理学 課題研究	8
		分子細胞薬理学 研究論文演習	4
病	病理学	病理学 講義・演習	4
		病理学 実験・実習	8
		病理学 課題研究	8
		病理学 研究論文演習	4
系	感染症・熱帯病学	感染症・熱帯病学 講義・演習	4
		感染症・熱帯病学 実験・実習	8
		感染症・熱帯病学 課題研究	8
		感染症・熱帯病学 研究論文演習	4

第3類 (杏林大学大学院学則)

	臨床検査医学	臨床検査医学 講義・演習 臨床検査医学 実験・実習 臨床検査医学 課題研究 臨床検査医学 研究論文演習	4 8 8 4	
社会医学系	社会医療情報学	社会医療情報学 講義・演習 社会医療情報学 実験・実習 社会医療情報学 課題研究 社会医療情報学 研究論文演習	4 8 8 4	
	法科学	法科学 講義・演習 法科学 実験・実習 法科学 課題研究 法科学 研究論文演習	4 8 8 4	
内科	内科学	呼吸器内科学 講義・演習 呼吸器内科学 実験・実習 神経内科学 講義・演習 神経内科学 実験・実習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習 循環器内科学 講義・演習 循環器内科学 実験・実習 血液内科学 講義・演習 血液内科学 実験・実習 消化器内科学 講義・演習 消化器内科学 実験・実習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習 腫瘍内科学 講義・演習 腫瘍内科学 実験・実習 内科学 課題研究 内科学 研究論文演習	4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 8 4	
		脳卒中医学	脳卒中医学 講義・演習 脳卒中医学 実験・実習 脳卒中医学 課題研究 脳卒中医学 研究論文演習	4 8 8 4
		加齢医学	加齢医学 講義・演習 加齢医学 実験・実習 加齢医学 課題研究 加齢医学 研究論文演習	4 8 8 4

第3類 (杏林大学大学院学則)

内	総合医療学	総合医療学 講義・演習	4
		総合医療学 実験・実習	8
		総合医療学 課題研究	8
		総合医療学 研究論文演習	4
科	小児科学	小児科学 講義・演習	4
		小児科学 実験・実習	8
		小児科学 課題研究	8
		小児科学 研究論文演習	4
系	精神神経科学	精神神経科学 講義・演習	4
		精神神経科学 実験・実習	8
		精神神経科学 課題研究	8
		精神神経科学 研究論文演習	4
科	皮膚科学	皮膚科学 講義・演習	4
		皮膚科学 実験・実習	8
		皮膚科学 課題研究	8
		皮膚科学 研究論文演習	4
系	放射線医学	放射線医学 講義・演習	4
		放射線医学 実験・実習	8
		放射線医学 課題研究	8
		放射線医学 研究論文演習	4
外	外科学	消化器・一般外科学 講義・演習	4
		消化器・一般外科学 実験・実習	8
		呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習	4
		呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習	8
		乳腺外科学 講義・演習	4
		乳腺外科学 実験・実習	8
		外科学 課題研究	8
		外科学 研究論文演習	4
科	救急医学	救急医学 講義・演習	4
		救急医学 実験・実習	8
		救急医学 課題研究	8
		救急医学 研究論文演習	4
系	整形外科	整形外科 講義・演習	4
		整形外科 実験・実習	8
		リハビリテーション医学 講義・演習	4
		リハビリテーション医学 実験・実習	8
		整形外科 課題研究	8
		整形外科 研究論文演習	4

第3類 (杏林大学大学院学則)

外	脳神経外科学	脳神経外科学 講義・演習	4
		脳神経外科学 実験・実習	8
		脳神経外科学 課題研究	8
		脳神経外科学 研究論文演習	4
心臓血管外科学	心臓血管外科学	心臓血管外科学 講義・演習	4
		心臓血管外科学 実験・実習	8
		心臓血管外科学 課題研究	8
		心臓血管外科学 研究論文演習	4
産科婦人科学	産科婦人科学	産科婦人科学 講義・演習	4
		産科婦人科学 実験・実習	8
		産科婦人科学 課題研究	8
		産科婦人科学 研究論文演習	4
眼 科 学	眼 科 学	眼 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		眼 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		眼 科 学 課 題 研 究	8
		眼 科 学 研 究 論 文 演 習	4
科 耳 鼻 咽 喉 科 学	耳 鼻 咽 喉 科 学	耳 鼻 咽 喉 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		耳 鼻 咽 喉 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		耳 鼻 咽 喉 科 学 課 題 研 究	8
		耳 鼻 咽 喉 科 学 研 究 論 文 演 習	4
泌 尿 器 科 学	泌 尿 器 科 学	泌 尿 器 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		泌 尿 器 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		泌 尿 器 科 学 課 題 研 究	8
		泌 尿 器 科 学 研 究 論 文 演 習	4
麻 醉 科 学	麻 醉 科 学	麻 醉 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		麻 醉 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		麻 醉 科 学 課 題 研 究	8
		麻 醉 科 学 研 究 論 文 演 習	4
小 児 外 科 学	小 児 外 科 学	小 児 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		小 児 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		小 児 外 科 学 課 題 研 究	8
		小 児 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
系 形 成 外 科 学	形 成 外 科 学	形 成 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		形 成 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		形 成 外 科 学 課 題 研 究	8
		形 成 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
専 攻 共 通 科 目		基 礎 臨 床 共 通 講 義 I	4
		基 礎 臨 床 共 通 講 義 II	2

第3類（杏林大学大学院学則）

別表1-3

医学研究科における授業科目及び単位
（平成31年度入学者から適用）

専攻	専門分野	授業科目	単位数
生	器官構築学	肉眼解剖学 講義・演習	4
		肉眼解剖学 実験・実習	8
		顕微解剖学 講義・演習	4
		顕微解剖学 実験・実習	8
		ゲノム・遺伝学 講義・演習	4
		ゲノム・遺伝学 実験・実習	8
		器官構築学 課題研究	8
		器官構築学 研究論文演習	4
理	病態生化学	分子細胞生物学 講義・演習	4
		分子細胞生物学 実験・実習	8
		代謝生化学 講義・演習	4
		代謝生化学 実験・実習	8
		分子機能生化学 講義・演習	4
		分子機能生化学 実験・実習	8
		病態生化学 課題研究	8
		病態生化学 研究論文演習	4
系	生体機能制御学	病態生理学 講義・演習	4
		病態生理学 実験・実習	8
		統合生理学 講義・演習	4
		統合生理学 実験・実習	8
		生体物理工学 講義・演習	4
		生体物理工学 実験・実習	8
		生体機能制御学 課題研究	8
		生体機能制御学 研究論文演習	4
系	分子細胞薬理学	分子細胞薬理学 講義・演習	4
		分子細胞薬理学 実験・実習	8
		分子細胞薬理学 課題研究	8
		分子細胞薬理学 研究論文演習	4
病	病理学	病理学 講義・演習	4
		病理学 実験・実習	8
		病理学 課題研究	8
		病理学 研究論文演習	4
系	感染症・熱帯病学	感染症・熱帯病学 講義・演習	4
		感染症・熱帯病学 実験・実習	8
		感染症・熱帯病学 課題研究	8
		感染症・熱帯病学 研究論文演習	4

第3類 (杏林大学大学院学則)

	臨床検査医学	臨床検査医学 講義・演習 臨床検査医学 実験・実習 臨床検査医学 課題研究 臨床検査医学 研究論文演習	4 8 8 4	
社会医学系	社会医療情報学	社会医療情報学 講義・演習 社会医療情報学 実験・実習 社会医療情報学 課題研究 社会医療情報学 研究論文演習	4 8 8 4	
	法科学	法科学 講義・演習 法科学 実験・実習 法科学 課題研究 法科学 研究論文演習	4 8 8 4	
内科	内科学	呼吸器内科学 講義・演習 呼吸器内科学 実験・実習 神経内科学 講義・演習 神経内科学 実験・実習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習 循環器内科学 講義・演習 循環器内科学 実験・実習 血液内科学 講義・演習 血液内科学 実験・実習 消化器内科学 講義・演習 消化器内科学 実験・実習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習 腫瘍内科学 講義・演習 腫瘍内科学 実験・実習 内科学 課題研究 内科学 研究論文演習	4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 4 8 8 4	
		脳卒中医学	脳卒中医学 講義・演習 脳卒中医学 実験・実習 脳卒中医学 課題研究 脳卒中医学 研究論文演習	4 8 8 4
		加齢医学	加齢医学 講義・演習 加齢医学 実験・実習 加齢医学 課題研究 加齢医学 研究論文演習	4 8 8 4

第3類 (杏林大学大学院学則)

内	総合医療学	総合医療学 講義・演習	4	
		総合医療学 実験・実習	8	
		総合医療学 課題研究	8	
		総合医療学 研究論文演習	4	
小児科学	小児科学	小児科学 講義・演習	4	
		小児科学 実験・実習	8	
		小児科学 課題研究	8	
		小児科学 研究論文演習	4	
精神神経科学	精神神経科学	精神神経科学 講義・演習	4	
		精神神経科学 実験・実習	8	
		精神神経科学 課題研究	8	
		精神神経科学 研究論文演習	4	
皮膚科学	皮膚科学	皮膚科学 講義・演習	4	
		皮膚科学 実験・実習	8	
		皮膚科学 課題研究	8	
		皮膚科学 研究論文演習	4	
放射線医学	放射線医学	放射線医学 講義・演習	4	
		放射線医学 実験・実習	8	
		放射線医学 課題研究	8	
		放射線医学 研究論文演習	4	
外	外科学	消化器・一般外科学 講義・演習	4	
		消化器・一般外科学 実験・実習	8	
		呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習	4	
		呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習	8	
		乳腺外科学 講義・演習	4	
		乳腺外科学 実験・実習	8	
		外科学 課題研究	8	
		外科学 研究論文演習	4	
	救急医学	救急医学	救急医学 講義・演習	4
			救急医学 実験・実習	8
			救急医学 課題研究	8
			救急医学 研究論文演習	4
整形外科学	整形外科学	整形外科学 講義・演習	4	
		整形外科学 実験・実習	8	
		リハビリテーション医学 講義・演習	4	
		リハビリテーション医学 実験・実習	8	
		整形外科学 課題研究	8	
		整形外科学 研究論文演習	4	

第3類 (杏林大学大学院学則)

外	脳 神 経 外 科 学	脳 神 経 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		脳 神 経 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		脳 神 経 外 科 学 課 題 研 究	8
		脳 神 経 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
心 臓 血 管 外 科 学	心 臓 血 管 外 科 学	心 臓 血 管 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		心 臓 血 管 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		心 臓 血 管 外 科 学 課 題 研 究	8
		心 臓 血 管 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
産 科 婦 人 科 学	産 科 婦 人 科 学	産 科 婦 人 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		産 科 婦 人 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		産 科 婦 人 科 学 課 題 研 究	8
		産 科 婦 人 科 学 研 究 論 文 演 習	4
眼 科 学	眼 科 学	眼 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		眼 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		眼 科 学 課 題 研 究	8
		眼 科 学 研 究 論 文 演 習	4
耳 鼻 咽 喉 科 学	耳 鼻 咽 喉 科 学	耳 鼻 咽 喉 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		耳 鼻 咽 喉 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		耳 鼻 咽 喉 科 学 課 題 研 究	8
		耳 鼻 咽 喉 科 学 研 究 論 文 演 習	4
泌 尿 器 科 学	泌 尿 器 科 学	泌 尿 器 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		泌 尿 器 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		泌 尿 器 科 学 課 題 研 究	8
		泌 尿 器 科 学 研 究 論 文 演 習	4
麻 酔 科 学	麻 酔 科 学	麻 酔 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		麻 酔 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		麻 酔 科 学 課 題 研 究	8
		麻 酔 科 学 研 究 論 文 演 習	4
小 児 外 科 学	小 児 外 科 学	小 児 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		小 児 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		小 児 外 科 学 課 題 研 究	8
		小 児 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
系 形 成 外 科 学	形 成 外 科 学	形 成 外 科 学 講 義 ・ 演 習	4
		形 成 外 科 学 実 験 ・ 実 習	8
		形 成 外 科 学 課 題 研 究	8
		形 成 外 科 学 研 究 論 文 演 習	4
専 攻 共 通 科 目		基 礎 臨 床 共 通 講 義 I	4
		基 礎 臨 床 共 通 講 義 II	2

第3類（杏林大学大学院学則）

別表 1 - 4

医学研究科における授業科目及び単位
（令和4年度入学者からの適用）

科目区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
科目共通	特 別 研 究	8	
	医 学 研 究 講 義 I	4	
	医 学 研 究 講 義 II	2	
専門科目	脳 神 経 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	脳 神 経 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	脳 神 経 内 科 学 課 題 研 究		8
	呼 吸 器 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	呼 吸 器 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	呼 吸 器 内 科 学 課 題 研 究		8
	腎 臓 ・ リ ウ マ チ 膠 原 病 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	腎 臓 ・ リ ウ マ チ 膠 原 病 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	腎 臓 ・ リ ウ マ チ 膠 原 病 内 科 学 課 題 研 究		8
	循 環 器 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	循 環 器 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	循 環 器 内 科 学 課 題 研 究		8
	血 液 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	血 液 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	血 液 内 科 学 課 題 研 究		8
	糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 代 謝 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 代 謝 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 代 謝 内 科 学 課 題 研 究		8
	消 化 器 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	消 化 器 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	消 化 器 内 科 学 課 題 研 究		8
	腫 瘍 内 科 学 講 義 ・ 演 習		4
	腫 瘍 内 科 学 実 験 ・ 実 習		4
	腫 瘍 内 科 学 課 題 研 究		8
	高 齢 医 学 講 義 ・ 演 習		4
	高 齢 医 学 実 験 ・ 実 習		4
	高 齢 医 学 課 題 研 究		8
精 神 神 経 科 学 講 義 ・ 演 習		4	
精 神 神 経 科 学 実 験 ・ 実 習		4	
精 神 神 経 科 学 課 題 研 究		8	

第3類 (杏林大学大学院学則)

小兒科学	講義・演習	4
小兒科学	実験・実習	4
小兒科学	課題研究	8
消化器・一般外科学	講義・演習	4
消化器・一般外科学	実験・実習	4
消化器・一般外科学	課題研究	8
呼吸器・甲状腺外科学	講義・演習	4
呼吸器・甲状腺外科学	実験・実習	4
呼吸器・甲状腺外科学	課題研究	8
乳腺外科学	講義・演習	4
乳腺外科学	実験・実習	4
乳腺外科学	課題研究	8
小兒外科学	講義・演習	4
小兒外科学	実験・実習	4
小兒外科学	課題研究	8
救急医学	講義・演習	4
救急医学	実験・実習	4
救急医学	課題研究	8
脳神経外科学	講義・演習	4
脳神経外科学	実験・実習	4
脳神経外科学	課題研究	8
心臓血管外科学	講義・演習	4
心臓血管外科学	実験・実習	4
心臓血管外科学	課題研究	8
整形外科学	講義・演習	4
整形外科学	実験・実習	4
整形外科学	課題研究	8
皮膚科学	講義・演習	4
皮膚科学	実験・実習	4
皮膚科学	課題研究	8
形成外科学	講義・演習	4
形成外科学	実験・実習	4
形成外科学	課題研究	8
泌尿器科学	講義・演習	4
泌尿器科学	実験・実習	4
泌尿器科学	課題研究	8
眼科学	講義・演習	4
眼科学	実験・実習	4

第3類（杏林大学大学院学則）

眼	科	学	課 題 研 究	8
耳	鼻 咽 喉 科	学	講 義 ・ 演 習	4
耳	鼻 咽 喉 科	学	実 験 ・ 実 習	4
耳	鼻 咽 喉 科	学	課 題 研 究	8
産 科	婦 人 科	学	講 義 ・ 演 習	4
産 科	婦 人 科	学	実 験 ・ 実 習	4
産 科	婦 人 科	学	課 題 研 究	8
放 射	線 医 学		講 義 ・ 演 習	4
放 射	線 医 学		実 験 ・ 実 習	4
放 射	線 医 学		課 題 研 究	8
放 射	線 腫 瘍 学		講 義 ・ 演 習	4
放 射	線 腫 瘍 学		実 験 ・ 実 習	4
放 射	線 腫 瘍 学		課 題 研 究	8
麻 醉	科	学	講 義 ・ 演 習	4
麻 醉	科	学	実 験 ・ 実 習	4
麻 醉	科	学	課 題 研 究	8
臨 床	検 査 医 学		講 義 ・ 演 習	4
臨 床	検 査 医 学		実 験 ・ 実 習	4
臨 床	検 査 医 学		課 題 研 究	8
総 合	医 療 学		講 義 ・ 演 習	4
総 合	医 療 学		実 験 ・ 実 習	4
総 合	医 療 学		課 題 研 究	8
リハビリ	テー シ ョ ン 医 学		講 義 ・ 演 習	4
リハビリ	テー シ ョ ン 医 学		実 験 ・ 実 習	4
リハビリ	テー シ ョ ン 医 学		課 題 研 究	8
脳 卒 中	医 学		講 義 ・ 演 習	4
脳 卒 中	医 学		実 験 ・ 実 習	4
脳 卒 中	医 学		課 題 研 究	8
肉 眼	解 剖 学		講 義 ・ 演 習	4
肉 眼	解 剖 学		実 験 ・ 実 習	4
肉 眼	解 剖 学		課 題 研 究	8
顕 微	解 剖 学		講 義 ・ 演 習	4
顕 微	解 剖 学		実 験 ・ 実 習	4
顕 微	解 剖 学		課 題 研 究	8
統 合	生 理 学		講 義 ・ 演 習	4
統 合	生 理 学		実 験 ・ 実 習	4
統 合	生 理 学		課 題 研 究	8
病 態	生 理 学		講 義 ・ 演 習	4

第3類 (杏林大学大学院学則)

病態生理学	実験・実習	4
病態生理学	課題研究	8
代謝生化学	講義・演習	4
代謝生化学	実験・実習	4
代謝生化学	課題研究	8
細胞生化学	講義・演習	4
細胞生化学	実験・実習	4
細胞生化学	課題研究	8
薬理学	講義・演習	4
薬理学	実験・実習	4
薬理学	課題研究	8
病理学	講義・演習	4
病理学	実験・実習	4
病理学	課題研究	8
感染症学	講義・演習	4
感染症学	実験・実習	4
感染症学	課題研究	8
衛生学・公衆衛生学	講義・演習	4
衛生学・公衆衛生学	実験・実習	4
衛生学・公衆衛生学	課題研究	8
法医学	講義・演習	4
法医学	実験・実習	4
法医学	課題研究	8
発生・遺伝学	講義・演習	4
発生・遺伝学	実験・実習	4
発生・遺伝学	課題研究	8
生体物理工学	講義・演習	4
生体物理工学	実験・実習	4
生体物理工学	課題研究	8
分子機能生化学	講義・演習	4
分子機能生化学	実験・実習	4
分子機能生化学	課題研究	8

第3類（杏林大学大学院学則）

別表2-1

保健学研究科保健学専攻における授業科目及び単位
（平成29年度入学者から適用）

（1）博士前期課程

専門分野	授業科目	単位数
臨床検査・生命科学分野	細胞診断学特論	2
	感染症学特論	2
	感染症疫学特論	2
	免疫学特論	2
	解剖学特論	2
	機能性分子化学特論	2
	呼吸器病学	2
	薬理学特論	2
	生体情報学特論	2
	腫瘍病理学	2
	免疫血液学特論	2
	生体分子検査学特論（1）	2
	生体分子検査学特論（2）	2
	感染症バイオセーフティ学	2
	計算科学特論	2
	臨床細胞遺伝学特論	2
	解剖学特論（感覚系）	2
	炎症免疫学	2
	神経生物学特論	2
	婦人科腫瘍学特論	2
	血液疾患薬理学	2
	解剖学特論（神経発生）	2
	神経学特論	2
	遺伝子機能解析学特論	2
	細菌・ウイルス学特論	2
	臨床検査・生命科学特別講義Ⅰ	2
	臨床検査・生命科学特別講義Ⅱ	2
	細胞診断学演習	2
	感染管理	2
	薬物動態分析技術	2
	感染制御学演習	2
	細胞内寄生体学	2
	免疫解析技術	2
	光学・電子顕微鏡技術	2
機能分子化学演習	2	
生理機能解析技術	2	
生体分子検査学演習（1）	2	
輸血検査学演習	2	
計算科学演習	2	
生体分子検査学演習（2）	2	

第3類（杏林大学大学院学則）

	病理組織診断技術	2
	光学・電子顕微鏡技術（試料作業）	2
	臨床検査・生命科学特別演習Ⅰ	2
	臨床検査・生命科学特別演習Ⅱ	2
	特別研究	4
保健学分野	保健管理学特論	2
	地域保健福祉論	2
	臨床疫学	2
	学校保健学特論	2
	養護教育実践論	2
	健康エコーロジー特論	2
	観光保健学特論	2
	養護教諭論特論	2
	心理心理学特論	2
	認知心理学特論	2
	産業精神保健学特論	2
	学校精神保健特論	2
	産業保健学特論	2
	成人保健学特論	2
	保健福祉学特論	2
	高齢者福祉学特論	2
	保健学特別講義Ⅰ	2
	保健学特別講義Ⅱ	2
	生物統計学演習	2
	養護実践学演習	2
保健学特別演習Ⅰ	2	
保健学特別演習Ⅱ	2	
特別研究	4	
臨床工学分野	循環器病学	2
	心電学Ⅰ	2
	超音波医学Ⅰ	2
	内科学Ⅰ	2
	生理学Ⅰ	2
	環境生理学Ⅰ	2
	先端臨床工学Ⅰ	2
	先端臨床工学Ⅱ	2
	医療と工学Ⅰ	2
	人工臓器工学Ⅰ	2
	臨床生理学特論	2
	感覚と生理学Ⅰ	2
	臨床工学特別講義Ⅰ	2
	臨床工学特別講義Ⅱ	2
	臨床工学特別講義Ⅲ	2
	臨床工学特別講義Ⅳ	2
計測プログラミン	2	

第3類 (杏林大学大学院学則)

	特 別 研 究	4
救 急 救 命 学 分 野	災 害 医 学 概 論	2
	外 傷 学 特 論	2
	心 肺 蘇 生 法 特 論	2
	救 急 病 態 学 特 論	2
	救 急 救 命 学 特 別 講 義 I	2
	救 急 救 命 学 特 別 講 義 II	2
	特 別 研 究	4
リハビリテーション 科 学 分 野	作 業 科 学 特 論 I	2
	作 業 科 学 特 論 II	2
	中 枢 神 經 系 理 学 療 法 学 特 論	2
	運 動 器 系 理 学 療 法 学 特 論	2
	内 部 障 害 系 理 学 療 法 学 特 論	2
	発 達 障 害 理 学 療 法 学 特 論	2
	地 域 理 学 療 法 学 特 論	2
	高 齢 者 理 学 療 法 学 特 論	2
	精 神 障 害 作 業 療 法 学 特 論	2
	神 經 系 作 業 療 法 学 特 論	2
	認 知 障 害 作 業 療 法 学 特 論	2
	国 際 理 学 療 法 学 特 論	2
	呼 吸 循 環 系 理 学 療 法 学 特 論	2
	理 学 療 法 管 理 工 学 特 論	2
	筋 骨 格 系 理 学 療 法 学 特 論	2
	老 年 期 作 業 療 法 学 特 論	2
	生 活 環 境 支 援 学 特 論	2
	精 神 保 健 リハビリテーション学特論	2
	物 理 療 法 学 特 論	2
	リハビリテーション科学特別講義 I	2
	リハビリテーション科学特別講義 II	2
	リハビリテーション科学特別講義 III	2
	リハビリテーション科学特別講義 IV	2
	理 学 療 法 機 能 評 価 学 演 習	2
	徒 手 理 学 療 法 学 演 習	2
	理 学 療 法 学 研 究 方 法 演 習	2
	発 達 障 害 理 学 療 法 学 演 習	2
	地 域 理 学 療 法 学 演 習	2
	高 齢 者 理 学 療 法 学 演 習	2
	精 神 障 害 作 業 療 法 学 演 習	2
	神 經 系 作 業 療 法 学 演 習	2
	神 經 心 理 学 的 検 査 法 演 習	2
	国 際 理 学 療 法 学 演 習	2
呼 吸 循 環 系 理 学 療 法 学 演 習	2	
ス ポ ー ツ 理 学 療 法 学 演 習	2	
地 域 作 業 療 法 学 演 習	2	
特 別 研 究	4	

第3類（杏林大学大学院学則）

診療放射線学分野	画像診断技術学特論	2
	核医学物理学特論	2
	医用画像情報学特論	2
	医用電磁気学	2
	磁気共鳴画像技術学特論	2
	放射線計測学特論	2
	原子核物理学	2
	放射線安全科学特論	2
	特別講義Ⅰ（機能画像解析学）	2
	診療放射線特別講義Ⅱ	2
	診療放射線特別講義Ⅲ	2
	画像診断技術学セミナー	2
	核医学物理学演習	2
医用画像情報学演習	2	
特別研究	4	
研究科共通科目	専門横断科目	2
	研究倫理	2

（2）博士後期課程

専門分野	授業科目	単位数
臨床検査・生命科学分野	感染症疫学	2
	免疫疫学	2
	細胞診断学	2
	機能分子化学	2
	分子解剖学	2
	感染制御学	2
	薬物動態解析学	2
	神経生物学	2
	生体侵襲と免疫	2
	分子解剖学（感覚系）	2
	神経病理学	2
	腫瘍組織学	2
	計算科学	2
	分子解剖学セミナー	2
	免疫学セミナー	2
	神経生物学セミナー	2
	応用免疫学セミナー	2
	細胞診・病理セミナー	2
	生体分子検査学セミナー（1）	2
	生体分子検査学セミナー（2）	2

第3類（杏林大学大学院学則）

保健学・救急救命学分野	疫				学	2							
	養	護	教	育	学	2							
	心		理		学	2							
	人	類	生	態	学	2							
	産	業	保	健	学	2							
	保	健	福	祉	学	2							
	臨	床	心	理	学	2							
	保	健	学	特	別	講	義	I	2				
	保	健	学	特	別	講	義	II	2				
	疫	学	セ	ミ	ナ	一	2						
	環	境	問	題	演	習	2						
	保	健	科	教	材	研	究	2					
	養	護	実	践	学	A	2						
	養	護	実	践	学	B	2						
	養	護	実	践	学	セ	ミ	ナ	一	2			
	保	健	学	特	別	演	習	I	2				
	保	健	学	特	別	演	習	II	2				
	心	肺	蘇	生	法	演	習	2					
	救	急	病	態	学		2						
	救	急	救	命	学	特	別	講	義	I	2		
救	急	救	命	学	特	別	講	義	II	2			
災	害	医	学	セ	ミ	ナ	一	2					
外	傷	セ	ミ	ナ	一	2							
救	急	救	命	学	特	別	演	習	I	2			
救	急	救	命	学	特	別	演	習	II	2			
臨床工学分野	心	電	学	II	2								
	超	音	波	医	学	II	2						
	先	端	臨	床	工	学	III	2					
	生	命	支	援	工	学	2						
	人	体	の	許	容	限	界	2					
	臨	床	工	学	特	別	講	義	I	2			
	臨	床	工	学	特	別	講	義	II	2			
	臨	床	医	学	セ	ミ	ナ	一	2				
循	環	器	病	学	セ	ミ	ナ	一	2				
リハビリテーション 科学分野	が	ん	の	理	学	療	法	学	2				
	徒	手	理	学	療	法	学	2					
	小	児	理	学	療	法	学	2					
	中	枢	神	經	系	理	学	療	法	学	2		
	国	際	理	学	療	法	学	2					
	地	域	生	活	環	境	学	2					
	作	業	科	学	2								
	精	神	障	害	作	業	療	法	学	2			
	神	經	系	作	業	療	法	学	2				
	認	知	・	運	動	・	活	動	障	害	学	2	
	老	年	期	障	害	作	業	療	法	学	2		
臨	床	理	学	療	法	推	論	学	セ	ミ	ナ	一	2

第3類（杏林大学大学院学則）

	障害者スポーツ支援学セミナー	2
	小児理学療法学セミナー	2
	臨床理学療法学研究法セミナー	2
	脳卒中上肢機能回復学セミナー	2
	神経系病態学セミナー	2
	運動器障害作業療法学特論	2
診療放射線学分野	画像診断学特論	2
	分子画像技術学特論	2
	多次元医用画像工学特論	2
	磁気共鳴画像工学特論	2
	放射線応用計測学	2
	画像診断学セミナー	2
	分子画像技術学演習	2
	多次元医用画像工学演習	2
	磁気共鳴画像工学演習	2
特別研究	特別研究Ⅰ	4
	特別研究Ⅱ	2
	特別研究Ⅲ	2

第3類（杏林大学大学院学則）

別表2-2

保健学研究科看護学専攻における授業科目及び単位
（平成29年度入学者から適用）

（1）博士前期課程

専門分野	授業科目	単位数
基礎看護科学分野	看護医療安全教育特論	2
	遺伝看護学特論	2
	法医看護学特論	2
	小児保健看護学特論	2
	生活機能看護学特論	2
	特別講義	2
	看護医療安全教育演習	2
	小児保健看護学演習	2
	生活機能看護学演習	2
	特別演習	2
特別研究	4	
実践看護科学分野	高齢者看護学特論	2
	ウイメンズヘルス看護学特論	2
	助産学特論	2
	小児看護学特論	2
	地域看護学特論Ⅰ	2
	地域看護学特論Ⅱ	2
	在宅看護学特論	2
	特別講義	2
	高齢者看護学演習	2
	ウイメンズヘルス看護学演習	2
	助産学演習	2
	小児看護学演習	2
	地域看護学演習Ⅰ	2
	地域看護学演習Ⅱ	2
	在宅看護学演習	2
特別演習（がん看護）	2	
特別演習（クリティカルケア看護）	2	
特別演習（精神看護）	2	
特別研究	4	
実践看護科学分野 （CNSコース）	がん看護学特論Ⅰ	2
	がん看護学特論Ⅱ	2
	がん看護学特論Ⅲ	2
	がん看護学特論Ⅳ	2
	がん看護学演習Ⅰ	2
	がん看護学演習Ⅱ	2
	がん看護学実習	10
	精神看護学特論Ⅰ	2
	精神看護学特論Ⅱ	2
	精神看護学特論Ⅲ	2

第3類（杏林大学大学院学則）

	精神看護学特論Ⅳ	4
	精神看護学特論Ⅴ	2
	精神看護学演習Ⅰ	2
	精神看護学演習Ⅱ	2
	精神看護学実習	10
	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	2
	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	2
	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	2
	病態治療論	2
	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2
	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2
	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	2
	クリティカルケア看護学実習	10
専攻共通科目	看護教育学特論	2
	看護管理学特論	2
	看護研究方法論	2
	コンサルテーション論	2
	看護政策学特論	2
	家族看護学特論	2
	フィジカルアセスメント	2
	病態生理学	2
	臨床薬理学	2
研究科共通科目	専門横断科目	2
	研究倫理	2

(2) 博士後期課程

専門分野	授業科目	単位数
基礎看護科学分野	生活機能看護学 A	4
	生活機能看護学 B	2
	医療安全管理学 A	4
	医療安全管理学 B	2
	統計学Ⅰ	2
	統計学Ⅱ	2
	小児保健看護学 A	4
	小児保健看護学 B	2
実践看護科学分野	成人看護学（急性期） A	4
	成人看護学（急性期） B	2
	成人看護学（慢性期） A	4
	成人看護学（慢性期） B	2
	小児看護学 A	4

第3類（杏林大学大学院学則）

	小 児 看 護 学 B	2
	精 神 看 護 学 A	4
	精 神 看 護 学 B	2
	ウ イ メ ン ズ ヘ ル ス 看 護 学 A	4
	ウ イ メ ン ズ ヘ ル ス 看 護 学 B	2
	地 域 看 護 学 A	4
	地 域 看 護 学 B	2
ジャーナルクラブ	ジ ャ ー ナ ル ク ラ ブ I	2
	ジ ャ ー ナ ル ク ラ ブ II	2
特 別 研 究	特 別 研 究 I	4
	特 別 研 究 II	2
	特 別 研 究 III	2

第3類（杏林大学大学院学則）

別表2-3

保健学研究科臨床心理学専攻における授業科目及び単位
（令和4年度入学者から適用）

（1）博士前期課程

専門分野	授業科目	単位数
臨床心理学分野	保健医療分野に関する理論と支援の展開	2
	福祉分野に関する理論と支援の展開	2
	教育分野に関する理論と支援の展開	2
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2
	心理的アセスメントに関する理論と実践	2
	心理支援に関する理論と実践	2
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2
	心の健康教育に関する理論と実践	2
	心理実践実習Ⅰ	2
	心理実践実習Ⅱ	2
	心理実践実習Ⅲ	2
	心理実践実習Ⅳ	4
	臨床心理学特別演習Ⅰ	2
	臨床心理学特別演習Ⅱ	2
ゼミナールⅠ	2	
ゼミナールⅡ	2	
特別演習	2	
研究科共通科目	専門横断科目	2
	研究倫理	2

第3類（杏林大学大学院学則）

別表3-1（平成28年度以降の入学生に適用）

国際協力研究科課程における授業科目及び単位

（1）博士前期課程

専攻	専門分野	授業科目	単位数	備考
国際開発専攻	国際政治研究	国際政治特論A	2	
		国際政治特論B	2	
		国際政治経済特論A	2	
		国際政治経済特論B	2	
		安全保障特論A	2	
		安全保障特論B	2	
		現代アジア特論A	2	
		現代アジア特論B	2	
		現代アメリカ特論A	2	
		現代アメリカ特論B	2	
		アジア交流史特論A	2	
		アジア交流史特論B	2	
		日本政治特論A	2	
		日本政治特論B	2	
		国際法特論A	2	
		国際法特論B	2	
		地域圏特論A	2	
		地域圏特論B	2	
	国際経済研究	世界経済特論A	2	
		世界経済特論B	2	
		国際貿易特論A	2	
		国際貿易特論B	2	
		国際金融特論A	2	
		国際金融特論B	2	
		国際協力特論A	2	
		国際協力特論B	2	
		国際開発特論A	2	
		国際開発特論B	2	
技術協力実践論A	2			
技術協力実践論B	2			
NGO特論A	2			
NGO特論B	2			

第3類（杏林大学大学院学則）

国際ビジネス研究	国際企業文化特論A	2	
	国際企業文化特論B	2	
	商法特論A	2	
	商法特論B	2	
	会計特論A	2	
	会計特論B	2	
	国際経営特論A	2	
	国際経営特論B	2	
	マーケティング特論A	2	
	マーケティング特論B	2	
	国際会計特論A	2	
	国際会計特論B	2	
	国際コミュニケーション特論A	2	
	国際コミュニケーション特論B	2	
	法律税務研究	憲法特論A	2
憲法特論B		2	
相続法特論A		2	
相続法特論B		2	
財産法特論A		2	
財産法特論B		2	
刑事法特論A		2	
刑事法特論B		2	
税法特論A		2	
税法特論B		2	
租税法特論A		2	
租税法特論B		2	
情報法制特論A		2	
情報法制特論B		2	
国際文化交流専攻	言語学特論A	2	
	言語学特論B	2	
	対照言語学特論A	2	
	対照言語学特論B	2	
	対照音韻学特論A	2	
	対照音韻学特論B	2	
	日本語構造論A	2	
	日本語構造論B	2	

第3類（杏林大学大学院学則）

	言語文化研究	言語文化相関論 A 言語文化相関論 B 日本語文化特論 A 日本語文化特論 B 日本語教育特論 I A 日本語教育特論 I B 日本語教育特論 II A 日本語教育特論 II B バイリンガル教育特論 A バイリンガル教育特論 B	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
	文化交流研究	日本文化特論 A 日本文化特論 B 文化交流特論 A 文化交流特論 B 現代中国文化社会特論 A 現代中国文化社会特論 B 国際観光特論 A 国際観光特論 B 日欧文化交流史 A 日欧文化交流史 B	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
国際医療協力専攻	国際保健学研究	保健医療研究法 I 保健医療研究法 II 環境保健学特論 社会福祉学特論 人類生態学特論 環境問題特論 母子保健学特論 国際疫学特論 環境経済学特論 ヘルスコミュニケーション特論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
	国際医療研究	感染症・寄生虫学特論 災害医療特論 医療安全特論 医療特論 基礎医学特論 疾病概論 医療社会学特論 医療経済学特論 医療協力関連法規論	2 2 2 2 2 2 2 2 2	

第3類（杏林大学大学院学則）

国際言語コミュニケーション専攻	英語コミュニケーション研究	英語コミュニケーション概論A	2	
		英語コミュニケーション概論B	2	
		国際言語文化論（英語分野）A	2	
		国際言語文化論（英語分野）B	2	
		日英比較言語社会学特論A	2	
		日英比較言語社会学特論B	2	
		テキスト言語学特論A	2	
		テキスト言語学特論B	2	
		英語学特論A	2	
		英語学特論B	2	
	応用言語学特論A	2		
	応用言語学特論B	2		
	日中通訳翻訳研究	日中通訳概論A	2	
		日中通訳概論B	2	
		日中翻訳概論A	2	
		日中翻訳概論B	2	
		国際言語文化論（中国語分野）A	2	
		国際言語文化論（中国語分野）B	2	
		日中比較文化論A	2	
		日中比較文化論B	2	
日中逐次通訳特論ⅠA		2		
日中逐次通訳特論ⅠB		2		
日中逐次通訳特論ⅡA		2		
日中逐次通訳特論ⅡB		2		
日中同時通訳特論A		2		
日中同時通訳特論B		2		
通訳理論と技法特論（中国語分野）A	2			
通訳理論と技法特論（中国語分野）B	2			
翻訳理論と技法特論（中国語分野）A	2			
翻訳理論と技法特論（中国語分野）B	2			
専攻共通	演習	論文指導Ⅰ	8	
		論文指導Ⅱ－1	2	
		論文指導Ⅱ－2	2	
		論文指導（海外、企業等実習）Ⅲ－1	2	
		論文指導（海外、企業等実習）Ⅲ－2	2	

第3類（杏林大学大学院学則）

（2）博士後期課程

専攻	専門分野	授業科目	単位数	備考
開発問題専攻	政治経済・法制	国際経営論演習Ⅰ	4	
		国際経営論演習Ⅱ	4	
		国際経営論演習Ⅲ	4	
		世界経済論演習Ⅰ	4	
		世界経済論演習Ⅱ	4	
		世界経済論演習Ⅲ	4	
		会計学演習Ⅰ	4	
		会計学演習Ⅱ	4	
		会計学演習Ⅲ	4	
		比較法制論演習Ⅰ	4	
		比較法制論演習Ⅱ	4	
		比較法制論演習Ⅲ	4	
		財産法演習Ⅰ	4	
		財産法演習Ⅱ	4	
		財産法演習Ⅲ	4	
		医事法演習Ⅰ	4	
		医事法演習Ⅱ	4	
		医事法演習Ⅲ	4	
		政治学演習Ⅰ	4	
		政治学演習Ⅱ	4	
		政治学演習Ⅲ	4	
		金融論演習Ⅰ	4	
		金融論演習Ⅱ	4	
		金融論演習Ⅲ	4	
		国際法論	2	
		国際経済論	2	
		国際政治論	2	
	地域研究・開発協力	国際貿易論演習Ⅰ	4	
		国際貿易論演習Ⅱ	4	
		国際貿易論演習Ⅲ	4	
		国際協力論演習Ⅰ	4	
		国際協力論演習Ⅱ	4	
		国際協力論演習Ⅲ	4	
現代中国政治論演習Ⅰ		4		
現代中国政治論演習Ⅱ		4		
現代中国政治論演習Ⅲ		4		
人類生態学演習Ⅰ		4		
人類生態学演習Ⅱ		4		

第3類（杏林大学大学院学則）

	人類生態学演習Ⅲ	4
	環境保健学演習Ⅰ	4
	環境保健学演習Ⅱ	4
	環境保健学演習Ⅲ	4
	環境問題演習Ⅰ	4
	環境問題演習Ⅱ	4
	環境問題演習Ⅲ	4
	社会福祉学演習Ⅰ	4
	社会福祉学演習Ⅱ	4
	社会福祉学演習Ⅲ	4
	医療経済学演習Ⅰ	4
	医療経済学演習Ⅱ	4
	医療経済学演習Ⅲ	4
	社会言語学演習Ⅰ	4
	社会言語学演習Ⅱ	4
	社会言語学演習Ⅲ	4
	日本語教授法論演習Ⅰ	4
	日本語教授法論演習Ⅱ	4
	日本語教授法論演習Ⅲ	4
	日本語教育論演習Ⅰ	4
	日本語教育論演習Ⅱ	4
	日本語教育論演習Ⅲ	4
	言語文化論演習Ⅰ	4
	言語文化論演習Ⅱ	4
	言語文化論演習Ⅲ	4
	国際言語コミュニケーション（英語分野）演習Ⅰ	4
	国際言語コミュニケーション（英語分野）演習Ⅱ	4
	国際言語コミュニケーション（英語分野）演習Ⅲ	4
	国際言語コミュニケーション（中国語通訳分野）演習Ⅰ	4
	国際言語コミュニケーション（中国語通訳分野）演習Ⅱ	4
	国際言語コミュニケーション（中国語通訳分野）演習Ⅲ	4
	国際言語コミュニケーション（中国語翻訳分野）演習Ⅰ	4
	国際言語コミュニケーション（中国語翻訳分野）演習Ⅱ	4
	国際言語コミュニケーション（中国語翻訳分野）演習Ⅲ	4
	観光保健生態学	2
	地域開発論	2
	国際コミュニケーション論	2
	日本語文化論	2
	比較文化論	2
	異文化コミュニケーション論	2
	言語文化論	2
	介護政策論	2

第3類（杏林大学大学院学則）

別表3-2（平成31年度以降の入学生に適用）

国際協力研究科課程における授業科目及び単位

(1) 博士前期課程

専攻	専門分野	授 業 科 目	単位数	備 考
国際開発専攻	国際政治研究	国際政治特論A	2	
		国際政治特論B	2	
		国際政治経済特論A	2	
		国際政治経済特論B	2	
		比較政治学特論A	2	
		比較政治学特論B	2	
		比較行政学特論A	2	
		比較行政学特論B	2	
		現代アジア特論A	2	
		現代アジア特論B	2	
		現代アメリカ特論A	2	
		現代アメリカ特論B	2	
		アジア交流史特論A	2	
		アジア交流史特論B	2	
		日本政治特論A	2	
		日本政治特論B	2	
		国際法特論A	2	
		国際法特論B	2	
	地域圏特論A	2		
	地域圏特論B	2		
	国際経済研究	日本経済特論A	2	
		日本経済特論B	2	
		国際貿易特論A	2	
		国際貿易特論B	2	
		国際金融特論A	2	
		国際金融特論B	2	
		国際協力特論A	2	
		国際協力特論B	2	
国際開発特論A		2		
国際開発特論B		2		
アメリカ経済特論A	2			
アメリカ経済特論B	2			
ヨーロッパ経済特論A	2			
ヨーロッパ経済特論B	2			

第3類（杏林大学大学院学則）

	国際ビジネス研究	経営特論A	2	
		経営特論B	2	
		会計特論A	2	
		会計特論B	2	
		国際経営特論A	2	
		国際経営特論B	2	
		産業システム特論A	2	
		産業システム特論B	2	
		マーケティング特論A	2	
		マーケティング特論B	2	
		会計制度特論A	2	
		会計制度特論B	2	
		国際会計特論A	2	
		国際会計特論B	2	
			法律税務研究	憲法特論A
憲法特論B	2			
企業法特論A	2			
企業法特論B	2			
家族法特論A	2			
家族法特論B	2			
財産法特論A	2			
財産法特論B	2			
刑事法特論A	2			
刑事法特論B	2			
租税法特殊研究A	2			
租税法特殊研究B	2			
租税法特論A	2			
租税法特論B	2			
比較法特論A	2			
比較法特論B	2			
国際医療協力専攻	国際保健学研究	保健医療研究法Ⅰ	2	
		保健医療研究法Ⅱ	2	
		環境保健学特論	2	
		人類生態学特論	2	
		母子保健学特論	2	
		国際疫学特論	2	
		環境経済学特論	2	
		ヘルスコミュニケーション特論	2	

第3類（杏林大学大学院学則）

	国際医療研究	感染症・寄生虫学特論 災害医療特論 医療特論 基礎医学特論 疾病概論 医療社会学特論 医療経済学特論 医療協力関連法規論	2 2 2 2 2 2 2 2			
	国際福祉研究	高齢者福祉特論 国際社会保障特論 国際児童福祉特論 福祉サービス管理特論 障害者福祉特論	2 2 2 2 2			
グローバル・コミュニケーション専攻	日中通訳翻訳研究	日中通訳概論A 日中通訳概論B 日中翻訳概論A 日中翻訳概論B 日中比較文化論A 日中比較文化論B 日中逐次通訳特論A 日中逐次通訳特論B 日中同時通訳特論A 日中同時通訳特論B 通訳理論と技法特論（中国語分野）A 通訳理論と技法特論（中国語分野）B	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
		英語研究	英語コミュニケーション概論A 英語コミュニケーション概論B 国際言語文化論（英語分野）A 国際言語文化論（英語分野）B 日英比較言語社会学特論A 日英比較言語社会学特論B テキスト言語学特論A テキスト言語学特論B 英語学特論A 英語学特論B 応用言語学特論A 応用言語学特論B	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
			日本語研究	日本語構造論A 日本語構造論B	2 2	

第3類（杏林大学大学院学則）

		言語文化相関論A 言語文化相関論B 日本語文化特論A 日本語文化特論B 日本語教育特論ⅠA 日本語教育特論ⅠB 日本語教育特論ⅡA 日本語教育特論ⅡB 対照音韻学特論A 対照音韻学特論B	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
	共通科目	言語学特論A 言語学特論B 日本文化特論A 日本文化特論B 観光文化論A 観光文化論B 日欧文化交流史A 日欧文化交流史B	2 2 2 2 2 2 2 2	
専攻共通	基礎科目	アカデミック・ライティング アカデミック・ジャパニーズ 統計学	2 2 2	
	演習	論文指導Ⅰ 論文指導Ⅱ－1 論文指導Ⅱ－2 論文指導(海外、企業等実習)Ⅲ－1 論文指導(海外、企業等実習)Ⅲ－2	8 2 2 2 2	

第3類（杏林大学大学院学則）

（2） 博士後期課程

専攻	専門分野	授業科目	単位数	備考
開 発 問 題 専 攻	政治経済・法 制	国際経営学演習Ⅰ	4	
		国際経営学演習Ⅱ	4	
		国際経営学演習Ⅲ	4	
		国際経営論演習Ⅰ	4	
		国際経営論演習Ⅱ	4	
		国際経営論演習Ⅲ	4	
		日本経済論演習Ⅰ	4	
		日本経済論演習Ⅱ	4	
		日本経済論演習Ⅲ	4	
		国際経済学演習Ⅰ	4	
		国際経済学演習Ⅱ	4	
		国際経済学演習Ⅲ	4	
		会計学演習Ⅰ	4	
		会計学演習Ⅱ	4	
		会計学演習Ⅲ	4	
		比較法制論演習Ⅰ	4	
		比較法制論演習Ⅱ	4	
		比較法制論演習Ⅲ	4	
		民事法演習Ⅰ	4	
		民事法演習Ⅱ	4	
		民事法演習Ⅲ	4	
		刑事法演習Ⅰ	4	
		刑事法演習Ⅱ	4	
		刑事法演習Ⅲ	4	
		政治学演習Ⅰ	4	
		政治学演習Ⅱ	4	
		政治学演習Ⅲ	4	
		国際政治学演習Ⅰ	4	
		国際政治学演習Ⅱ	4	
		国際政治学演習Ⅲ	4	
		金融論演習Ⅰ	4	
		金融論演習Ⅱ	4	
		金融論演習Ⅲ	4	
		国際法論演習Ⅰ	4	
		国際法論演習Ⅱ	4	
		国際法論演習Ⅲ	4	
国際法論	2			

第3類（杏林大学大学院学則）

		国際経済論	2	
		国際政治論	2	
	地域研究・開 発協力	国際貿易論演習Ⅰ	4	
		国際貿易論演習Ⅱ	4	
		国際貿易論演習Ⅲ	4	
		国際協力論演習Ⅰ	4	
		国際協力論演習Ⅱ	4	
		国際協力論演習Ⅲ	4	
		現代中国政治論演習Ⅰ	4	
		現代中国政治論演習Ⅱ	4	
		現代中国政治論演習Ⅲ	4	
		人類生態学演習Ⅰ	4	
		人類生態学演習Ⅱ	4	
		人類生態学演習Ⅲ	4	
		環境問題演習Ⅰ	4	
		環境問題演習Ⅱ	4	
		環境問題演習Ⅲ	4	
		社会福祉学演習Ⅰ	4	
		社会福祉学演習Ⅱ	4	
		社会福祉学演習Ⅲ	4	
		医療経済学演習Ⅰ	4	
		医療経済学演習Ⅱ	4	
		医療経済学演習Ⅲ	4	
		日本語学演習Ⅰ	4	
		日本語学演習Ⅱ	4	
		日本語学演習Ⅲ	4	
		国際言語コミュニケーション（英語分野）演習Ⅰ	4	
		国際言語コミュニケーション（英語分野）演習Ⅱ	4	
		国際言語コミュニケーション（英語分野）演習Ⅲ	4	
		国際言語コミュニケーション（中国語通訳分野）演習Ⅰ	4	
		国際言語コミュニケーション（中国語通訳分野）演習Ⅱ	4	
		国際言語コミュニケーション（中国語通訳分野）演習Ⅲ	4	
		国際保健医療学特論	2	
		日本言語文化論	2	
		比較社会文化論	2	
	コミュニケーション論	2		
	応用言語学	2		
	言語教育論	2		

第3類（杏林大学大学院学則）

別表 4

授業料その他の学納金

学生区分	学納金等区分	医学研究科	保健学研究科				国際協力研究科	
		博士課程	博士前期課程		博士後期課程		博士前期課程	博士後期課程
			保健学 専攻・ 臨床心理学 専攻	看護学 専攻	保健学 専攻	看護学 専攻		
大学院生	※入 学 料	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円
	授業料(年額)	600,000円	500,000円	800,000円	500,000円	600,000円	450,000円	450,000円
	施設設備費(初年度)	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円

※ 本学の学部卒業生及び大学院修了者が入学する場合には、入学料を免除する。

○杏林大学大学院研究科委員会規程

制定 平成19年 3月12日

（目的）

第1条 この規程は、杏林大学大学院学則（以下「学則」という。）第7条に規定する杏林大学大学院研究科委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し、学則第12条の規定に基づき、必要な事項を定めることを目的とする。

（招集）

第2条 委員会は、当該研究科の研究科長が招集し、その議長となる。

2 研究科長に事故あるときは、研究科長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

（会議）

第3条 委員会は、原則として毎月1回定例に会議を開くものとする。ただし、議長が必要と認めたときは臨時にこれを開くことができる。

（定足数及び議決の方法）

第4条 委員会は、構成員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって議決する。可否同数となった場合は、議長の決するところによる。

（庶務）

第5条 委員会の庶務は、各研究科の事務部が、それぞれ担当する。

附 則

この規程は、平成19年 4月 1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性	
(1)大学の沿革と教育目的・理念	p2
(2)教育課程の変遷と改組の必要性	p2
(3)医学研究科の特徴と人材養成像	p3
2. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称	p4
3. 教育課程の編成の考え方及び特色	p4
4. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件	
(1)修了要件	p8
(2)教育方法	p9
(3)履修方法	p9
(4)研究指導の方法	p10
(5)学位論文審査体制	p11
(6)倫理審査体制	p13
5. 基礎となる学部との関係	p13
6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で利用させる場合	p14
7. 大学院設置基準第 14 条による教育方法の実施	p14
8. 入学者選抜の概要	
(1)学生受入の方針	p16
(2)入学者選抜の概要	p17
9. 教員組織の編成の考え方及び特色	p18
10. 施設・設備等の整備計画	p18
11. 管理運営	p18
12. 自己点検・評価	p19
13. 認証評価	p19
14. 情報の公表	p20
15. 教育内容等の改善のための組織的な研修等	p20

1. 設置の趣旨及び必要性

(1)大学の沿革と教育目的・理念

杏林大学（以下、本学という。）は、1954年に開設された三鷹新川病院を前身とし、創立55年を迎える総合大学である。名称は、中国に伝わる故事にちなみ、「良医」を指す言葉である「杏林」に由来する。1970年に開設された本学医学部はその名の示すとおり、専門的知識や技術にすぐれているだけでなく、立派な人格を持った良き医師など社会に貢献することのできる良き職業人を育成することを目的としており、これまで多くの臨床医、医学研究者等を輩出してきた。また、医学部とともに開設された本学医学部附属病院は、東京都西部地域唯一の特定機能病院として高度医療を提供するなど、開設から一貫して地域の中核病院として地域医療を支えている。

本学医学部の大学院は、生理系、病理系、内科系、外科系、社会医学系の5つの専攻を有する医学研究科として1976年に開設された。建学の精神である「真・善・美の探求」に基づいて、「科学的な問題解決能力を備える臨床医、旺盛な創造性を持つ基礎医学・生命科学の研究者、社会医学に貢献する有為な人材等豊かな人間性と倫理観・使命感にあふれる医療人の養成」を理念・目的として掲げ、これまで490名の医学博士を世に送り出してきた。

(2)教育課程の変遷と改組の必要性

医学研究科は1976年から現在に至るまで、開設時に設置された5専攻により教育を行ってきた。従来、医学研究科における大学院教育では、医学・医療における特定の専門分野について深く研究を行い得る次世代研究者の養成に重点がおかれ、本学もこれに準じて教育、研究を行ってきた。

しかし、「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて」においては、医療系大学院に求められる機能として、「研究者の養成のみならず、医師・歯科医師など高度の専門性を必要とされる業務に必要な能力と研究マインドを涵養すること」が掲げられている。本学医学研究科では90%以上の学生が医師免許を有し、診療業務等に従事しており、また、研究科修了後もその多くが臨床医としての活動を継続することから、優れた研究能力等を備えた臨床医の養成は本学の重要な使命となっている。このような状況も踏まえ、今回、本学医学研究科ではこの「高度な臨床能力とともに研究マインド」を併せ持つ人材を養成すべく、各学生が必要とする知識や技術を、専攻領域に限定されることなく、幅広く学べる体制を構築する必要があると考え、従来の5専攻を廃し、1専攻（医学専攻）とすることを計画した。

従来の5専攻の下では、学生の教育や研究指導は所属する専攻の専門分野の教員によってのみ行われてきた。しかし、医学領域を取り巻く環境は、日々進歩しており、専門分野の教員のみでは社会的要請に十分に応えることのできる人材の育成が難しくなってきた。特に昨今、新たな研究手法や考え方が急速かつ活発に提案されるようになり、

専門性を担保しながらも、関連領域と協働しつつ医学領域での様々な課題に広く対応しうる人材の育成が強く求められている。

医学研究科では、このような社会的な背景を踏まえ、これまでもカリキュラム改編等により、専攻を超えた学際的な教育を行う体制を構築しつつあった。しかしながら、今回はその目的をより明確にするため、現在の 5 専攻を融合し発展させる形で、医学専攻 1 専攻とすることが必須であると考えた。

(3)医学研究科の特徴と人材養成像

大学院学則第 4 条の 2 第 2 項に「医学研究科は、科学的な問題解決能力を備える臨床医、旺盛な創造性を持つ基礎医学・生命科学の研究者、社会医学に貢献する有為な人材等豊かな人間性と倫理観・使命感にあふれる医療人の養成を目的とする」と明記されている。この人材養成の目的を達成するために、「医学・医療の各領域で指導的な役割を果たすべく、当該領域に関する高度な専門知識・技能を含む豊かな学識を備えるとともに、自立した研究者として研究活動を行うための基本的な研究能力を、自らの研究の実施と論文執筆を通して証明できること」という医学研究科の教育目標のもと、以下のようにディプロマ・ポリシーを設定している。

医学研究科では、教育目標を達成するために、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、博士（医学）の学位を授与する。

(1) 社会的責任

・豊かな人間性、幅広い学識、高い倫理観を身につけ、医学・医療の分野において指導的な役割を担うことができる。

(2) 専門知識と技術

・各専門領域に関する知識と技術を身につけ、実践に活かすことができる。

(3) 情報収集と分析

・医学・医療に関わる諸分野に関して、適切な情報の収集と分析ができる。

(4) 問題解決能力

・医学・医療分野に関わる課題を設定して、その課題追求のための研究計画を策定し、適切に研究を遂行できる。

(5) 情報発信力

・研究によって得られた知見を客観的に評価し、研究論文として発信できる。

・プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけ国際学会や国際誌に、研究内容を説得力を持って発表することができる。

本学医学部は、卒業生の大部分が地域医療の担い手として活躍する臨床医であることが特徴である。このような特性をもつ大学に併設する大学院が養成すべき人材は、まずは自らの専門性を極めながら、一方で専門以外の幅広い医学の知識を修めることに努力を惜しまず、修得した全ての知識をもって解決すべき課題を見出し、かつ、課題解決のため適切に情報を収集・分析し、客観的判断に基づき見出された結果を学会や論文で公表し医学の発展に貢献する、そしてそれらの全てのプロセスを後進に教授することができる人材であると考え。

本学ではこれまでも基礎医学研究で得られた知見を積極的に臨床医学に活用するための取組みも行ってきた。例えば統合生理学分野では、整形外科学の学生の学位論文指導を通じて、運動機能障害の客観的検査法とリハビリテーション法の確立に関する研究を共同して行ってきた。また、肉眼解剖学分野では耳鼻咽喉科学と共同で、発声のメカニズムの研究を行っている、などである。

このように、臨床医学領域、基礎医学領域がそれぞれの特性を持ちながら融合し、協働しながら本学の医学研究、ひいては大学院教育を支えており、目標とすべき人材を育成するための土壌は十分に醸成されているといえる。(資料1)

2. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

現行の5専攻(生理系専攻、病理系専攻、内科系専攻、外科系専攻、社会医学系専攻)を廃止し、新たに医学専攻を設置する。

研究科の名称：医学研究科

英語名称：Graduate School of Medicine

専攻の名称：医学専攻

英語名称：Doctoral Course of Medicine

学位の名称：博士(医学)

英語名称：Doctor of Philosophy in Medical Science

3. 教育課程の編成の考え方及び特色

医学研究科では、専攻の再編成に伴い、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のとおり定める。

医学研究科は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、主科目、共通科目の2つの区分からなる授業科目を編成し、コースワークとリサーチワークを組み合わせた教育を行う。主科目(専門科目)を体系的かつ順次的に編成し、講義、実験、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。共通科目は体系的に編成し、専門以外の幅広い学識の獲得を可能にする。

教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。

(1) 教育内容

(1-1) 社会的責任を果たすことのできる人材の育成のために

- ・生命科学・医学研究分野における最新の知見を幅広く修得するため、「医学研究講義Ⅰ」と「医学研究講義Ⅱ」を配置する。
- ・高い倫理観を身に付けるため、医学研究遂行上必要となる倫理に関する初期教育を行うほか、e-learning 教材 (eAPRIN) を用いた教育を行う。

(1-2) 専門知識と技術の修得のために

- ・専門領域の知識と技術を修得するため、「講義・演習」および「実験・実習」を配置する。
- ・専門領域の最新の知見を修得するため、「特別研究」において学会参加、論文抄読等を行う。

(1-3) 専門分野の情報収集と分析技法の修得のために

- ・情報収集能力およびその分析技法を修得するため、医学研究講義Ⅰで「医学文献収集管理の技術」「実験データのデジタル画像処理・解析」を学ぶとともに、「統計解析セミナー」において実践的な演習を行う。

(1-4) 問題解決能力の涵養のために

- ・計画に添った適切な研究の実践、研究結果の分析を通じて問題解決能力を涵養するため、「課題研究」を配置する。

(1-5) 情報発信力の涵養のために

- ・医学研究講義Ⅰでは、「論文作成の基本技術」「研究成果発表の技術」の講義を配置する。
- ・設定した研究課題の結果を論文にまとめるため、「特別研究」において論文執筆指導を行う。

(2) 教育方法

(2-1) 幅広い学識の修得のために

通常の講義の他に、e-learning を積極的に活用する。

(2-2) 専門知識・技術の修得のために

- ・専門科目は、指導教員の個別指導もしくは少人数指導による双方向講義を行う。
- ・アクティブラーニングを積極的に実施する。

(2-3) 情報発信力の涵養のために

- ・中間報告会を開催し、研究進捗状況等の報告を行う。

(2-4) ライフイベントによらない効率的な学習を可能にするために

医学研究講義Ⅰおよび医学研究講義Ⅱはオンラインで開講する。

(3) 成果の測定

以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力等を測定し、博士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価する。

(3-1) 各学年終了時に、国際的成績評価である GPA (Grade Point Average) を用いて履修科目の達成度を測定する。

(3-2) eAPRIN の試験を用いて、研究倫理の修得度を測定する。

(3-3) 中間報告会と学位論文審査において、卒業認定・学位授与の方針で示した能力の修得度を測定する。

上記のカリキュラム・ポリシー等に沿って、医学研究科の教育課程は専門科目（主科目・副科目）、共通科目（主科目・副科目）の科目区分に分けて構成する。

① 専門科目

学生が選択したコースの専門教育を行うため、必修科目として全コースに「講義・演習」、「実験・実習」、「課題研究」の3科目を配置する。

「講義・演習」では研究を実施する上で必須となる専門分野に関する高度な知識の修得を目標とする。

「実験・実習」では講義・演習で修得した知識を踏まえながら、専門分野の研究で必要となる技術等を修得することを目標とする。

「課題研究」では「講義・演習」および「実験・実習」で修得した知識・技術等を用いて実際に研究を実施し、結果をまとめることを目標とする。

② 共通科目

共通科目は全コース共通の必修科目として、以下の講義を配置する。

a、特別研究

特別研究では研究指導教員のもとで研究課題の設定、研究計画の立案を行い、「課題研究」で見出された研究結果を適切に評価・分析し、学会発表や研究論文の作成を行う必修の主科目である。4年間の通年科目として、専門分野の指導教員のみならず、必要に応じて他分野の教員も指導にあたることを可能とする。

(研究指導の概要)

1年次

- ・取り組むべき研究テーマを見出し、在学期間中の研究計画の概要を立案する。
- ・関連分野の文献調査や国内外の学会や研究会に参加することにより、研究テ

マに関連する学識を深める。

2年次

- ・1年次に履修した「講義・演習」を通じて得た専門領域の知識を活用し、3年次の研究実施に向けて具体的な研究計画を立案する。
- ・引き続き関連分野の文献調査や国内外の学会や研究会に参加することにより、研究テーマに関連する学識を深める。

3年次

- ・「課題研究」で遂行する研究について、研究の進捗状況、結果についてディスカッションを行い、必要に応じて研究計画の見直しを行う。
- ・学内で開催する中間報告会での報告や専門領域の学会発表により、プレゼンテーション能力や研究成果をまとめる能力を身に付ける。

4年次

- ・学位論文作成の課程で、研究結果を適切に解析し、成果を原著論文にする手法を学ぶ。

b、医学研究講義Ⅰ

医学研究講義Ⅰは、医科学研究を遂行するにあたり、専門分野を問わず必要となる基礎的な知識・技能を修得することを目的とした必修の副科目である。具体的には高い倫理観をもって研究に臨むための基本的な倫理教育、安全かつ正確に研究を進めるための試薬や機器の使用・管理方法、研究結果を正しく解析するための統計手法、臨床研究遂行において必要となる解剖学・分子生物学の講義などを配置する。

c、医学研究講義Ⅱ

医学研究講義Ⅱは、医学に関する幅広い学識を得ることを目的とした必修の副科目である。基礎医学・臨床医学を問わず幅広い専門分野の教員により、各教員の専門分野に関する基礎的知識や最新のトピックスに関する講義を行う。

このように①と②の科目を配置することで、選択したコースに関する知識・技能等を1年次から3年次にかけて体系的に修得できる体制を整えながら、医学研究講義Ⅰおよび医学研究講義Ⅱにおいて幅広く医学の知識を学び、学位論文の完成を目指す。選択したコース以外の科目は指導教員の判断のもと、必要に応じて副科目として選択することが可能とする。

なお、医学専攻の下には、必要性に応じた自由な枠組みによる教育が可能となるよう46の個別分野をコースとして設置する。設置するコースは以下のとおりとする。

脳神経内科学コース、呼吸器内科学コース、腎臓・リウマチ膠原病内科学コース、循環器内科学コース、血液内科学コース、糖尿病・内分泌・代謝内科学コース、消化器内科学コース、腫瘍内科学コース、高齢医学コース、精神神経科学コース、小児科学コース、消化器・一般外科学コース、呼吸器・甲状腺外科学コース、乳腺外科学コース、小児外科学コース、救急医学コース、脳神経外科学コース、心臓血管外科学コース、皮膚科学コース、形成外科学コース、泌尿器科学コース、眼科学コース、耳鼻咽喉科学コース、産科婦人科学コース、放射線医学コース、放射線腫瘍学コース、麻酔科学コース、総合医療学コース、脳卒中医学コース、整形外科学コース、リハビリテーション医学コース、臨床検査医学コース、肉眼解剖学コース、顕微解剖学コース、統合生理学コース、病態生理学コース、代謝生化学コース、細胞生化学コース、薬理学コース、病理学コース、感染症学コース、衛生学・公衆衛生学コース、法医学コース、発生・遺伝学コース、生体物理工学コース、分子機能生化学コース

基礎医学研究に重点をおくことを希望する臨床系学生にとっては、基礎系コースを主科目として選択しながら、臨床で専門とするコースの科目を副科目として選択することも可能で、専門領域を超えた幅広い学修が可能になるとともに、将来の進路選択に幅を持たせることも可能であると考えます。

4. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

(1) 修了要件

医学研究科の修了要件は以下のとおり「杏林大学大学院学則」第 26 条の 2(1)に明記されており、今回の専攻の再編成後も大きな変更はない。

医学研究科博士課程の修了要件は、同課程に 4 年以上在学し、30 単位以上を修得し、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、次に該当するものは定めるとおり同課程に在学すれば足りるものとする。

特に優れた研究業績を挙げた者 3 年以上

第 2 2 条により単位が認定された者 3 年以上

特に優れた研究業績を挙げ、かつ第 2 2 条により単位が認定された者

2 年以上

(2) 教育方法

医学研究科の教育方法はカリキュラム・ポリシーに基づき、個別指導もしくは少人数指導となっている。必修科目・副科目の医学研究講義Ⅰ・医学研究講義Ⅱは原則として

WEB 講義で開講する。特に臨床業務に携わりつつ大学院教育を受ける社会人学生が多いことから、1 週間の開講期間を設け、学生は自身の都合に合わせて受講が可能な設定とする。

(3)履修方法

学生は選抜時にコースを定め、コースで定められた専門分野の科目（主科目）を履修する。1 年次に講義・演習、2 年次に実験・実習、3 年次に課題研究を履修し、専門分野における知識・技能を講義・演習および実験・実習で体系的に修得し、得られた知識・技能を活用して課題研究において研究を遂行する。必要な知識・技能を補うため、副科目を選択することも可能である。専門分野の必修科目を履修すると同時に、共通科目の必修科目である特別研究において各自の課題設定や研究進捗の状況に合わせた研究指導を受ける。なお、講義・演習は1 年次の前期で履修できるように設定しており、入学時から研究テーマが定まっている学生については、1 年次後期から実験・実習を履修し、早期修了を目指すことも可能としている。研究テーマが定まっていない学生については、特別研究において研究テーマ探索のため必要な研究指導を受け、2 年次までに研究テーマを見出し、2 年次終了までに具体的な研究計画を立案できるよう指導を受ける。

医学研究講義 I および医学研究講義 II は単位認定科目として所定回数のお出席をもって単位認定としており、1 年次の履修を推奨しているが、2～4 年次に履修することも妨げない。（資料 2、3）

なお、他大学の大学院等において修得した単位については、杏林大学大学院学則第 22 条において以下のように定められている。

（履修の方法）

第 2 2 条 教育課程及び履修方法の細部については、各研究科において定める。

2 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、予め協議の上、本学の他研究科又は他大学の大学院等の授業科目を履修させることができ、15 単位を超えない範囲で本学各研究科において履修したものとみなすことができる。

3 学生が本学入学前に他の大学院において履修した授業科目の単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を、15 単位を超えない範囲で本学において履修したものとみなすことができる。

4 前 2 項の規定により認定できる単位数は合わせて 20 単位を超えないものとし、当該単位数と修得に要した期間等を勘案して、1 年を超えない範囲で本学の在学期間として算入することができる。ただし、博士後期課程の在学期間には適用しないものとする。

(4)研究指導の方法

医学専攻では、専門分野（主科目、副科目）の研究指導教授および指導教授が指名する研究指導補助教員による複数指導体制をとる。教育研究上有益であると認めるときには、学内の他の専門分野の教員の指導を受けることが可能であるとともに、他大学大学院及び研究機関等へ研究指導等の委託を行うことも可能である。

研究指導科目である特別研究では、2年次終了までに具体的な研究計画を立案できるよう、研究テーマの探索から計画立案までの指導を行う。3年次は研究の進捗状況に応じた指導、4年次は学位論文作成に係る指導を行う。これ以外にも、1～4年次にかけて、関連領域の文献の抄読・学会参加等を行いながら、研究の進捗状況や養成すべき能力に応じて、学会発表などを行い、そのために必要な指導を行う。

特に3年次は課題研究で遂行する研究の進捗状況に応じて、研究計画の見直しや追加実験の検討など研究に関する具体的な指導を受ける。また、原則3年次に医学研究科の中間報告会において自身が遂行する研究に関する報告を行う必要があることから、抄録作成やプレゼンテーションの方法について必要な指導を受ける。なお、学位論文申請にあたっては、中間報告会への参加を必須としている。

4年次は専門分野に関する教育を終え、論文の作成に取り掛かる。この論文作成の課程で必要となる全ての事項について研究指導を受ける。論文審査において実施される公開論文発表会におけるプレゼンテーションについても必要な指導を受ける。

また、研究指導計画を明確にするため、まず、入学時に「履修計画書および研究指導計画書」の提出を求めている。学生は指導教授（主科目、副科目）の指導のもとで履修計画を、指導教授（主科目）は学生の同意のもとで4年間の研究指導計画の概要を立案し、大学院教務担当（大学院教務委員会）に提出する。2年次以降は進級時に「研究進捗状況報告・研究計画書および研究指導計画書」の提出を求め、学生は前年度に行った研究活動の進捗状況を報告し、指導教授は進捗状況の評価および進捗状況に応じた次年度における具体的な研究指導計画を立案し、大学院教務委員会に提出する。これらの研究指導計画書に基づいて、研究課題の設定など研究の初期段階から研究進捗状況の確認、学会発表・雑誌投稿、最終的には学位論文作成に至るまで、必要に応じた指導を行う。

なお、大学院教務委員会に提出された「履修計画書および研究指導計画書」・「研究進捗状況報告・研究計画書および研究指導計画書」は教務委員が内容を確認し、必要に応じて学生・指導教授にコメントやアドバイスを行っている。指導教授以外の教員が研究進捗状況や研究指導計画書に目を通すことで、研究指導が適切に行われているか、学位論文のテーマとなりうる質の高い研究が実施されているか、などを確認する機能も果たしている。また、3年次に開催される中間報告会については、事前に医学研究科委員会全委員に研究内容に関する抄録を配信し、内容の確認依頼と事前質問の受付を行っ

ている。学位論文作成に向けて、様々な分野の教員から寄せられるアドバイスや質疑を通じて、追加実験の立案や一部計画の見直しなど研究をより充実したものとする取り組みに繋がる機会となっている。指導教授以外の直接的な研究指導のほか、上記のような取り組みにより医学研究科全体で大学院生の研究進捗状況・研究指導状況を確認する体制が取られており、学位の質の担保の一助を担っているといえる。

研究指導科目である特別研究は主に演習と実習により教育が行われる。4年間で8単位としているが、前述のとおり、学位論文完成に至るまでのあらゆる指導が含まれている。

(5)学位論文審査体制

①学位論文審査手順

学位審査のための学位申請論文(Thesis)は、書き上げ論文の形式で提出することとしている。学位論文審査申請時の印刷公表の有無は問わないが、すでに公表している場合は、書き上げ論文に別刷りを添えて提出する。

論文審査委員は医学研究科委員会において指名された5名を原則とし、そのうち1名は主査として審査委員会の取りまとめを行う。主査以外の4名は副査として論文審査に携わる。必要性が認められた場合は学外審査委員を委員として加えることができる。なお、指導教授は審査委員となれず、指導教授と同教室に所属する教授、謝辞に記載がある教授も審査委員に加わることができない。

学位審査体制は、まず審査委員のみの書面審査が行われ、必要に応じて論文の修正等を求め、修正論文をもって改めて書面審査を行うこととしている。書面審査終了後、公開審査会として公開論文発表会を行う。公開論文発表会では、プレゼンテーション、質疑応答、試問を行うこととし、学生は学位論文の内容として、当該研究を行うに至った背景・考察等のプレゼンテーションを行った後、学位論文の内容や周辺領域の学識について質疑応答・試問を受ける。

公開審査会終了後、主査は学位論文審査結果要旨を作成し、医学研究科委員会に報告する。報告を受けた医学研究科委員会は審議のうえ、学位を授与すべきか否かを議決する(最終審議)。審議には医学研究科委員会委員の3分の2以上の出席を必要とし、議決には出席者の3分の2以上の同意を必要とする。研究科長は医学研究科委員会の審議結果を学長に報告し、学長が学位の授与を決定する。

②学位論文審査の透明性および厳格性

学位論文審査の透明性および厳格性を担保するため、以下の取り組みを行っている。

- ・学生の研究指導等を行った可能性のある教員は主査・副査を含めて審査委員に登用しない。

- ・杏林大学学位規程 第 11 条の 2 において教員等の責務として以下を定めている。

審査に関わる教員等は、法令その他本学が定める諸規程を遵守することはもとより、高い倫理観と社会的良識を持って、公正かつ誠実な職務の遂行を行うこととする

- ・杏林大学大学院医学研究科学位論文取扱内規 第 8 条において倫理規則として以下を定めている。

学位審査に係る教職員は、利害関係者から疑惑や不信を招くような金品を受け取ってはならない。

- ・公開論文発表会による公開審査の他に、医学研究科委員会全委員に対し、公開論文発表会開催前に学位論文要旨を、医学研究科委員会（審議）前に学位論文審査結果要旨を配信し、内容に疑義がないか確認を行っている。

上記の取り組みにより、学位論文審査の透明性・厳格性は十分保たれていると考える。

③学位論文評価基準

学位論文の評価基準を以下のとおり定め、「学位論文申請要領」および全学生に配布する「大学院要項」に掲載している。学位論文申請要領および大学院要項はホームページ上で公開されているほか、大学院要項は冊子体で全学生および医学研究科委員会全委員に配布している。

学位論文審査基準

審査項目

論文審査

- 1、研究課題の背景の明確性・課題設定の妥当性
- 2、研究の方法論の妥当性（実験方法及びデータ処理法含む）
- 3、結果の表現・表示（図表等）の適切性
- 4、結果に関する考察の適切性
- 5、先行研究との関連についての考察の適切性
- 6、全体を通じた論旨の展開の適切性
- 7、文章表現の妥当性
- 8、研究の独創性
- 9、倫理面での適切性

試問及び最終試験

- 10、論文のプレゼンテーションが適切に行われたか
- 11、論文内容についての質疑に適切に対応できたか
- 12、論文に関連した内容も含め、当該専門領域に関する試問に適切に答えられたか

上記の各項目をふまえて総合評価を行う

評価（1～5の5段階評価）

- 5：秀逸である
- 4：優れている
- 3：概ね妥当
- 2：大幅な改善が必要
- 1：根本的な改善が必要、不適

合格の基準

- ・論文審査・試問及び最終試験の全ての項目で3以上、総合評価で4以上となること。

(6)倫理審査体制

医学系研究の倫理審査は、医学部倫理委員会が担当している。医学研究科で実施されるヒトを対象とした研究は当該委員会の承認を得て行われる。倫理審査を申請する際には研究倫理教育・研修の受講が必須であり、本学ではこの倫理教育を主として e-learning で行っている。その他、動物実験に関する倫理審査は医学部動物実験委員会で、遺伝子組換え実験・病原体等取扱実験に関する倫理審査は遺伝子組換え実験安全管理委員会で行われている。(資料4)

5. 基礎となる学部との関係

医学研究科の基礎となる学部は医学部である。配置されている研究分野は医学部と密接に関連しており、医学研究科の教育・研究指導は原則医学部の専任講師以上の教員が担っている。なお、入学者の多くは本学医学部卒業生となっている。また、早期から幅広い医学の知識に触れ、医学研究の重要性や未知の知見に触れる機会を提供すべく、医学部学生に大学院講義の一部を試験的に公開している。学生の将来的なキャリアパスの一環として、大学院進学が選択肢に入るような制度として医学専攻への改編後も発展させていきたいと考えている。(資料5)

6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で利用させる場合
多様なメディアを利用した講義について、「杏林大学大学院学則」第 22 条の 2 第 2 項教育方法の特例において以下のとおり定めている。

文部科学大臣が別に定めるところ（平成 13 年文部科学省告示第 51 号）により、授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

共通科目の医学研究講義Ⅰ・医学研究講義Ⅱは、メディアを利用した講義として開講する。開講にあたっては、1 週間の開講期間を設け、学生は開講期間内の自身が希望する時間で受講することができる。主にオンデマンド方式で公開することとし、特性に応じて一部同時双方向型の講義も取り入れる。受講終了時には受講アンケートに回答することを必須とし、アンケート内には聴講した講義の概要等を記載させるなど課題を設けることにより当該講義の理解度を測る。また、アンケート内に質問欄を設け、質問があった際には担当事務から教員に速やかに質問を送付し、回答を返送するほか、直接の質問が可能となるよう講義資料内・開講通知に担当教員の連絡先を記載する。また、講義資料内に掲示版の役割を果たす機能を装備し、学生同士の意見交換が容易に行える機会を確保する。

7. 大学院設置基準第 14 条による教育方法の実施

医学研究科では、平成 21 年度より大学院設置基準第 14 条に基づく特例措置に基づき、以下に定める「社会人学生」の入学を許可している。対象となる学生は官公庁、民間企業、病院、教育・研究機関等に正規の身分で勤務しており、入学後も在職のまま就学を行う学生としている。原則として、学修時間は勤務の終了した夜間帯となるが、講義については前述の通りオンデマンド式を採用していることから、自身の勤務形態に合わせた自由な受講が可能となっている。

①修業年限

4 年

②履修指導及び研究指導の方法

社会人学生以外の学生と同じとする。

③授業の実施方法

夜間開講の授業時間として以下の時間を設定している。

5 時限 16 : 45 ~ 18 : 15

6 時限 18 : 30 ~ 20 : 00

7時限 20:15～21:45

なお、社会人として就学することについて、出願時から勤務先の所属上長の許可および選択するコースの教授との事前相談を必要としている。これにより出願時から履修や研究指導について検討し、学生・教員双方が合意の上で計画を立案することが可能となっている。また、個別指導・少人数指導体制を取っていることから、双方の都合を考慮した柔軟な対応が可能である。

③ 教員の負担の程度

18:30以降に開講していた旧基礎臨床共通講義Ⅰ（医学研究講義Ⅰ）および旧基礎臨床共通講義Ⅱ（医学研究講義Ⅱ）はオンデマンドのオンライン講義で実施することとなっているため、教員の負担は以前より軽減されていると考えられる。

⑤ 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮、必要な職員の配置

本学の医学図書館は原則土曜日・日曜日を含めて10:00～22:30まで開館している。全ての時間帯・曜日で図書館職員が勤務しており、平日と何ら変わりなく図書館の利用が可能となっている。図書館ではネットワーク接続（有線・無線）サービスを提供しているほか、ノートパソコンの貸出を行っている。健康診断は教職員と同日程で実施し、社会人学生も問題なく受診できるよう配慮されている。

医学研究科の学生に関する事項は医学部事務課が分掌し、夜間講義を受講する社会人学生への対応にも支障が無いよう出勤等を調整している。

⑥ 入学者選抜の概要

社会人特別選抜において社会人の受入を行う。社会人学生は、官公庁、民間企業、病院、教育・研究機関等に正規の身分で勤務しており、在職のまま大学院に進学する者としている。出願にあたっては、指導教授および勤務先の所属機関長から承認を得て、一般選抜において提出を要する書類のほかに、「受験許可・就学承諾書」の提出を求めている。

⑦ 必要とされる分野であること

医学は人体を中心とする生物の本質ならびにその異常状態を対象としており、基礎・臨床研究を問わず人の健康を増進することを最終目標とした、人の生命に直結する極めて重要な学問分野である。急速に進む高齢化社会や高度かつ複雑化する医療の諸問題を解決するため、1人でも多くの人材を養成する必要があるため、社会人学生も広く受入れられることとしている。

⑧大学院を専ら担当する専任教員を配置するなど教員組織の整備状況

医学研究科の担当教員は、医学部と兼任となっている。全てのコースにおいて、必要な教員が配置され、また、個別・少人数教育を実施しているため、社会人大学院生の履修にあたり柔軟な対応が可能となっている。

8. 入学者選抜の概要

(1) 学生受入の方針

医学研究科のアドミッションポリシーは以下のとおり定められている。

医学研究科は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質をもつ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

- (1-1) 医学・生命科学の研究者として独創的な研究に取り組む意思を持っている人
- (1-2) 高度な医学的知識と技能を持ち、かつ科学的な見地に立って臨床医学を極める意思を持っている人
- (1-3) 高度な医学的、科学的基盤に立って社会医学に貢献する意思を持っている人
- (1-4) 将来的に指導的立場に立ち、後進の育成に貢献する意思を持っている人

(2) 求める学習成果

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。

- (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。(知識・理解・実技能力)
 - ・ 専門分野の論文を理解できる英語力と、その内容をまとめる力を持っている。
 - ・ 専門分野の基礎知識と、それを説明できる力を持っている。
- (2-2) 知識・技能を活用して、自らの課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力)
- (2-3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(表現力)
- (2-4) 医学、医療、人間、自然、文化などに関わる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。(関心・意欲)
- (2-5) 積極的に他者とかかわり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協調性)

(3) 入学者選抜の基本方針

本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学

者選抜を実施する。

(3-1) 一般入試

入学試験（英語および専門科目）、面接試験の成績をあわせて評価する。

(3-2) 社会人入試

入学試験（英語および専門科目）、面接試験の成績をあわせて評価する。

(3-3) 外国人留学生特別入試

入学試験（英語および専門科目）、面接試験の成績をあわせて評価する。

(2) 入学者選抜の概要

アドミッションポリシーで示された学生を選抜するため、医学研究科では以下のとおり出願資格および選抜方法を定めている。

① 出願資格

出願資格は以下のとおり定めている。

- a、大学における医学、歯学若しくは獣医学を履修する課程を卒業した者及び卒業見込みの者
- b、大学における修業年限 6 年の薬学を履修する課程を卒業した者及び卒業見込みの者
- c、外国において学校教育における 18 年の課程を修了した者及び修了見込みの者で、その最終の課程が医学、歯学、獣医学又は薬学の課程であった者
- d、大学の医学、歯学、獣医学又は薬学を履修する課程に 4 年以上在学し、又は外国において学校教育における 16 年の課程（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は薬学）を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- e、文部科学大臣の指定した者

② 選抜方法

一般入試・社会人入試・外国人留学生特別入試を実施する。試験内容は全選抜方法共通としており、外国語試験、専門科目試験、面接試験を実施し、全ての成績を総合的に判断した上で合否判定を行う。合否は医学研究科入試審議委員会において審議され、医学研究科委員会において審議結果の承認を行う。全選抜方法とも春季・秋季に実施するが、各選抜方法および入学時期毎の定員は定めていない。

③ 社会人の受入

「7 大学院設置基準第 14 条による教育方法の実施」⑥で述べたとおり、社会人の受入を行っている。

9. 教員組織の編成の考え方及び特色

医学研究科の教員は、医学部の教員がこれを兼務することとし、教員構成は教授 70 名、准教授 31 名、講師 49 名、助教 6 名で、准教授以上の教員が研究指導を担当する。講師以下の教員は研究指導補助教員として教授・准教授の指名を受けて、研究指導の補佐的な役割を務める。指導教員は、全員が医学・歯学・理学など自身の専門分野に関する博士号を持つ現役の研究者であり、研究に関する豊富な経験と学識を持つ、大学院生に対する教育を担うに相応しい人材である。全コースの専門科目は各コースを専門領域とする教授または准教授が担当している。

大学院生は専門分野に関する教育を各コースの教員から受ける。特別研究においては分野を隔てることなく担当教員として全ての教員を配置していることから、専門分野の枠を超えた研究を実施するにあたり、必要に応じて専門分野外の教員の指導を受けることが可能である。

医学専攻設置時（令和 4 年 4 月）における医学研究科担当教員の年齢構成は、30～39 歳 1 名、40～49 歳 45 名、50～59 歳 84 名、60～63 歳 26 名となっており、完成年度（令和 7 年 4 月）においても教育・研究体制の維持に支障がでることはない。なお、完成年度前に定年を迎える教授がいるが、設置基準上定められた教員数を十分満たす教員が配置されているとともに、欠員が生じた場合は速やかに適切な教員が補充されることとなっており、教育・研究体制に問題が生じる事態を招くことはない。

10. 施設・設備等の整備計画

医学研究科は 6 つの部門（電子顕微鏡部門、放射線同位元素部門、フローサイトメトリ部門、蛋白質・核酸解析部門、生体機能実験部門、実験動物施設部門）からなる共同研究施設を有しており、大学院生は必要に応じてこれらの施設を利用することができる。施設内に設置されている機器等は必要に応じて新設・更新・増設が行われ、日々急速に進歩する医学研究を支える重要な役割を果たしている。大学院生の研究室は各専門分野において実験室・研究室等を有している。更に、大学内で共同利用できる共同機器室、共同培養室も利用可能である。その他図書館等の施設は学部学生に準じて利用する。

医学研究科が所在している三鷹キャンパスでは、三鷹キャンパス再編のための将来構想（ランドデザイン）を検討するプロジェクトが進行している。その一環として医学部の講義棟を建設する予定である。新講義棟内にはラーニングセンターなどが配置される予定で、新講義棟は大学院生も利用可能となる。今後、大学院生の教育・研究に関する環境はさらに向上する予定となっている。

11. 管理運営

医学研究科の管理体制は、医学研究科運営委員会、医学研究科委員会と医学研究科教

務委員会（以下教務委員会）がこれにあたる。医学研究科運営委員会は、研究科長を委員長として毎月1回開催し、研究科委員会に提出する審議事項を事前に策定している。医学研究科委員会は、研究科長を委員長として毎月1回開催し教育、研究、教員人事、学位の授与、学生に関する事項などを審議している。

教務委員会は、大学院教務担当を委員長として、数名の研究科委員からなり、医学研究科運営委員会に提出する審議事項を事前に策定する機能のほか、学生に関する事項、学位審査・研究指導体制の見直し、FDの実施やアンケート結果の解析などについて検討を行っている。

12. 自己点検・評価

本学は、「杏林大学学則」第1条の2および「杏林大学大学院学則」第2条の2に、「その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う」と定めている。また、「杏林大学内部質保証の方針」に本学における内部質保証に関する基本的な考え方を示している。

上述の規程及び方針に基づき、自己点検・評価活動を行う組織体制として、学長を議長とし、学内各部門の長によって構成される学部長会議を内部質保証推進のための責任主体としている。学部長会議では、自己点検・評価委員会の実施する自己点検・評価及び外部評価結果を踏まえ、改善が必要と認められる事項について、当該部門の長に改善の実施を指示する。改善の実施を求められた事項の改善結果は、当該部門の長が学長に報告を行う。

そして、学部長会議のもとに設置されている自己点検・評価委員会は、定められた点検・評価項目について、原則として毎年自己点検・評価を実施し、同時に、自己点検・評価の妥当性と客観性を高めるため、学外の有識者によって構成される外部評価委員会での評価結果を付して学部長会議に報告するとともに、自己点検・評価報告書を毎年学内外に公表している。

さらに、自己点検・評価委員会には、学部・研究科等の自己点検・評価を分掌する委員会が設置されているほか、医学部に医学部自己点検・評価委員会を設置し、医学部および医学研究科の自己点検・評価を実施している。

このように、内部質保証を推進するための責任主体を学部長会議とし、関係部局と連携しながら、課題を抽出して改善策を策定・実施する体制を整備したことにより、自己点検・評価に基づく全学的なPDCAサイクルが適切に機能しており、恒常的な改善が図られている。

13. 認証評価

本学は、2008(平成20)年に公益財団法人 大学基準協会による認証評価を受け、「適合」の評価を得た。認証評価受審のための報告書および評価結果についても冊子、大学

ホームページにて社会に公表してきた。同認証評価では、改善義務のある「勧告」が 1 項目、努力義務となる「助言」が 23 項目にわたって指摘された。この評価結果は、全組織において共有すると同時に、具体的な改善・改革に着手した。「勧告」については 2009(平成 21)年度より毎年改善計画・改善状況を報告し、また「助言」については 2011(平成 23)年度に改善報告書を提出し、いずれも改善が確認できるとの検討結果を得ている。

また、2015(平成 27)年度には第 2 期認証評価を受審した結果、同協会の定める大学基準に「適合」しているものと認定された。同認証評価では、7 項目の提言(「改善勧告」が 1 項目、「努力課題」が 6 項目)が付され、その改善をはかり、その結果を 2019(平成 31)年 7 月までに提出し、一部引き続き一層の努力が望まれるものの、大学が意欲的に改善に取り組んできたことが確認できたとの検討結果を得た。

2022(令和 4)年度には第 3 期認証評価を受審予定である。

14. 情報の公表

教育情報、財務関係書類をはじめ、学部等の設置届出書及び設置計画履行状況報告書などを大学ホームページにおいて積極的に公開している。

15. 教育内容等の改善のための組織的な研修等

医学研究科では大学院設置基準第 14 条の 3 において規定された、教育方法や研究指導体制、学位論文審査体制等医学研究科における諸課題を改善するため、「医学研究科 FD・SD 委員会」を設置し、主として教授・准教授を対象とした FD を毎年 1 回開催している。以下、過去 5 年の大学院 FD の開催実績である。

2016 年度 HENRY STEWART TALKS の活用について

2017 年度 杏林大学医学研究科における学位論文審査基準について

2018 年度 HENRY STEWART TALKS の活用について

2019 年度 医学研究科専攻統合について・学位論文審査基準について 他

2020 年度 研究指導計画書の運用について・学位論文チェックリストの運用について他

設置の趣旨等を記載した書類（資料目次）

【資料 1】 ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーの相関図・・・・・・・・・・ p2

【資料 2】 医学研究科医学専攻 履修モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p3

【資料 3】 医学研究科医学専攻 履修スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・ p4

【資料 4】 杏林大学医学部倫理委員会規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p5

【資料 5】 基礎となる学部との関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p11

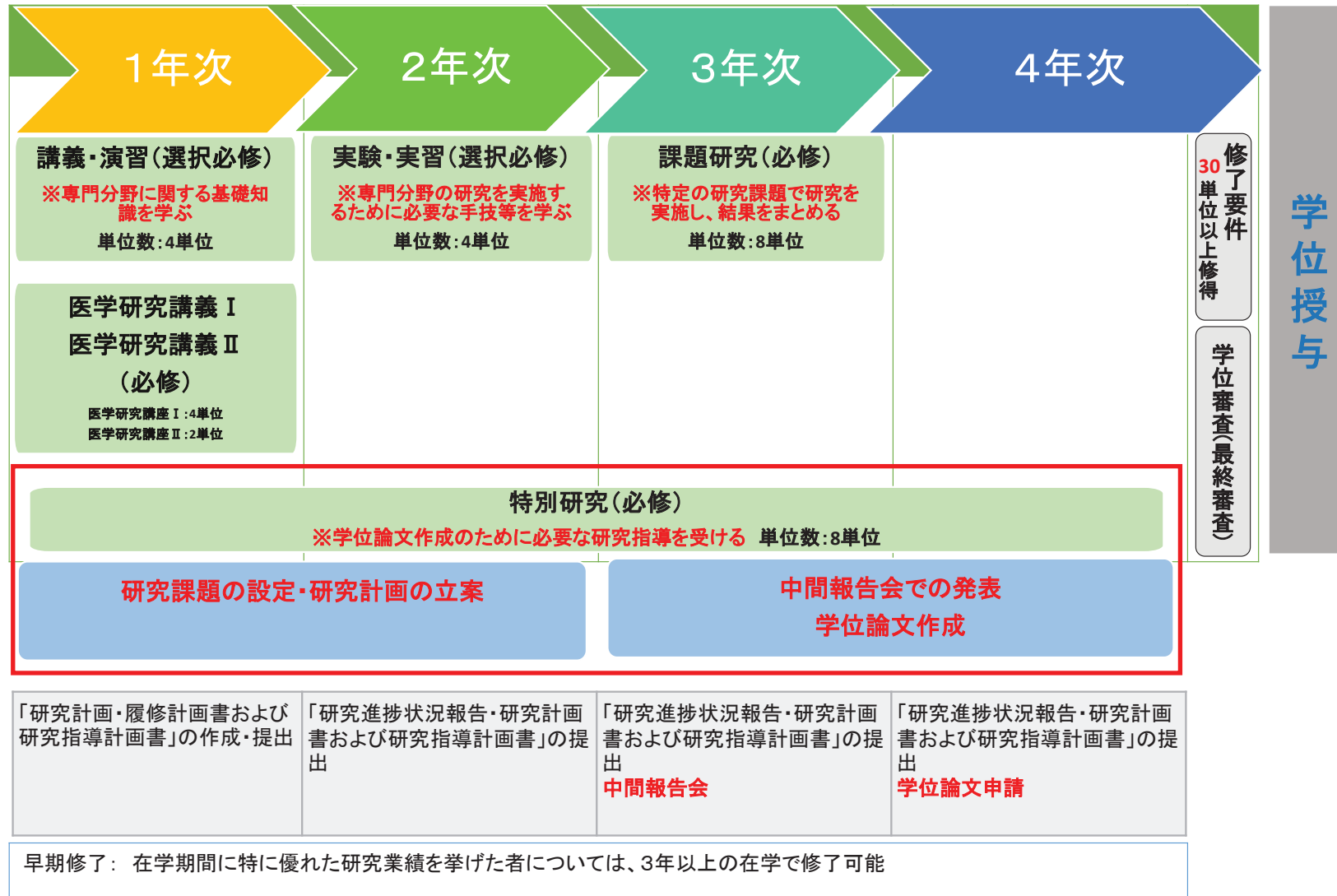
医学研究科の目的とディプロマポリシー・カリキュラムポリシーの相関

医学研究科の目的:

医学研究科は、科学的な問題解決能力を備える臨床医、旺盛な創造性を持つ基礎医学・生命科学の研究者、社会医学に貢献する有為な人材等豊かな人間性と倫理観・使命感にあふれる医療人の養成を目的とする。


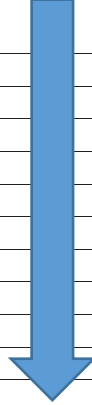
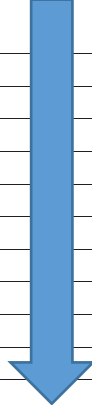
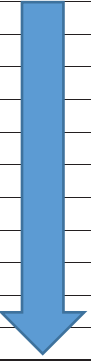
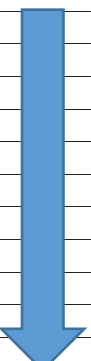

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
(1) 社会的責任 豊かな人間性、幅広い学識、高い倫理観を身につけ、医学・医療の分野において指導的な役割を担うことができる。	(1-1) 社会的責任を果たすことのできる人材の育成のために ・生命科学・医学研究分野における最新の知見を幅広く修得するため、「医学研究講義Ⅰ」と「医学研究講義Ⅱ」を配置する。 ・高い倫理観を身に付けるため、医学研究遂行上必要となる倫理に関する初期教育を行うほか、e-learning教材（eAPRIN）を用いた教育を行う。
(2) 専門知識と技術 各専門領域に関する知識と技術を身につけ、実践に活かすことができる。	(1-2) 専門知識と技術の修得のために ・専門領域の知識と技術を修得するため、「講義・演習」および「実験・実習」配置する。 ・専門領域の最新の知見を修得するため、「特別研究」において学会参加、論文抄読等を行う。
(3) 情報収集と分析 医学・医療に関わる諸分野に関して、適切な情報の収集と分析ができる。	(1-3) 専門分野の情報収集と分析技法の修得のために ・情報収集能力およびその分析技法を修得するため、医学研究講義Ⅰで「医学文献収集管理の技術」「実験データのデジタル画像処理・解析」を学ぶとともに、「統計解析セミナー」において実践的な演習を行う。
(4) 問題解決能力 医学・医療分野に関わる課題を設定して、その課題追求のための研究計画を策定し、適切に研究を遂行できる。	(1-4) 問題解決能力の涵養のために ・計画に添った適切な研究の実践、研究結果の分析を通じて問題解決能力を涵養するため、「課題研究」を配置する。
(5) 情報発信力 ・研究によって得られた知見を客観的に評価し、研究論文として発信できる。 ・プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけ国際学会や国際誌に、研究内容を説得力を持って発表することができる。	(1-5) 情報発信力の涵養のために ・医学研究講義Ⅰでは、「論文作成の基本技術」「研究成果発表の技術」の講義を配置する。 ・設定した研究課題の結果を論文にまとめるため、「特別研究」において論文執筆指導を行う。

医学研究科 医学専攻 履修モデル



医学研究科医学専攻 修了までのスケジュール

資料3

	入学時期		専門科目	共通科目							
	(春)	(秋)		特別研究	医学研究講義 I	医学研究講義 II					
1 年 次	4月	9月	ガイダンス 履修登録	講義・演習	研究指導計画立案 (4年間の研究指導概要の立案)						
	5月	10月			研究課題探索 研究計画立案 専門領域の学会参加 専門領域の論文抄読、等						
	6月	11月									
	7月	12月									
	8月	1月									
	9月	2月									
	10月	3月									
	11月	4月									
	12月	5月									
	1月	6月									
	2月	7月									
	3月	8月									
	2 年 次	4月	9月					研究進捗状況 報告書提出	実験・実習	研究指導計画立案 (各学生の進捗状況に合わせた単 年度の指導計画の立案)	
5月		10月			研究計画立案 専門領域の学会参加 専門領域の論文抄読、等						
6月		11月									
7月		12月									
8月		1月									
9月		2月									
10月		3月									
11月		4月									
12月		5月									
1月		6月									
2月		7月									
3月		8月									
3 年 次		4月	9月					研究進捗状況 報告書提出	課題研究	研究指導計画立案 (各学生の進捗状況に合わせた単 年度の指導計画の立案)	
	5月	10月			実施中の研究に関する検討 中間報告会の準備および参加 専門領域の学会参加 専門領域の論文抄読、等						
	6月	11月									
	7月	12月									
	8月	1月									
	9月	2月									
	10月	3月	中間報告会								
	11月	4月									
	12月	5月									
	1月	6月									
	2月	7月									
	3月	8月									
	4 年 次	4月	9月					研究進捗状況 報告書提出		研究指導計画立案 (各学生の進捗状況に合わせた単 年度の指導計画の立案)	
5月		10月			実施中の研究に関する検討 学位論文作成指導 専門領域の学会参加 専門領域の論文抄読、等						
6月		11月									
7月		12月									
8月		1月									
9月		2月									
10月		3月	学位論文提出								
11月		4月									
12月		5月									
1月		6月									
2月		7月									
3月		8月	修了								

○杏林大学医学部倫理委員会規程

制定	平成	元年	3月13日		
改正	平成	元年	7月17日	平成11年	5月17日
	平成	14年	3月29日	平成20年	6月9日
	平成	23年	12月28日	平成27年	11月16日
	平成	28年	11月21日	令和3年	6月21日

（目的）

第1条 杏林大学医学部及び医学部付属病院の専任教職員が行う人を対象とした生命科学・医学系研究（以下「研究等」という。）について、医の倫理に関する国の各種指針を遵守し、ヘルシンキ宣言の趣旨に添って検討し、審議することを目的とする。

（委員会の設置）

第2条 前条の目的を遂行するために、医学部長は、倫理指針に示される研究機関の長の役割を担い、医学部における研究が適正に実施されるよう手順書を定め、総括的な監督を行うとともに、最終的な責任を負う。

2 医学部長は研究等の審議機関として、医学部に杏林大学医学部倫理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

3 医学部長は、医学部付属病院において行われる研究について、次の事項に関する管理を病院長に委任する。

- （1）個人情報の保護に関する管理
- （2）研究の実施における安全管理
- （3）研究対象者に対する健康被害の補償

4 委員会の事務局は、医学部事務課が担当する。

（任務）

第3条 委員会は、研究責任者から研究の実施の適否等について意見を求められたときは、第1条の目的に基づき審査し、研究の妥当性について研究責任者に対し必要な意見を述べなければならない。

2 委員会は、関連法令並びに各種指針に基づき、倫理的観点及び科学的観点から、研究機関及び研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行い、文書又は電磁的方法により意見を述べなければならない。

3 委員会は、第1項及び第2項の規定により審査を行った研究について、倫理的観点及び科学的観点から必要な調査を行い、研究責任者に対して、研究計画の変更、研究の中止その他当該研究に関し必要な意見を述べることができる。

4 委員会は第1項及び第2項の規定により審査を行った研究のうち、侵襲（軽微な侵襲を除く。）を伴う研究であって介入を行うものについて、当該研究の実施の適正性及び研究結果の信頼性を確保するために必要な調査を行い、研究責任者に対して、研究計画の変更、研究の中止その他当該研究に関し必要な意見を述べることができる。

第3類（杏林大学医学部倫理委員会規程）

- 5 委員会の委員、有識者及びその事務に従事する者等は、その業務上知り得た情報を正当な理由なく漏らしてはならない。その業務に従事しなくなった後も同様とする。
- 6 委員会の委員及びその事務に従事する者は、第1項及び第2項の規定により審査を行った研究等に関連する情報の漏えい等、研究対象者等の人権を尊重する観点並びに当該研究の実施上の観点及び審査の中立性若しくは公正性の観点から重大な懸念が生じた場合には、速やかに医学部長に報告しなければならない。
- 7 委員会の委員及びその事務に従事する者は、審査及び関連する業務に先立ち、倫理的観点及び科学的観点からの審査等に必要な知識を習得するための教育・研修を受けなければならない。また、その後も、適宜継続して教育・研修を受けなければならない。

（組織）

第4条 委員会は次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 医学・医療の専門家等、自然科学の有識者 7名以内
 - (2) 倫理学・法学の専門家等、人文・社会科学の有識者 3名以内
 - (3) 一般の立場を代表する者 若干名
- 2 委員会は、男女両性で構成され、外部委員を含めなければならない。
 - 3 委員は、医学部教授会の議を経て、医学部長が委嘱する。
 - 4 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第5条 委員会に委員長を置き、医学部長の指名により選出する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副委員長若しくは、予め委員長の指名した委員がその職務を代行する。

（議事）

第6条 委員会は、原則月1回開催とするが、医学部長の諮問があった場合は、随時開催する。

- 2 委員会は、委員の3分の2以上が出席し、かつ第4条第1項第2号及び第3号の委員のうち少なくとも1名の出席がなければ議事を開くことができない。
- 3 委員会に付議される事項につき書面をもって、予め意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 4 審査を依頼した研究責任者及び当該研究に関与する者並びに医学部長は、委員会の審議及び意見の決定に参加してはならない。ただし、委員会における当該審査の内容を把握するために必要な場合には、当該委員会の同意を得た上で、その会議に同席することができる。
- 5 委員会は、審査の対象、内容等に応じて有識者に意見を求めることができる。
- 6 委員会は、特別な配慮を必要とする者を研究対象者とする研究計画書の審査を行い、

第3類（杏林大学医学部倫理委員会規程）

意見を述べる際は、必要に応じてこれらの者について識見を有する者に意見を求めなければならない。

（委員会への付議）

第6条の2 医学部長は、研究責任者から、当該研究機関における研究の実施の許可を求められたときは、当該研究の実施の適否について、委員会の意見を聴かなければならない。ただし、医学部長は、公衆衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため緊急に研究を実施する必要があると判断する場合には、当該研究の実施について委員会の意見を聴く前に医学部長の許可のみをもって研究を実施させることができる。この場合において、医学部長は、許可後遅滞なく委員会の意見を聴くものとし、委員会が研究の停止若しくは中止又は研究計画書の変更をすべきである旨の意見を述べたときは、当該意見を尊重し、研究責任者に対し、研究を停止させ、若しくは中止させ、又は研究計画書を変更させるなど適切な対応をとらなければならない。

2 研究代表者は、原則として、多機関共同研究に係る研究計画書について、一の倫理審査委員会による一括した審査を求めなければならない。また、学外の研究機関の倫理審査委員会に審査を依頼する場合は、予め委員会で承認を得るものとする。ただし、各研究機関の状況等を踏まえ、共同研究機関と一括した倫理審査委員会の審査を受けず、個別の倫理審査委員会の意見を聴くことを妨げるものではない。

3 研究責任者は、多機関共同研究について個別の倫理審査委員会の意見を聴く場合には、共同研究機関における研究の実施の許可、他の倫理審査委員会における審査結果及び当該研究の進捗に関する状況等の審査に必要な情報についても当該倫理審査委員会へ提供しなければならない。

（審議の方針）

第7条 委員会は、第1条の目的及び第3条の任務に基づき、研究の実施の適否等について、医学的、倫理的、社会的な面から調査、検討し審議する。

2 委員会は、審議にあたり研究等の実施に携わる研究者等から、その内容等について説明を求め又は意見を聴取することができる。

3 委員会は、審査する研究内容により、他に審査に必要な資料がある場合には、研究責任者に追加資料の提出を求めることができる。

4 委員は、自己の申請に係る審議に参加することはできない。

5 委員会は、次の各号に掲げる判定を行う。委員会の意見は、全会一致をもって決定するように努めなければならない。ただし、全会一致が困難な場合には、委員の3分の2以上の合意によるものとする。

（1）承認

（2）条件付承認

（3）継続審査（修正した上で再審査）

（4）不承認

（5）停止（研究の継続には更なる説明が必要）

第3類（杏林大学医学部倫理委員会規程）

（6）中止（研究の継続は適当ではない）

（7）非該当

（迅速審査等）

第8条 委員会は、次に掲げるいずれかに該当する審査について、委員長が予め指名した委員を委員長とした迅速審査委員会を置き、当該審査を委嘱する。

（1）多機関共同研究等であって、既に当該研究の全体について共同研究機関において倫理委員会の審査を受け、その実施について適当である旨の意見を得ている場合の審査（多機関共同研究で、杏林大学が研究代表機関の場合は迅速審査に該当しない）

（2）研究計画書の軽微な変更に関する審査

（3）侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審査

（4）軽微な侵襲を伴う研究であって介入を行わないものに関する審査

（5）本規程第16条に規定する各報告等の審査

（6）その他、委員会が迅速審査と判断した場合

2 前項第2号の軽微な変更に関する審査は、手順書に別に定める。

3 審査の方法は委員長が指名する2名以上の委員が書面審査を行い、審査の結果は次の判定による。

（1）承認

（2）条件付承認

（3）継続審査（修正した上で再審査）

（4）倫理委員会付議

（5）不承認

（6）非該当

4 審査の結果は委員会の意見として取り扱うものとし、当該審査結果は全ての委員に報告されなければならない。

（記録の保存）

第9条 委員会は、運営に関する手続き、審査資料、審査過程及び結果を記録として保存し、保存期間は当該研究の終了について報告された日から原則として5年間とする。

2 保存場所は委員会事務局とする。

（審査結果等の公表）

第10条 医学部長は、委員会の委員名簿、開催状況、審査の概要その他必要な事項を毎年1回厚生労働大臣等に報告する。ただし、研究対象者等及びその関係者の人権又は研究者等及びその関係者の権利利益の保護のため非公開とすることが必要な内容として委員会が判断したものについては、この限りではない。

（他の研究機関が実施する研究に関する審査）

第11条 委員会は、他の研究機関が実施する研究等に関して審査を依頼された場合には、研究の実施体制について十分把握した上で審査を行い、意見を述べなければならない。

第3類（杏林大学医学部倫理委員会規程）

- 2 委員会は、他の研究機関が実施する研究等について審査を行った後、継続して当該研究機関の長から当該研究に関する審査を依頼された場合には、審査を行い、意見を述べなければならない。

（専門委員会）

第12条 委員会に、特定事項についての予備的な調査、検討、又は申請された実施計画について専門的な立場から調査、検討を行うため専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会は、委員会の議に基づき委員会委員長が委嘱する。
- 3 専門委員会に委員長を置き、倫理委員会委員がこれに当る。
- 4 専門委員会は、参考人として研究等の研究責任者から実施計画の内容等について説明を求め、又は意見を聴取することができる。
- 5 専門委員会は、委員会に対し調査、検討の結果を答申しなければならない。
- 6 専門委員会は、委員会に調査、検討の結果を答申したときをもって解散するものとする。

（申請手続及び判定の通知）

第13条 委員会の審議を求める場合には、研究責任者は所定の申請書に必要事項を記入し、医学部長に提出しなければならない。

- 2 申請者は委員会に出席し、申請内容を説明するとともに意見を述べることができる。
- 3 委員会委員長は、審議終了後速やかに、第7条第5項による審査結果について申請者に通知し、必要な場合は教授会に報告する。
- 4 前項の通知をするにあたり、審査の判定が第7条第5項第2号から第7号までに該当する場合は、その理由等を記載しなければならない。

（実施計画等の変更）

第14条 研究責任者は、承認された研究等の実施計画等を変更しようとするときは、その実施計画等の変更について委員会の承認を受けなければならない。

（異議の申立）

第15条 委員会の審査結果通知に対して異議のある場合には、研究責任者は、異議申立書（様式第6号）に必要事項を記入して、委員会委員長に再度の審議を1回に限り、申請することができる。この場合、異議申立書に異議の根拠となる資料を添付するものとする。

（実施状況の報告）

第16条 研究責任者は、毎年度末に、研究等の実施状況について医学部長に報告しなければならない。実施計画終了時も同様とする。

- 2 研究責任者は、研究対象者に危険又は不利益が生じた場合等、必要があると判断した場合には、直ちに医学部長、病院長に報告しなければならない。

（実施状況の調査）

第17条 委員会は、進行中又は終了後の研究等について、その適正性及び信頼性を確保するために調査を行うことができる。

第3類（杏林大学医学部倫理委員会規程）

（その他）

第18条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項等は、別に手順書で定める。

（規程の改廃）

第19条 この規程の改廃は委員会出席者の3分の2以上の合意によるものとする。

2 委員会委員長は、この規程が改正された場合は、医学部教授会に報告しなければならない。

附 則

この内規は、平成 元年 4月 1日から施行する。

附 則

この内規は、平成 元年 9月 1日より施行する。

附 則

この規程は、平成11年 6月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年 6月 9日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年12月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年10月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年11月 1日から施行する。

附 則

この規程は、令和 3年 6月30日から施行する。

基礎となる学部との関係

医学専攻	医学部医学科
脳神経内科学	神経内科学・脳卒中医学 神経内科学実習
呼吸器内科学	呼吸器内科学 呼吸器内科学実習
腎臓・リウマチ膠原病内科学	腎臓内科学 リウマチ膠原病学 腎臓内科・リウマチ膠原病学実習
循環器内科学	循環器病学A 循環器病学実習
血液内科学	血液内科学 血液内科学実習
糖尿病・内分泌・代謝内科学	内分泌・代謝内科学 内分泌・代謝内科学実習
消化器内科学	消化器内科学 消化器内科学実習
腫瘍内科学	腫瘍学 腫瘍内科学実習
高齢医学	高齢医学 高齢医学実習
精神神経科学	精神神経科学 精神神経科学実習
小児科学	小児科学 小児科学実習
消化器・一般外科学	消化器外科学 消化器外科学実習
呼吸器・甲状腺外科学	呼吸器・甲状腺・乳腺外科学 呼吸器・甲状腺外科学実習
乳腺外科学	乳腺外科学実習
小児外科学	小児外科学 小児外科学実習
救急医学	救急医学 救急医学実習
脳神経外科学	脳神経外科学・脳卒中医学 脳神経外科学実習
心臓血管外科学	心臓血管外科学実習 循環器病学B
皮膚科学	皮膚科・形成外科学 皮膚科学実習
形成外科学	形成外科学実習
泌尿器科学	泌尿器科学 泌尿器科学実習
眼科学	眼科学 眼科学実習
耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉科学 耳鼻咽喉科学実習
産科婦人科学	産科婦人科学 産科婦人科学実習
放射線医学	放射線医学 放射線医学実習
放射線腫瘍学	放射線腫瘍学実習
麻酔科学	麻酔科学実習 麻酔科学
総合医療学	感染症学 生活習慣病学 救急総合医療学実習
脳卒中医学	脳卒中医学実習

医学専攻		医学部医学科
整形外科	→	整形外科・リハビリテーション医学実習 整形外科・リハビリテーション医学
リハビリテーション医学	→	
臨床検査医学	→	臨床検査医学・輸血学
肉眼解剖学	→	肉眼解剖学Ⅰ 肉眼解剖学Ⅱ
顕微解剖学	→	組織解剖学
統合生理学	→	統合生理学
病態生理学	→	病態生理学
代謝生化学	→	代謝生化学
細胞生化学	→	分子生物学 細胞生物学
薬理学	→	和漢医学概論 薬理学
病理学	→	病理学A 病理学B 病理学実習
感染症学	→	感染症・免疫学 熱帯病・寄生虫学
衛生学・公衆衛生学	→	衛生学 公衆衛生学
法医学	→	法医学
発生・遺伝学	→	生物学
生体理工学	→	医学物理学 医学統計学
分子機能生化学	→	生体化学

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
 - (1) 学生の確保の見通し
 - ① 定員充足の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p2
 - ② 定員充足の根拠となる客観的データの概要・・・・・・・・ p2
 - ③ 学生納付金の設定の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ p3
 - (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・ p3
2. 人材需要の動向等社会の要請
 - (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・・・・・・・ p3
 - (2) 社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠
・・・・・・・・・・・・・・・・ p4

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

医学専攻設置にあたり、医学研究科が理念・目的として掲げる人材を養成するため、教育課程や研究指導方法等の見直しを行うとともに、入学定員数についても検討を行った。

医学研究科の大部分を占める臨床系学生の指導を担う教員は、診療・学部教育にも従事しており、現行の入学定員 34 名を維持した状態で、さらなる定員充足率の向上を目指した場合、教員に過度の負荷がかかり、大学院生の教育・研究指導が不十分となる懸念があると考えられた。今回の専攻の再編成に伴い、医学研究科では基礎系教員が臨床系学生の教育・研究に積極的に携わることが可能な体制を整備したが、大学院生の教育・研究環境をより充実させ、かつ、基礎系・臨床系の教員の大学院教育担当に伴う過度な負担を避けるため、入学定員を一部削減し 25 名とした。

医学研究科の過去 5 年間の入学者は平均して 14 名程度、定員充足率は 0.42 となっているが、今後は、医学専攻設置に伴う体制の整備およびその状況を入学希望者に周知することにより、定員充足率の向上が見込まれる。

② 定員充足の根拠となる客観的データの概要

医学研究科の在学生は 95%以上が医師であり、また、本学もしくは付属病院、他医療機関で勤務する社会人大学院生が多数を占めている。

そこで、医学専攻設置の検討を行うにあたり、本学医学研究科の主たる入学者となりうる若手医師（研修医 116 名、専攻医・レジデント 133 名、医員 123 名、任期制助教 88 名 計 460 名）を対象として、博士号取得に関する意識調査と進学希望調査を兼ねた「大学院進学に関する意識調査」を行い、135 名から回答を得た。その結果、「大学院に進学するにあたり本学への進学を希望するか」との問いに対し、「希望する」の回答が「希望しない」を上回った。今回の結果では、「分からない」との回答が多数を占めているが、そもそも「博士号取得」も「分からない」が最多となっており、今後定員を充足させるためには博士号を取得することのメリットから丁寧に説明していく必要があると考えている。博士号については、科学研究費補助金「若手研究」の申請等において取得が必須になるなど、取得の必要性は徐々に高まっている。

また、アンケート結果では職位が上がるにつれ、大学院を経ずに論文提出による博士号の取得を希望するとの声が多数を占める傾向がみられた。研修医など比較的早期の段階では大学院に進学し、研究活動を行いたいという思いがある一方で、

経験年数が上がるにつれ、診療・教育に忙殺され、大学院への進学を断念せざるを得ない状況からこのような回答になったものと考え。最近、医学部学生に対して大学院講義を公開する取組を試験的に開始したが、この取組が学生時代から医学部卒業後のキャリアパスを考えるきっかけとなり、より多くの大学院進学希望者を確保することが可能ではないかと考えている。また、医学部卒業後、すでに比較的年数が経過した医師についても、社会人大学院生に配慮した教育・研究指導体制が構築されていることを説明会等の開催により周知することにより、より多くの入学生を確保することが可能であると考えている。(資料 1、資料 2、資料 3)

③学生納付金の設定の考え方

医学研究科の学生納付金は半期 30 万円、年間 60 万円の学納金のほか、入学時に入学金 25 万円・施設設備費 20 万円を徴収している。なお、本学の卒業生については入学金を徴収しないこととしている。

学納金は、医学研究科の運営上必要最低限の費用を徴収しており、また、アンケートの回答からも妥当であるとの回答が圧倒的多数を占めたため、学納金については現行のままとした。(資料 2)

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

医学研究科では多くの入学機会を確保するため例年春入学と秋入学のそれぞれの入学試験を実施している。募集にあたっては、ホームページ上での学生募集要項の掲載、学内へのポスター掲示、附属病院医局や近隣医療機関への募集要項配布により若手医師への周知等を行い、学生募集に努めている。

また、今回の医学専攻設置に伴い教育プログラムの改編を行い、社会人学生の教育環境を整備する必要性も踏まえて、必修科目である「医学研究講義Ⅰ」「医学研究講義Ⅱ」をオンラインで開講することとした。附属病院等での診療に従事し、勤務を抱える学生にとって、夜間開講であっても対面講義では業務調整が負担となりかねないが、オンライン講義とすることで単位取得への不安を解消することの一助となる。また、リカレント教育を推進する社会情勢も踏まえて、大学院への進学を検討する医師等を対象として科目等履修生等として入学前の単位取得を促し、入学後の在学期間を短縮できるような仕組みを今後構築する予定である。

医学部学生、研修医、若手医師を対象とした「大学院説明会」を開催し、これら、学生の教育環境の改善の状況などを分かり易く説明し、大学院への進学を促すための働きかけを積極的に行っていくこととする。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1)人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

医学研究科の目的は「科学的な問題解決能力を備える臨床医、旺盛な創造性を持つ基礎医学・生命科学の研究者、社会医学に貢献する有為な人材等豊かな人間性と倫理観・使命感にあふれる医療人の養成を目的とする」と明記されている。

これを踏まえ、医学研究科が養成すべき人材は、まずは自らの専門性を極めながら、一方で専門以外の幅広い医学の知識を修めることに努力を惜しまず、修得した全ての知識をもって解決すべき課題を見出し、かつ、課題解決のため適切に情報を収集・分析し、客観的判断に基づき見出された結果を学会や論文で公表し医学の発展に貢献する、そしてそれらの全てのプロセスを後進に教授することができる人材であると考えます。

(2)社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

医学は基礎・臨床研究を問わず人の健康を増進することを最終目標とした、生命に直結する学問であり、高齢化社会が進展する日本において果たすべき役割は診療・研究ともますます大きくなっていくといえる。本学が所在する三鷹市においても高齢者の増加が見込まれ、2049年には75歳～79歳の層の人口が最も多くなるという予測がなされており、地域医療を支える医療機関として患者増加など、その影響は免れず、専門性の高い医師へのニーズは当然高いものとなる。

また、高齢化社会においては、疾病を治療すること以外に、疾病を防ぐこと・健康を保つことにも重点が置かれている。高度な専門性のみならず、幅広い医学の知見を修めた本学の修了者は、予防医学・健康増進に関する領域でも十分に活躍できる可能性を持っている。

基礎医学領域については、研究者数の減少を危惧し、日本専門医機構や厚生労働省が基礎研究者養成のためのプログラムを構築するなど対策に乗り出していることから、人材養成は社会的な課題となっている。本学は基礎研究者を養成する体制も整備されており、このニーズに対応することが可能である。

このように、医学研究科を修了した学生は、日々進歩し、変化する医学領域において、多種多様なニーズへの対応が可能な人材である。多くの人材を養成し、広く社会に貢献することが本医学研究科の使命であると考えている。(資料4)

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料目次）

【資料 1】 大学院進学に関する意識調査（アンケート用紙）・・・・・・・・・・ p2

【資料 2】 大学院進学に関する意識調査（調査結果）・・・・・・・・・・ p4

【資料 3】 大学院進学に関する意識調査（職制別調査結果）・・・・・・・・・・ p10

【資料 4】 三鷹市人口動態（5歳階級人口ピラミッド）・・・・・・・・・・ p17

大学院進学に関する意識調査

杏林大学医学研究科では、より魅力ある大学院を目指すべく、専攻制度やカリキュラム内容等を含め様々な面から検討を行っております。その一環として、今後医学研究科に進学する可能性がある皆様のご意見をお伺い致したく、お手数ですがアンケートのご協力をお願いします。

※本アンケートへの参加は任意によるものとし、参加の有無による不利益は一切ないこと、調査は匿名としプライバシーへの配慮を行うことをお約束します。

回答に○をつけてください

問1、あなたの職制について

- ①研修医1年目 ②研修医2年目 ③レジデント ④専攻医 ⑤医員

問2、性別について

- ①男 ②女

問3、博士号を取得したいと考えていますか？(本学大学院への進学に限りません)

- ①取得したい ②いつかは取得したい ③取得しない ④分からない

問4、【③・④と回答した方】回答した理由を選択してください。

- ①必要性がないから ②専門医を取得するから ③(取得に)費用がかかるから
④(取得に)時間がかかるから ⑤その他(具体的に:)

問5、【①・②と回答した方】どのような方法で取得を考えていますか？

- ①大学院に進学する(課程博士) ②論文を提出する(論文博士) ③分からない・検討中

問6、どのような立場で大学院に進学したいと考えていますか？

- ①臨床医として大学院に進学 ②研究者として大学院に進学 ③検討中

【上記を選択した理由】

幅広い知識を取得したい 研究に専念する時間を確保したい 将来の専攻を検討したい

問7、大学院への進学にあたり、重視する点は何ですか

- ①カリキュラム内容 ②指導体制 ③学位取得プロセス ④通学のしやすさ ⑤学費 ⑥奨学金制度 ⑦研究施設・設備 ⑧夜間の開講 ⑨土・日・祝日の開講 ⑩研究費が確保されている
⑪その他()

問8、杏林大学医学研究科について

大学院進学にあたり、本学医学研究科への進学を希望しますか

- ①希望する ②希望しない ③分からない

希望理由

- ①カリキュラム内容が充実している ②指導体制が整っている ③学位取得プロセスが明確である
④通学しやすい ⑤学費が妥当 ⑥奨学金制度が充実している ⑦知名度がある ⑧卒業生だから
⑨指導を受けたい教員がいる ⑩研究設備・施設が整っている
⑪その他()

希望しない理由

- ①カリキュラム内容が不十分 ②指導体制が整っていない ③学位取得プロセスが不明瞭で不安がある
④通学に時間がかかる ⑤学費が高い ⑥奨学金制度が不足している ⑦知名度がない
⑧指導を受けたい教員が他大学にいる ⑨研究設備・施設が整っていない
⑩その他()

学費について

現在、本学の学費は1年次前期・後期各40万円(計80万円)、2年次以降前期・後期各30万円(計60万円)となっています。進学を検討する際、学費についてどのように思いますか。

- ①高すぎる ②妥当である ③安すぎる

本学医学研究科で学んでみたい分野を選択してください(複数回答可)

- ①肉眼解剖学 ②顕微解剖学 ③ゲノム・遺伝学 ④分子細胞生物学 ⑤代謝生化学
⑥分子機能生化学 ⑦細胞生理学 ⑧統合生理学 ⑨生体物理工学 ⑩分子細胞薬理学
⑪病理学 ⑫感染症・熱帯病学 ⑬臨床検査医学 ⑭社会医療情報学 ⑮法科学
⑯呼吸器内科学 ⑰神経内科学 ⑱腎臓・リウマチ膠原病学 ⑲循環器内科学
⑳血液内科学 ㉑消化器内科学 ㉒糖尿病・内分泌・代謝内科学 ㉓腫瘍内科学
㉔脳卒中医学 ㉕加齢医学 ㉖総合医療学 ㉗小児科学 ㉘精神神経科学
㉙皮膚科学 ㉚放射線医学 ㉛消化器・一般外科学 ㉜呼吸器・甲状腺外科学
㉝乳腺外科学 ㉞救急医学 ㉟整形外科学 ㊱リハビリテーション医学 ㊲脳神経外科学
㊳心臓血管外科学 ㊴産科婦人科学 ㊵眼科学 ㊶耳鼻咽喉科学 ㊷泌尿器科学
㊸麻酔科学 ㊹小児外科学 ㊺形成外科学

大学院進学に関する意識調査のまとめ

実施目的: 将来大学院に進学する可能性のある若手医師を対象とし、博士号の取得希望状況等について意識調査を行う

実施期日: 平成 30 年 6 月 7 日～6 月 29 日

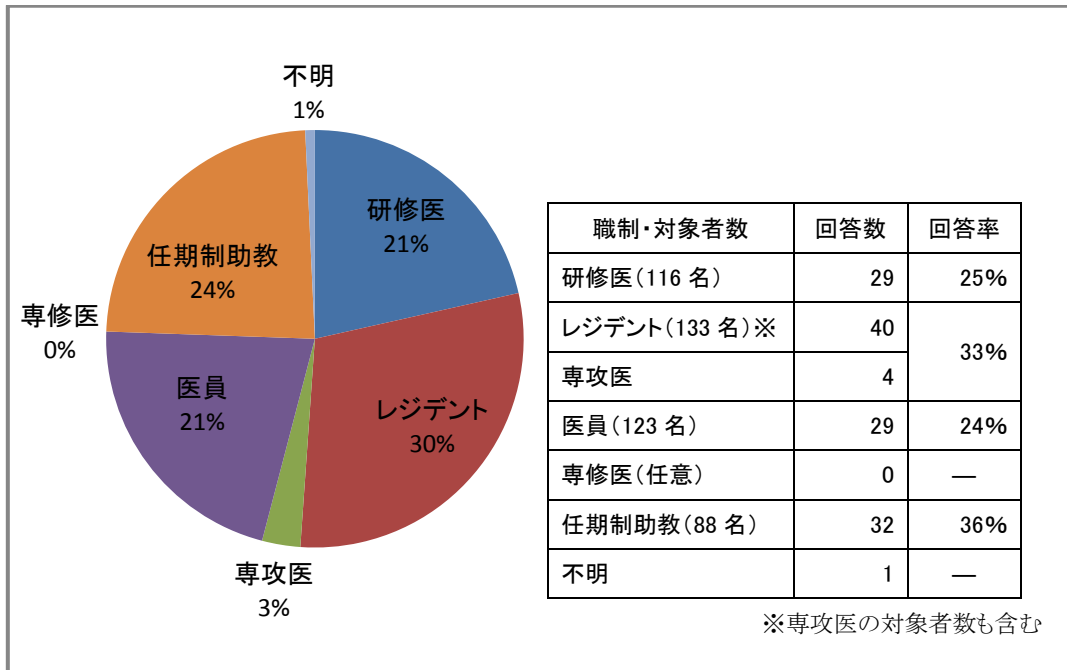
対象者: 研修医、レジデント、専攻医、医員、任期制助教 計 460 名

※専修医は任意参加とした

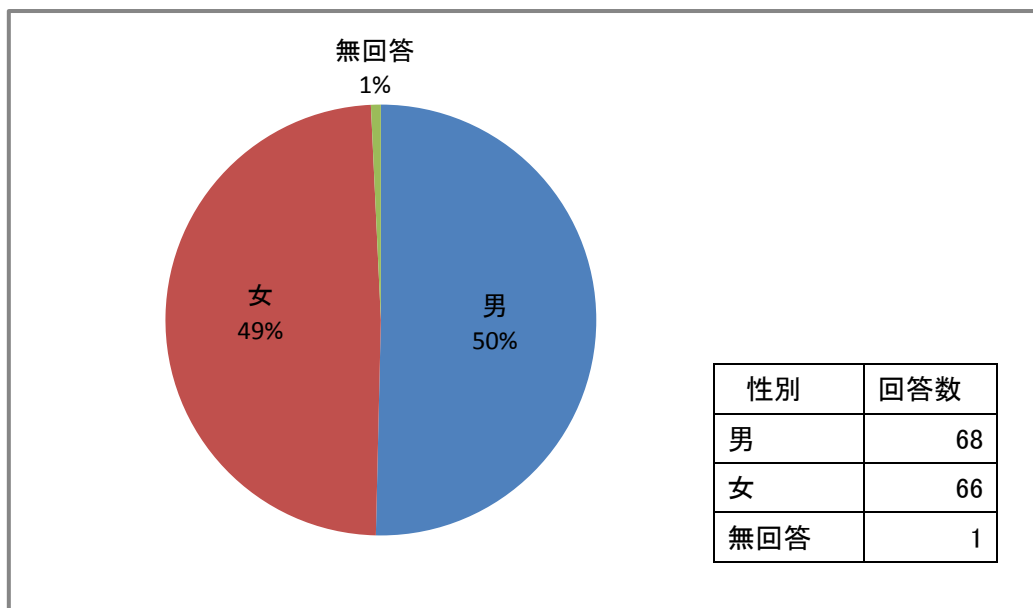
※対象者のうち、すでに学位を取得した教職員は対象外とした

回答数: 135 名(回答率 29.3%)

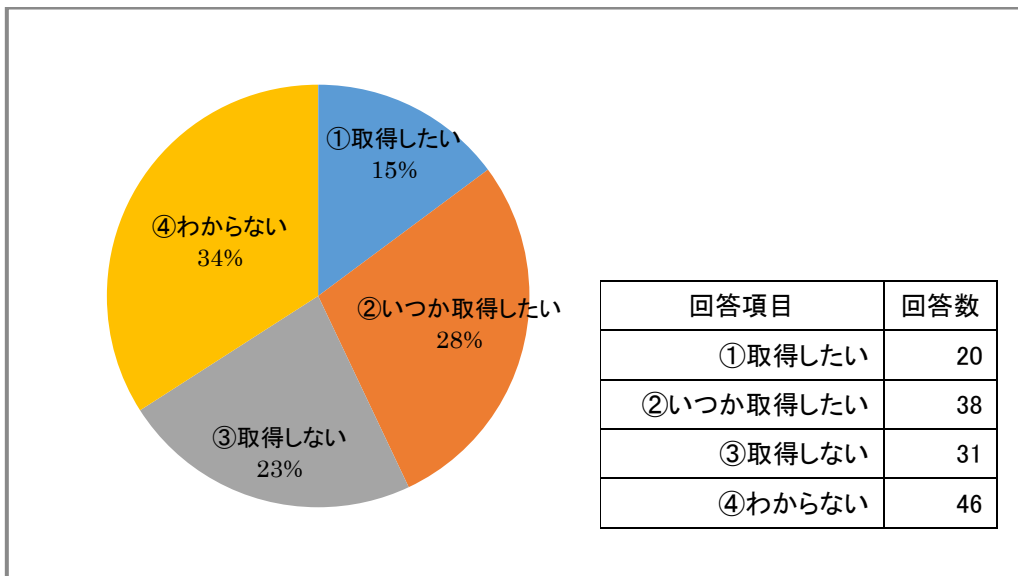
問1、あなたの職制について



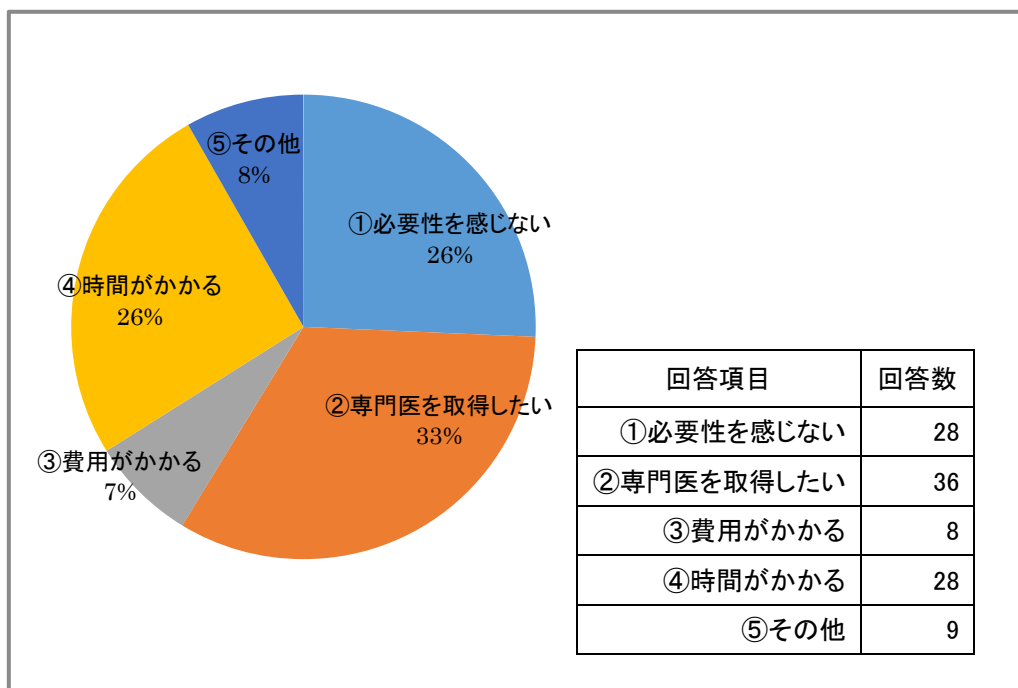
問2、あなたの性別について



問3、博士号を取得したいと考えていますか？



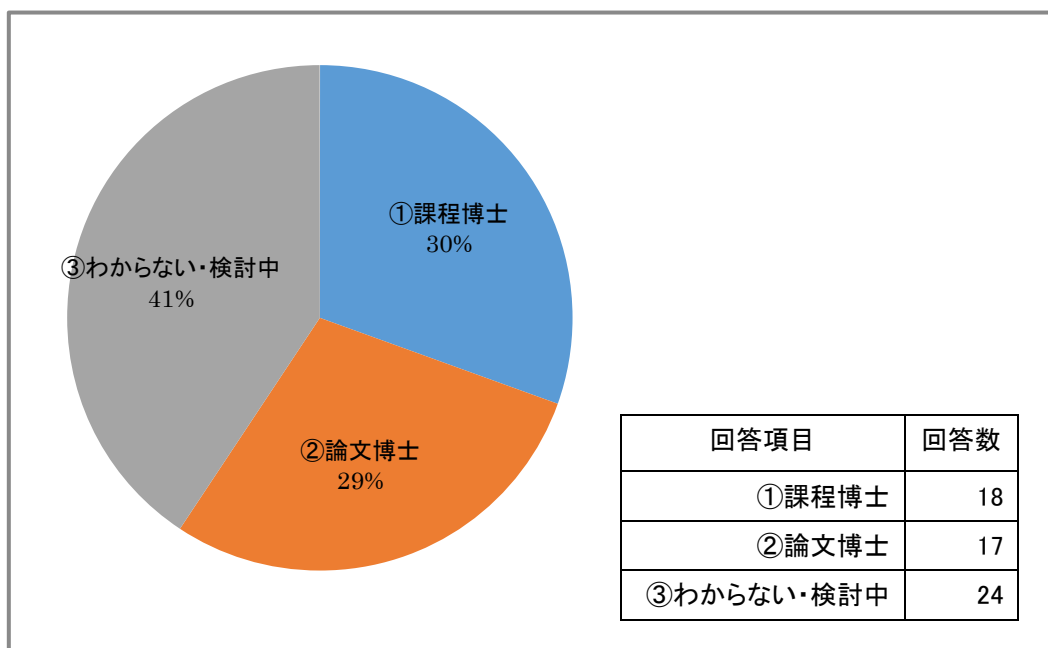
問4、【問3で③取得しない、④分からない を回答した方】回答した理由を選択して下さい



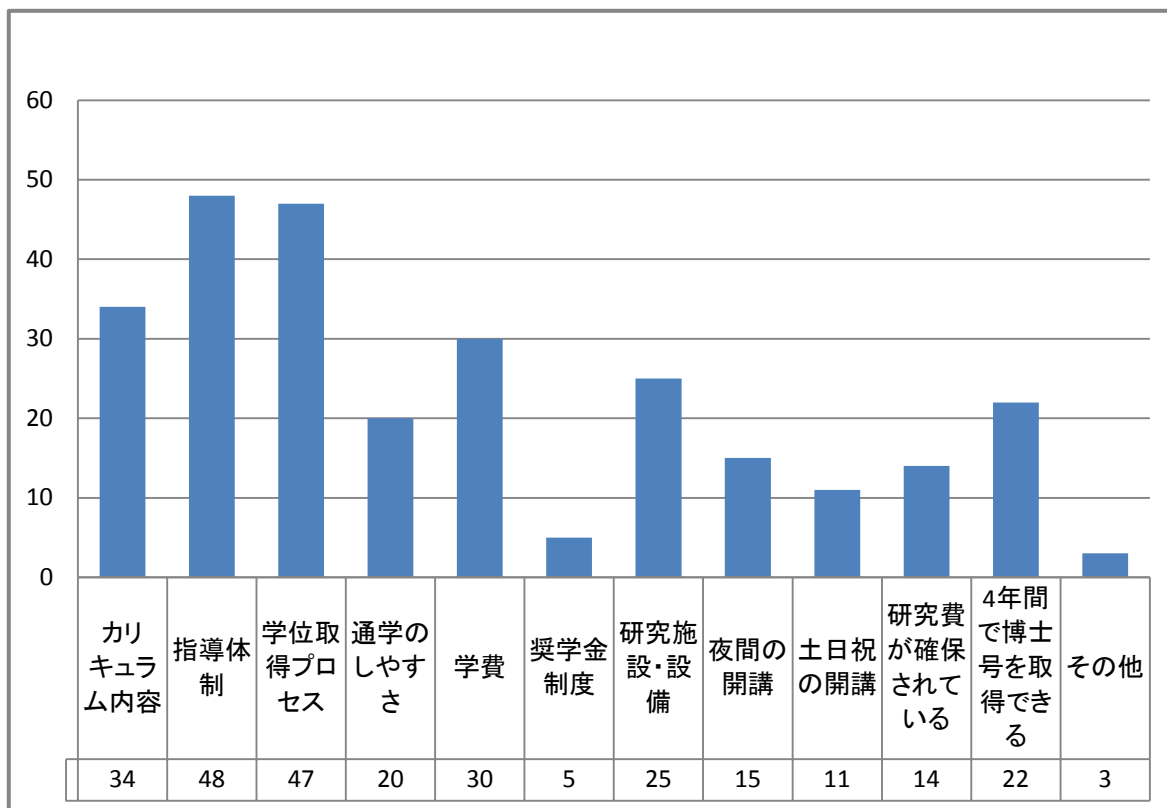
【その他:コメント】

- ・今後自分に必要かどうか分からないから(専攻医 1 年目)
- ・家庭の事情(専攻医 6 年目)
- ・制度がよく分からない(研修医 1 年目)
- ・そこまで考える余裕がまだない(レジデント 3 年目)
- ・家業がせまられている(レジデント 7 年目)
- ・専門医と博士の両方が希望(レジデント 10 年目)
- ・暇がない。本来すべき臨床業務が二の次になる(任期制助教)
- ・臨床を優先したい(任期制助教)
- ・自分の専門性を極めるのは、当院では難しい。かといって他大で行う自信がない。(任期制助教)

問5、【問3で①取得した、②いつかは取得したい、を回答した方】どのような方法で取得を考えていますか？



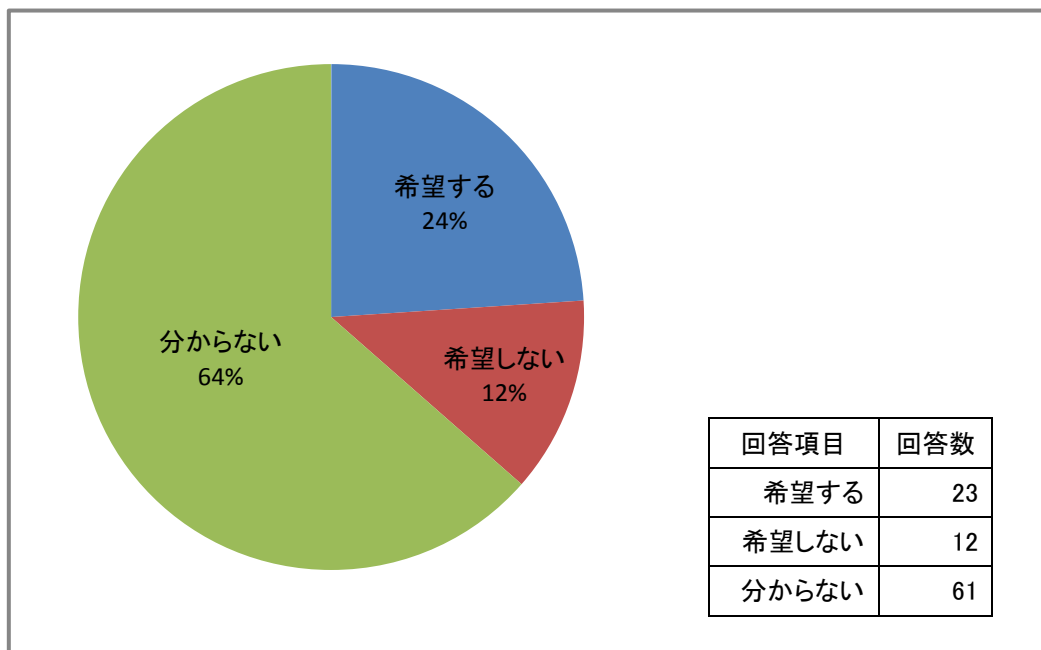
問6、大学院への進学にあたり、重視する点は何ですか



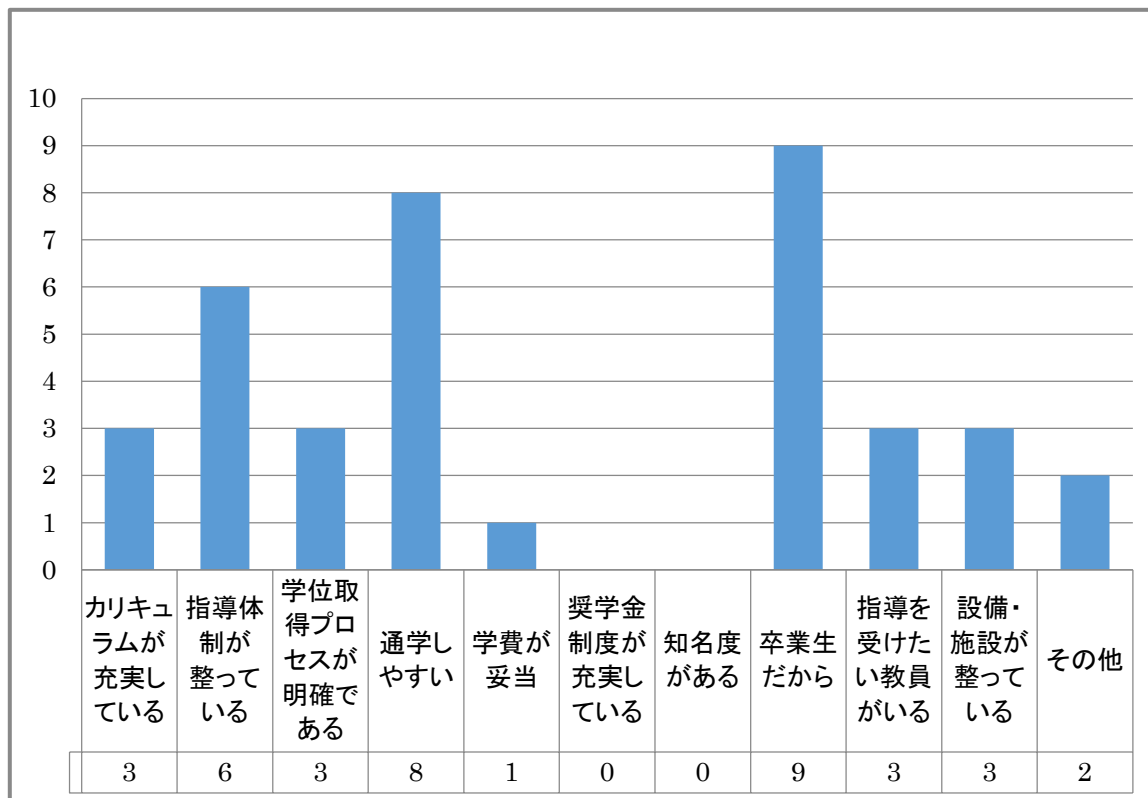
【その他:コメント】

・研究をしてみたい(レジデント 10 年目)

問7、医学研究科について 大学院進学にあたり本学医学研究科への進学を希望しますか



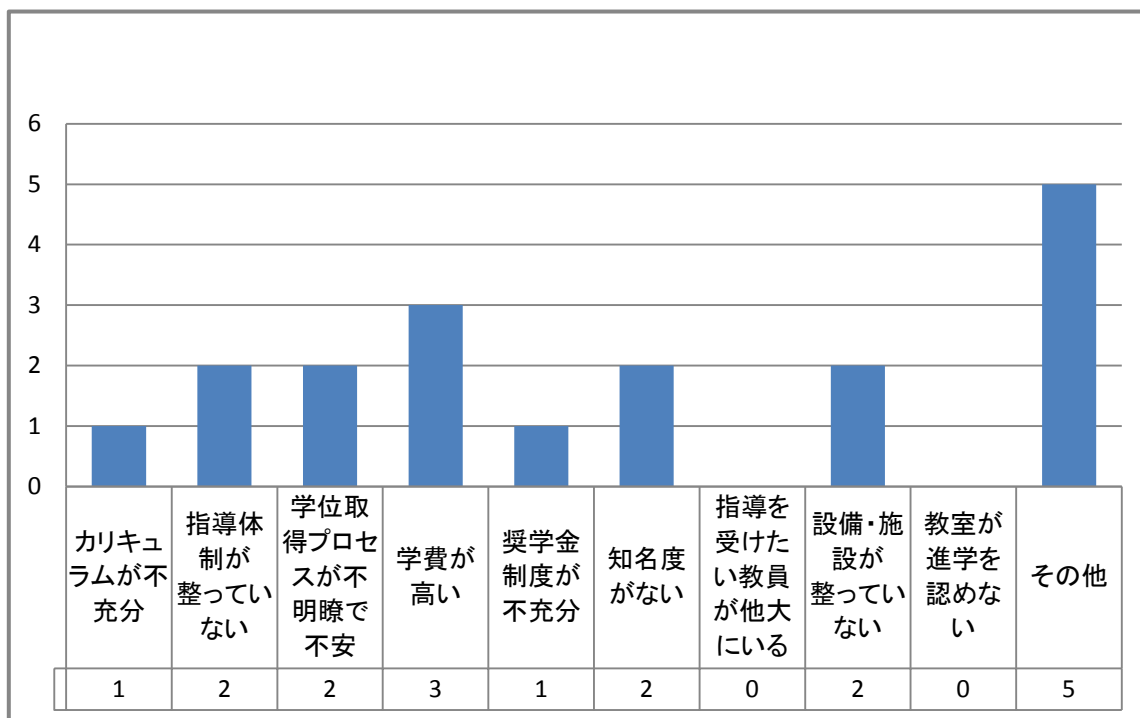
問7-①、本学への進学希望理由



【その他:コメント】

- ・現在の職場と同じ敷地のため(医員)
- ・研究をしてみたい(レジデント 10 年目)

問7-②、本学へ進学を希望しない理由

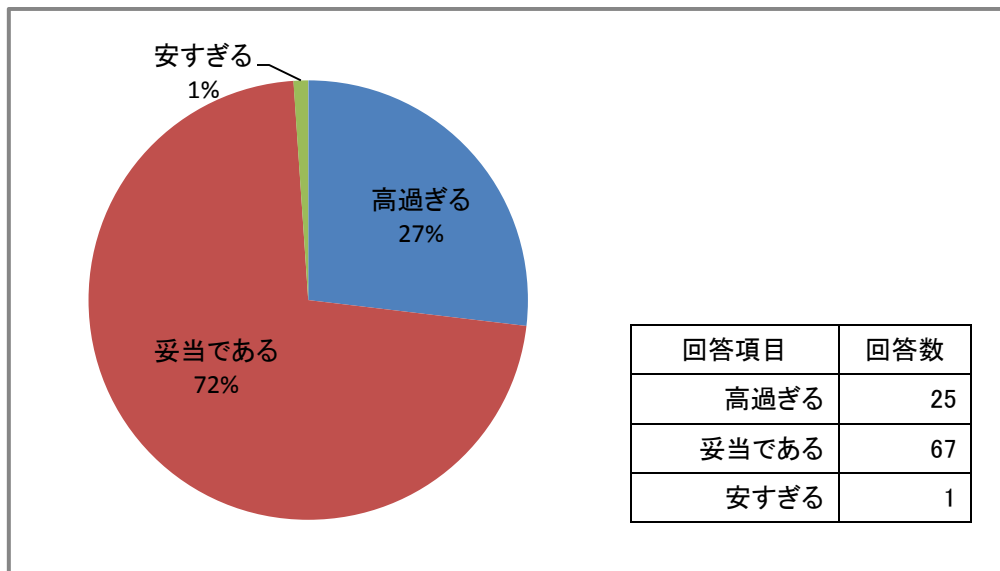


【その他:コメント】

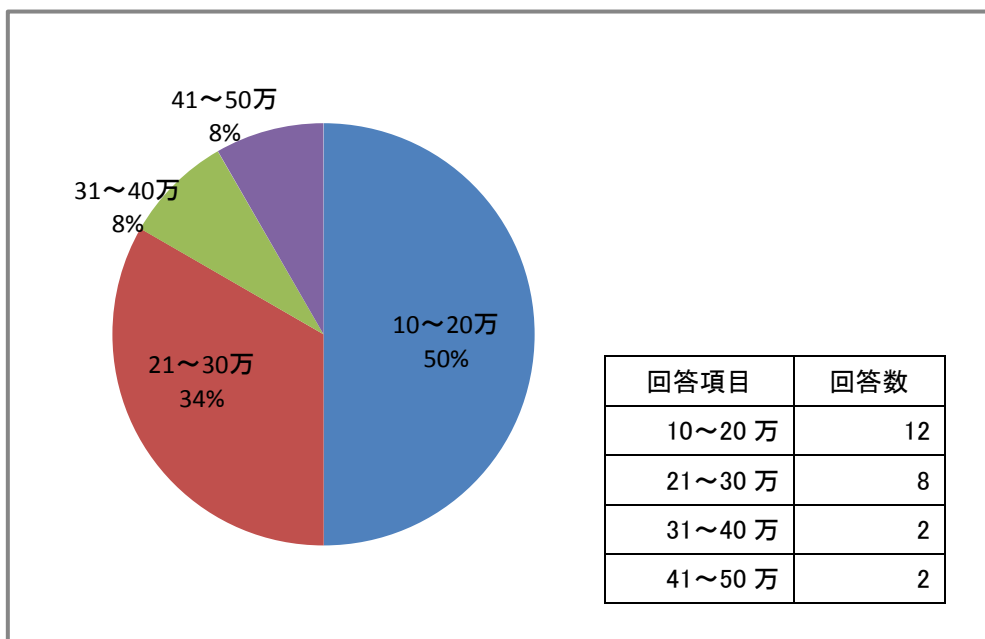
- ・臨床研究に繋がるプログラムに魅力を感じるが、当院にはない。自分の専門と研究できることが合致しない(任期制助教)
- ・時間的余裕がない(任期制助教)

問8、学費について

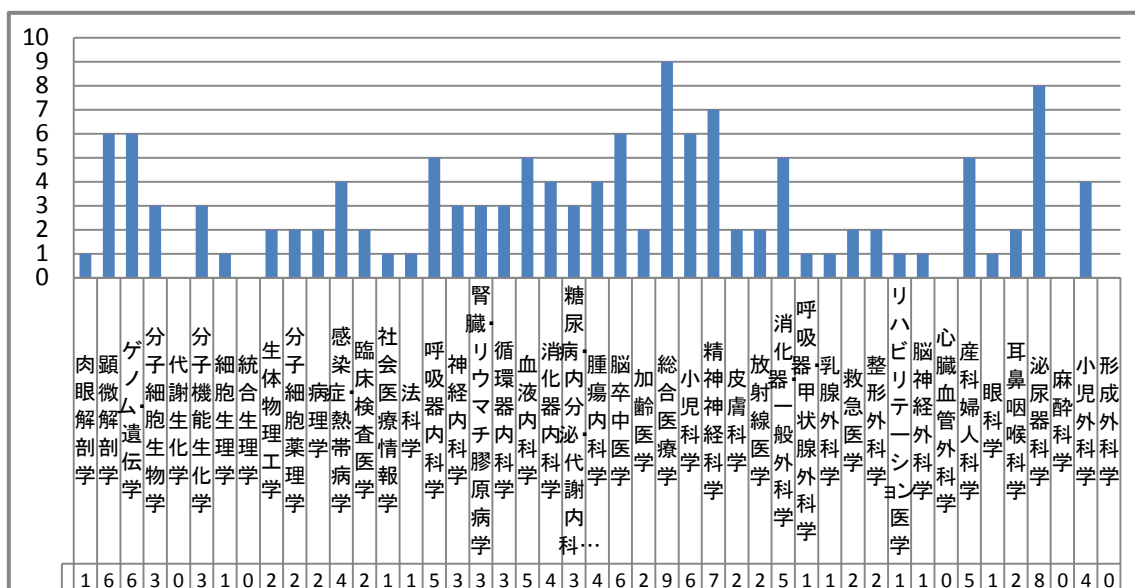
現在、医学研究科の学費は前期・後期各30万円となっています。進学を検討する際、学費についてどう思いますか



問8-①、年額いくらであれば入学しますか(若しくは入学を検討しますか)

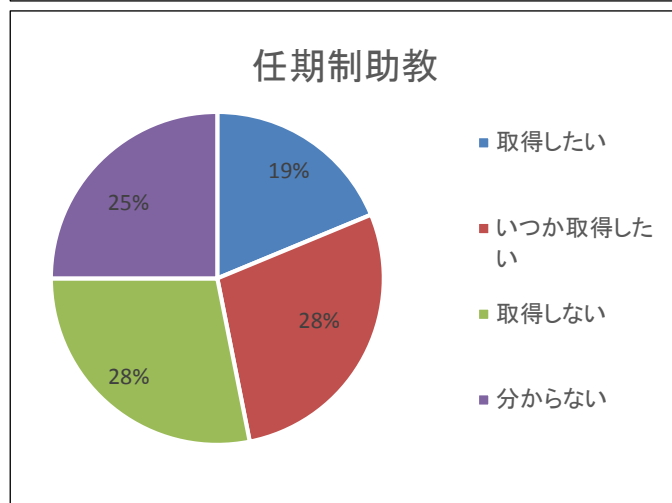
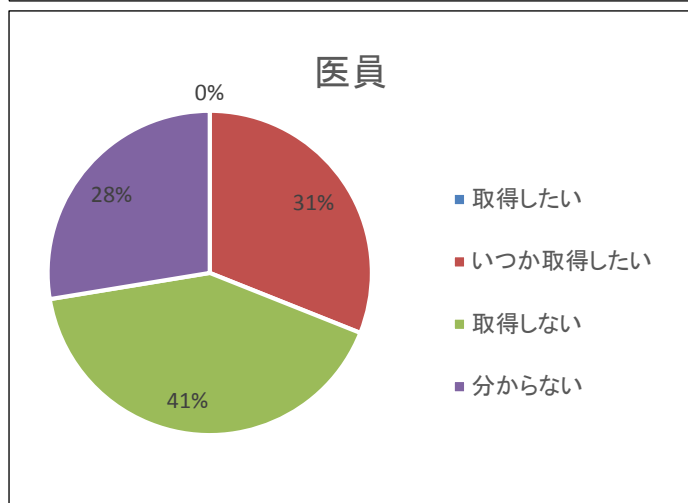
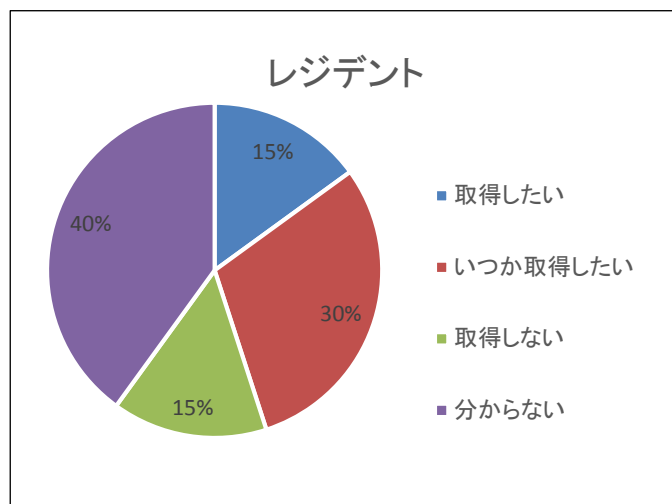
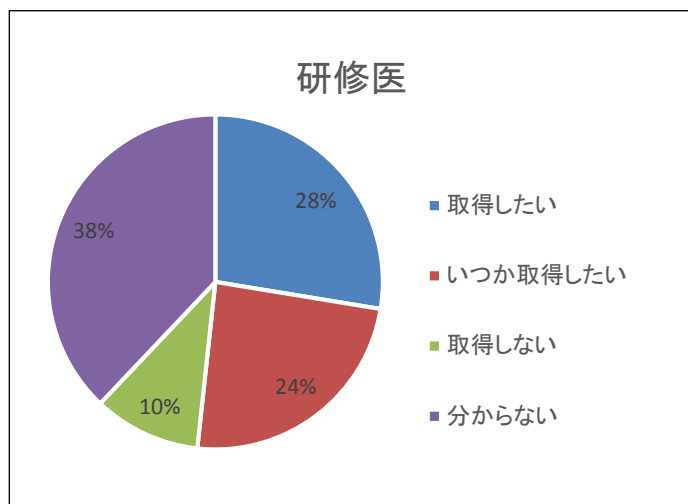
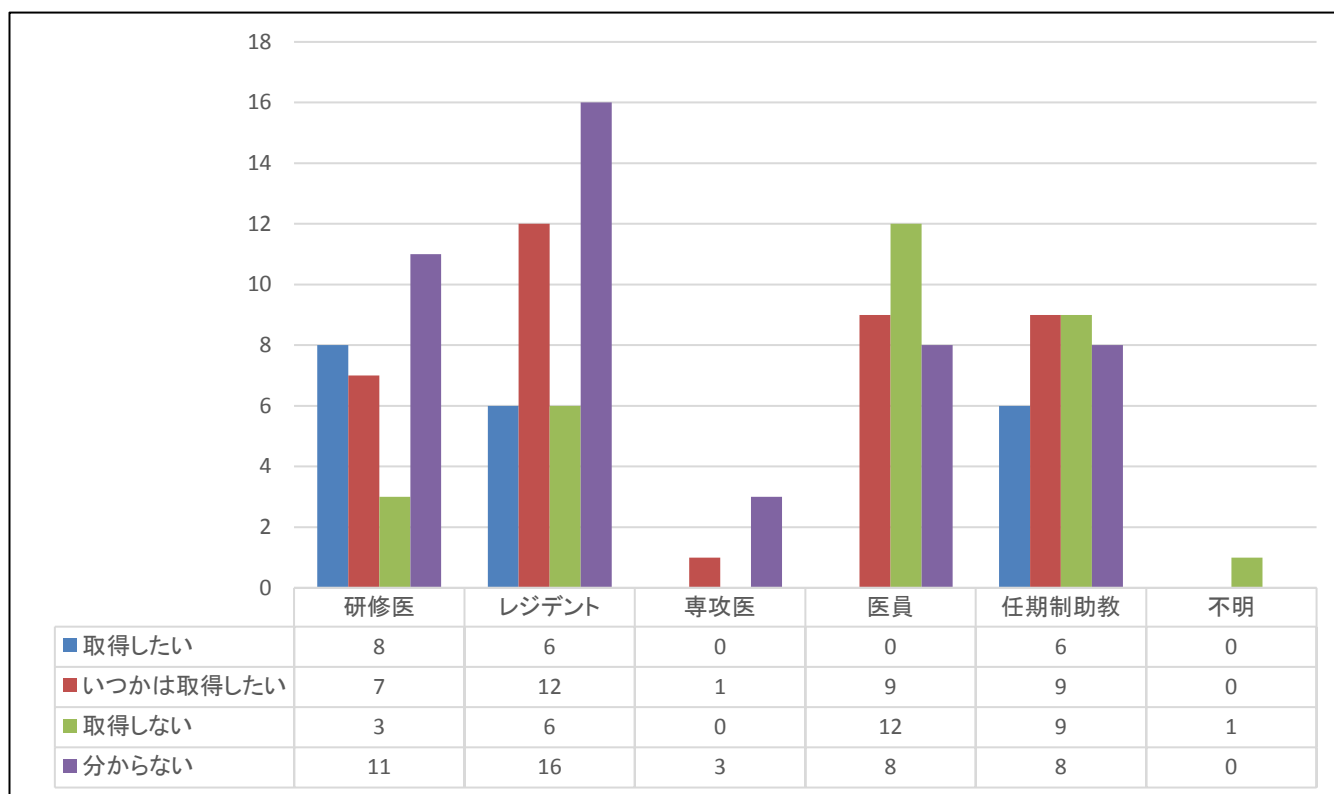


問9、本学医学研究科で学んでみたい分野を選択してください

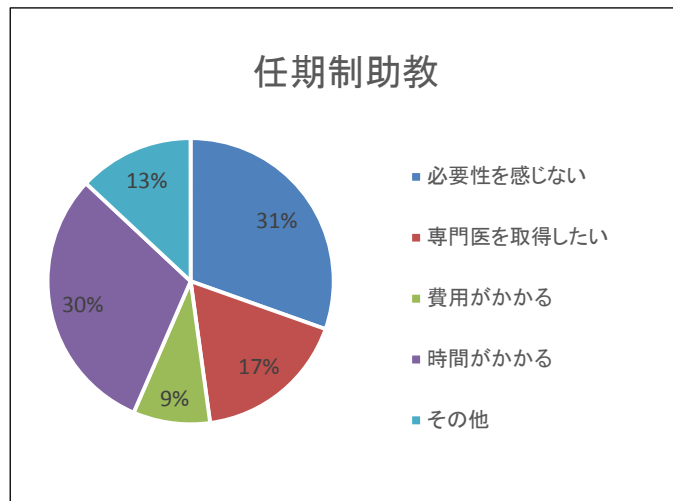
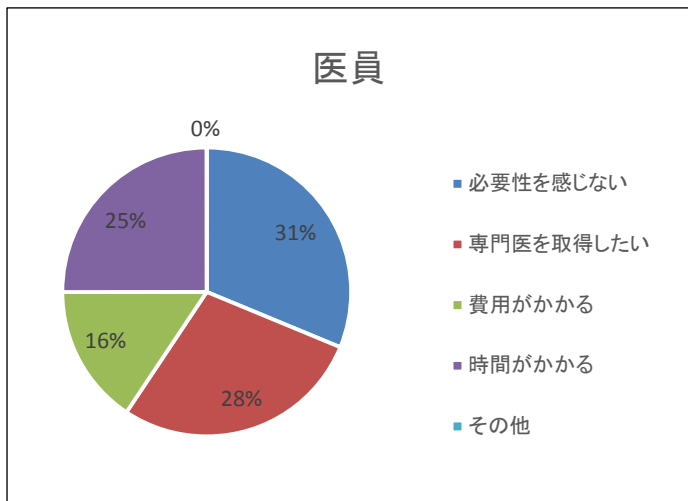
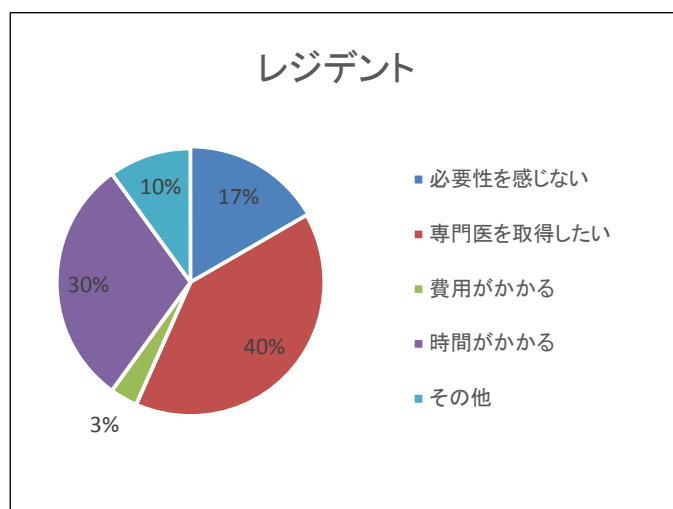
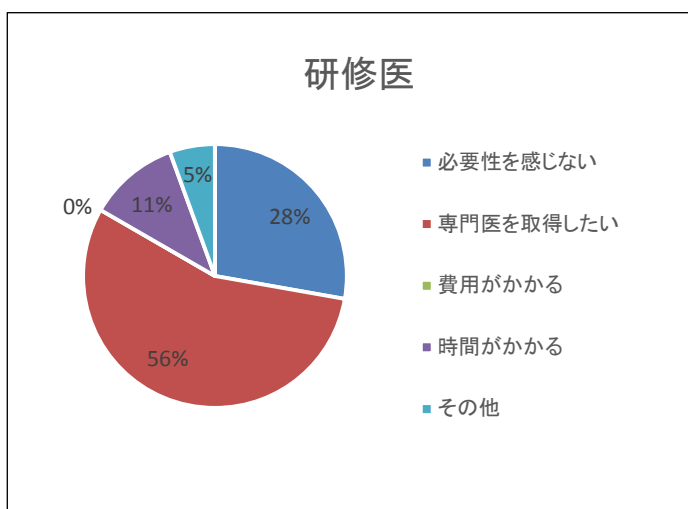
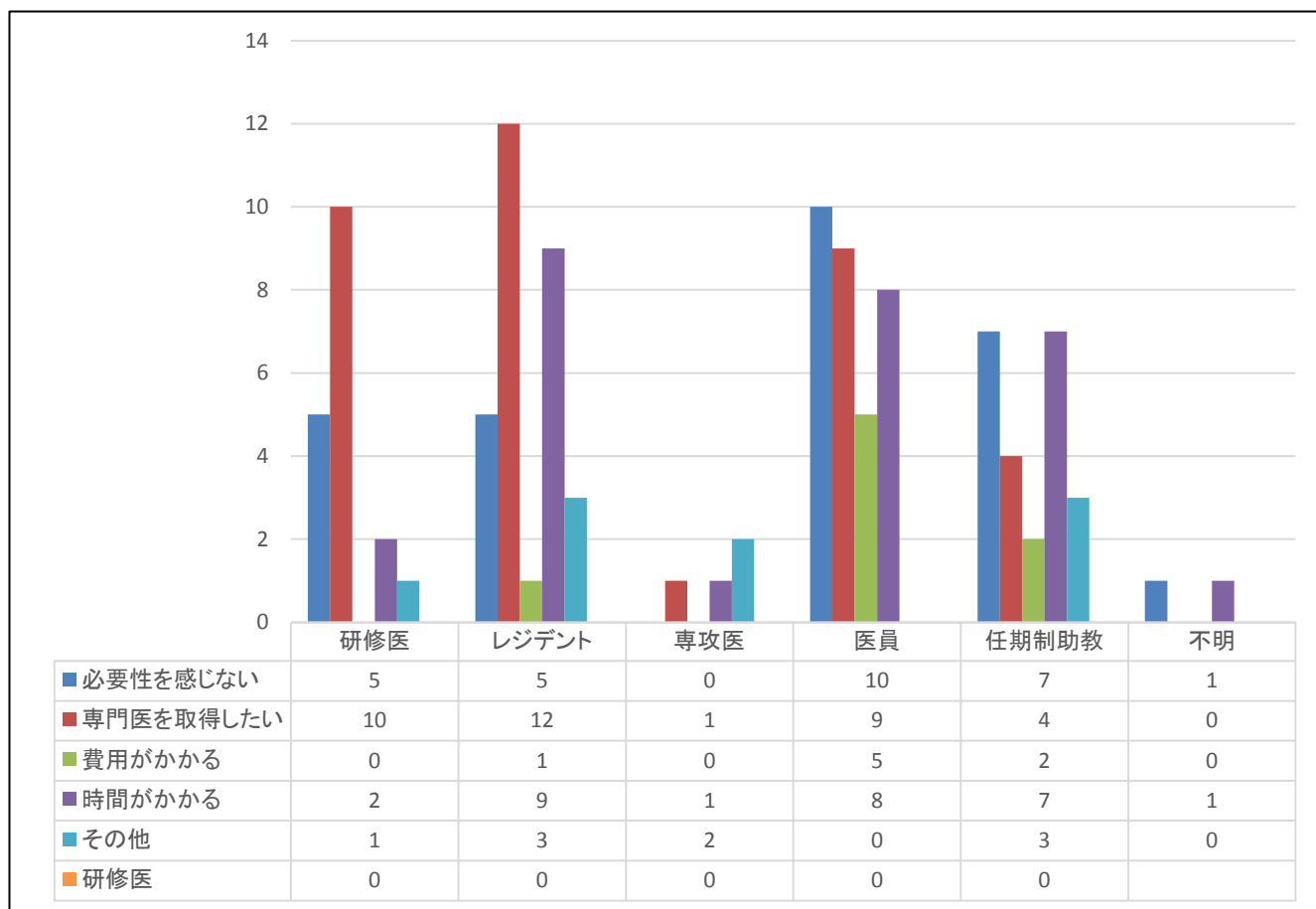


大学院進学に関する意識調査まとめ（職制別集計）

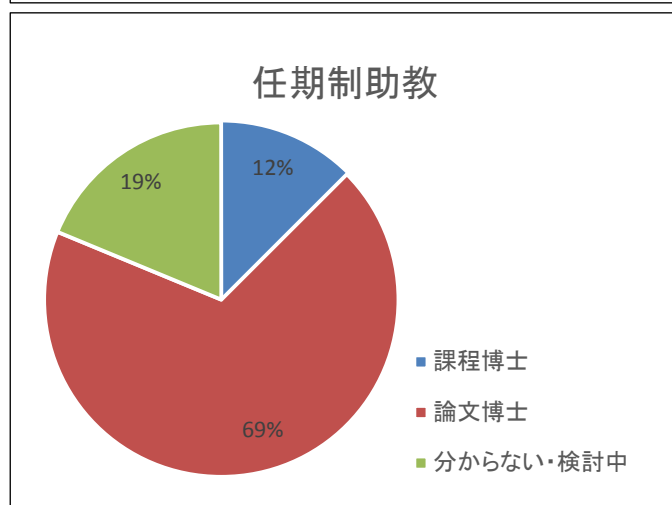
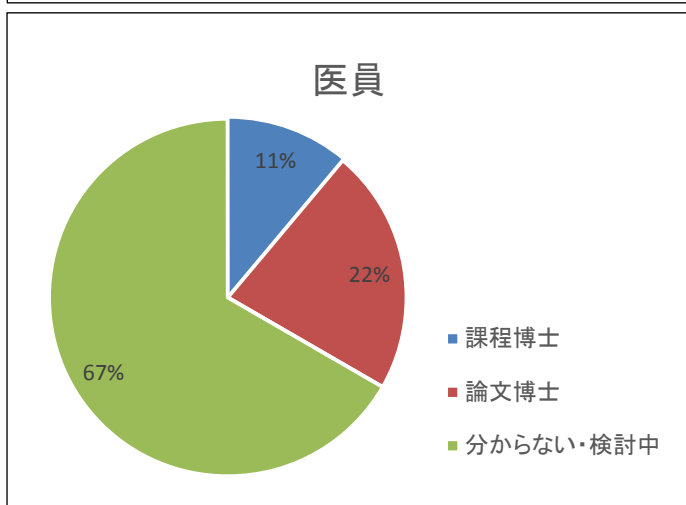
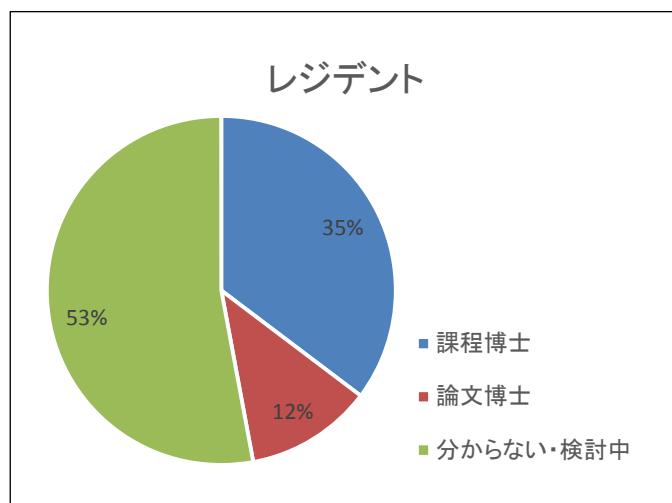
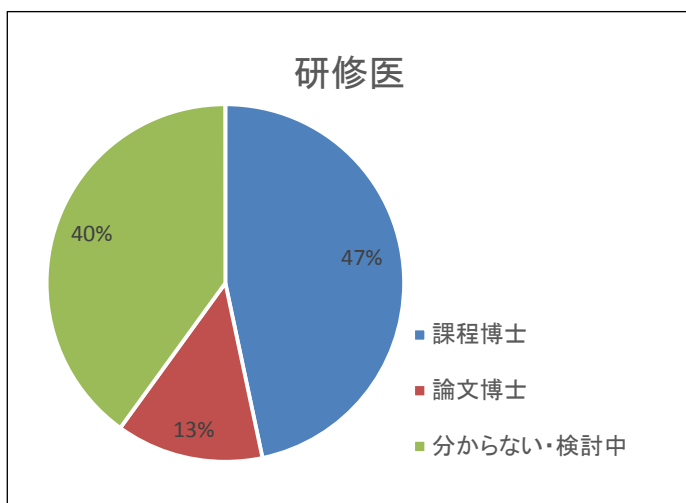
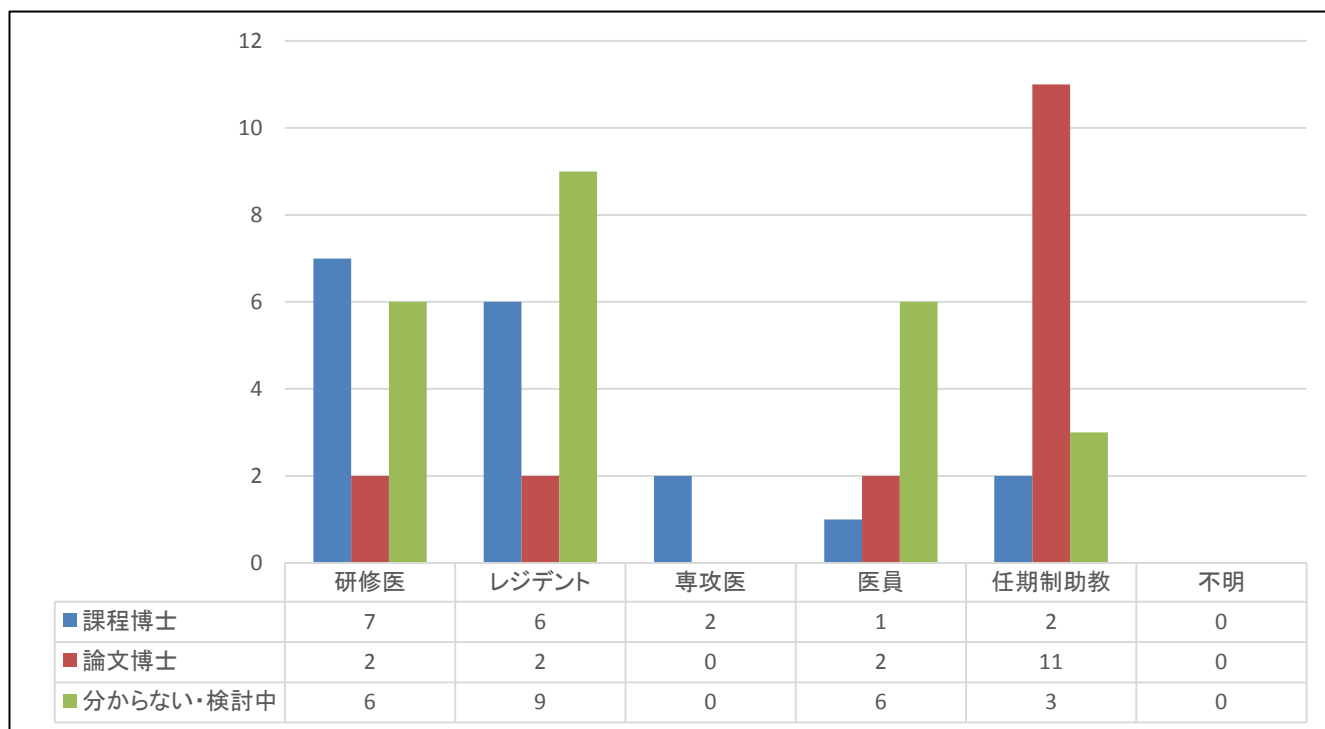
問3、博士号を取得したいと考えていますか？



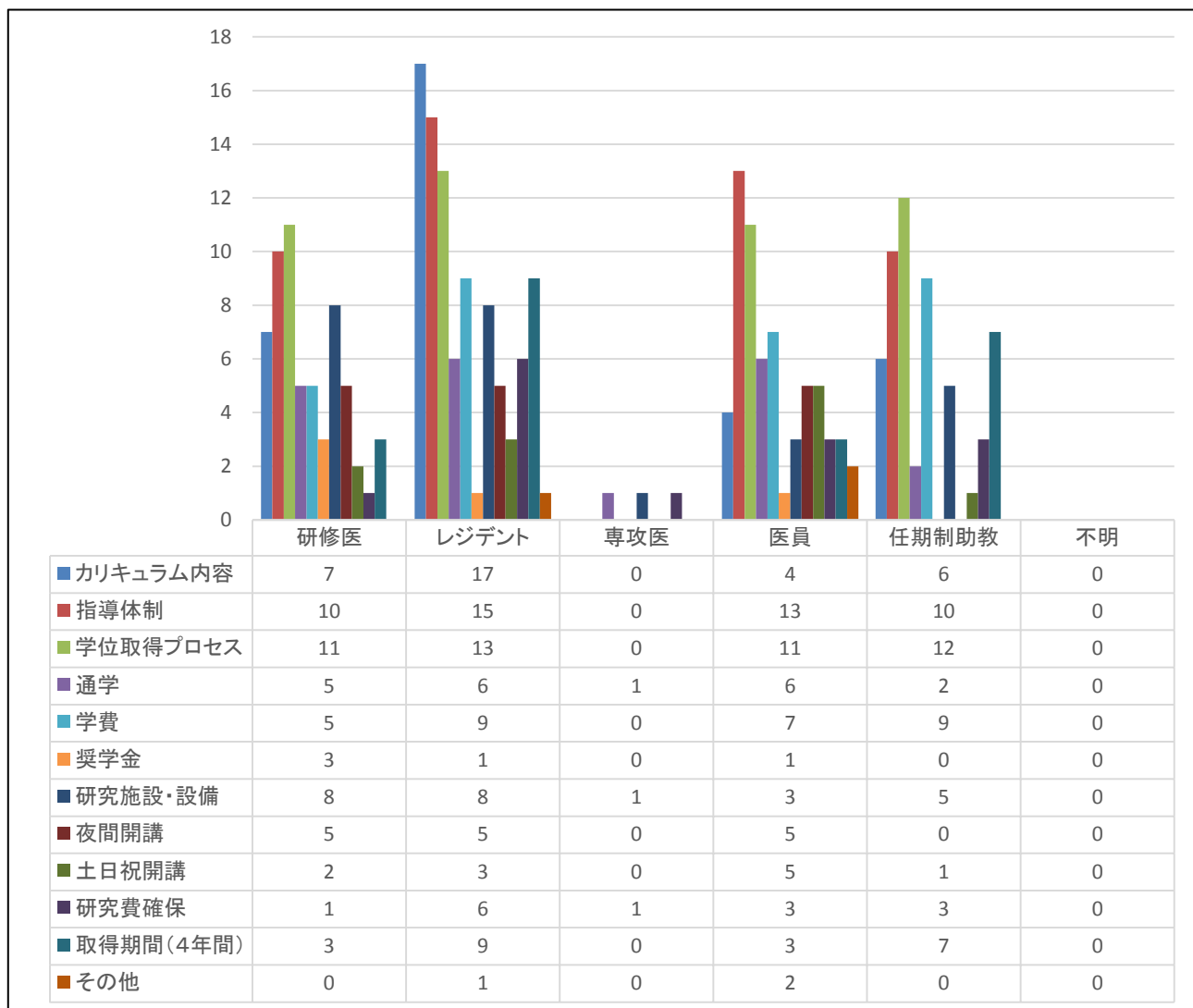
問4、【問3で③取得しない、④分からないを回答した方】回答した理由を選択して下さい



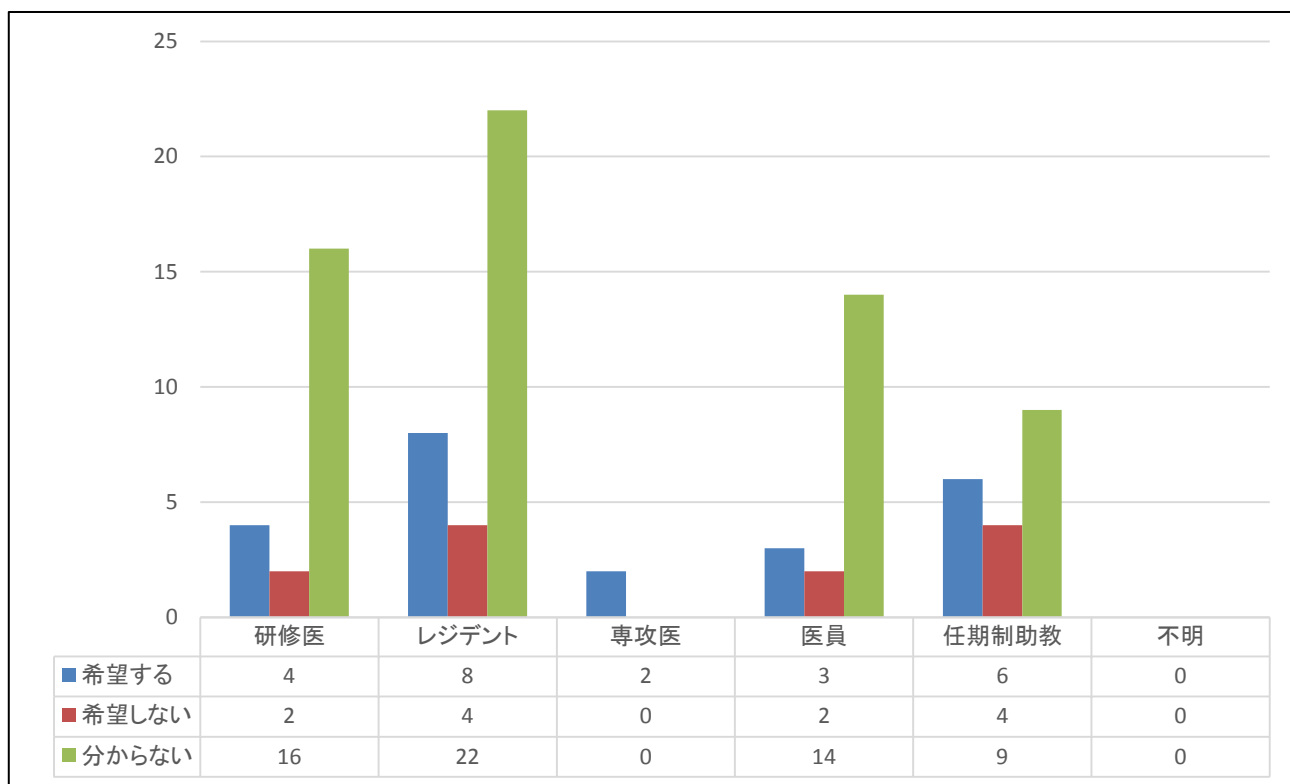
問5、【問3で①取得した、②いつかは取得したい、を回答した方】どのような方法で取得を考えていますか？



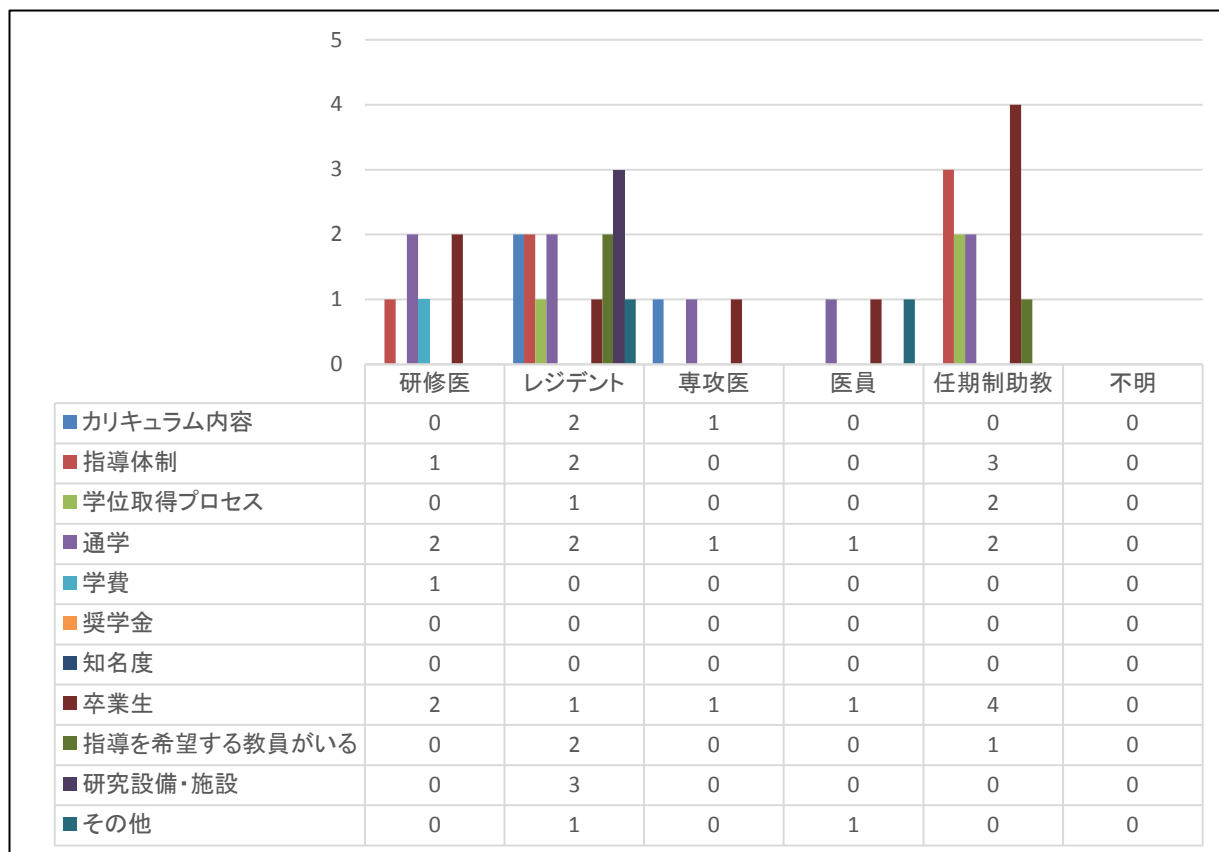
問6、大学院への進学にあたり、重視する点は何ですか



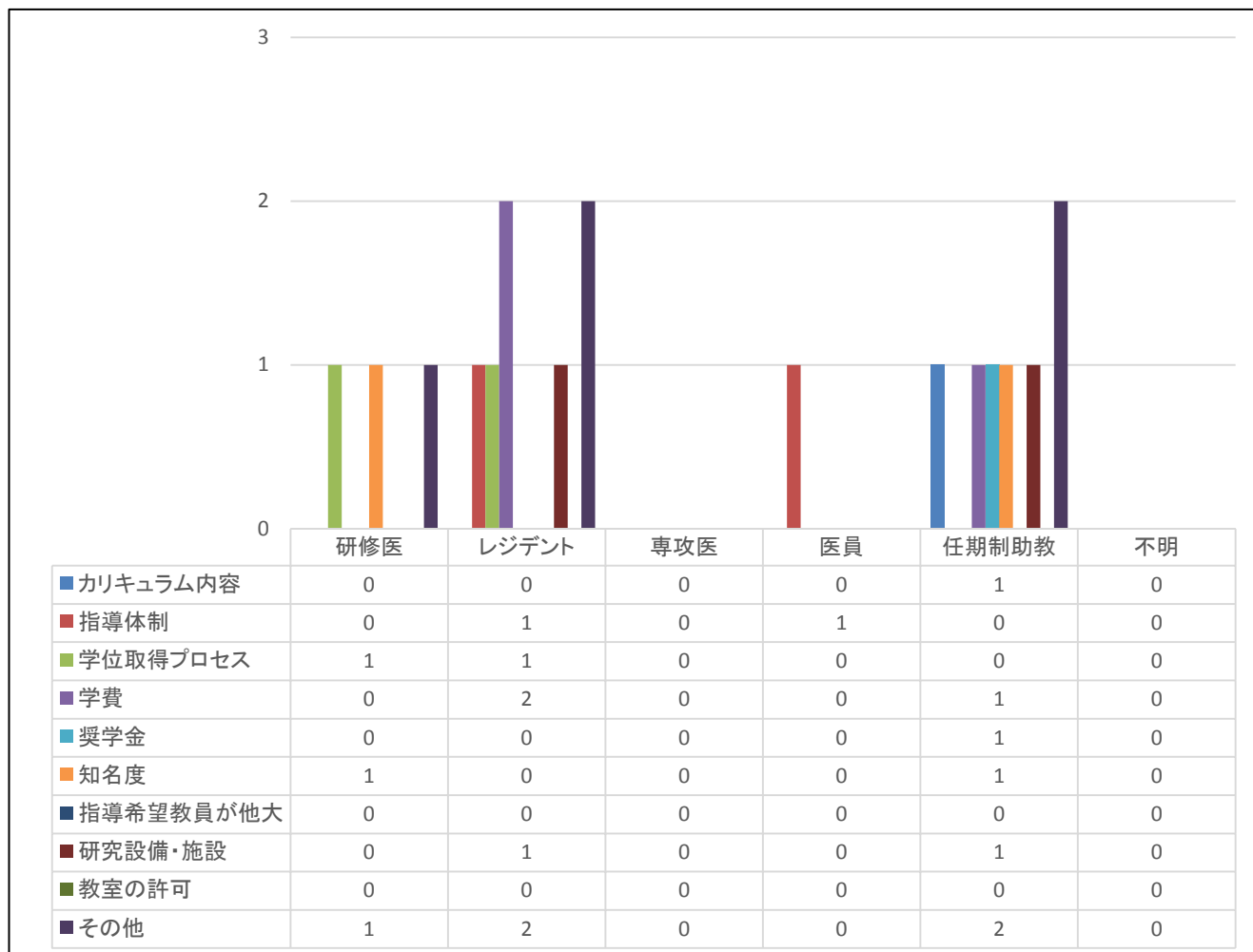
問7、医学研究科について 大学院進学にあたり本学医学研究科への進学を希望しますか



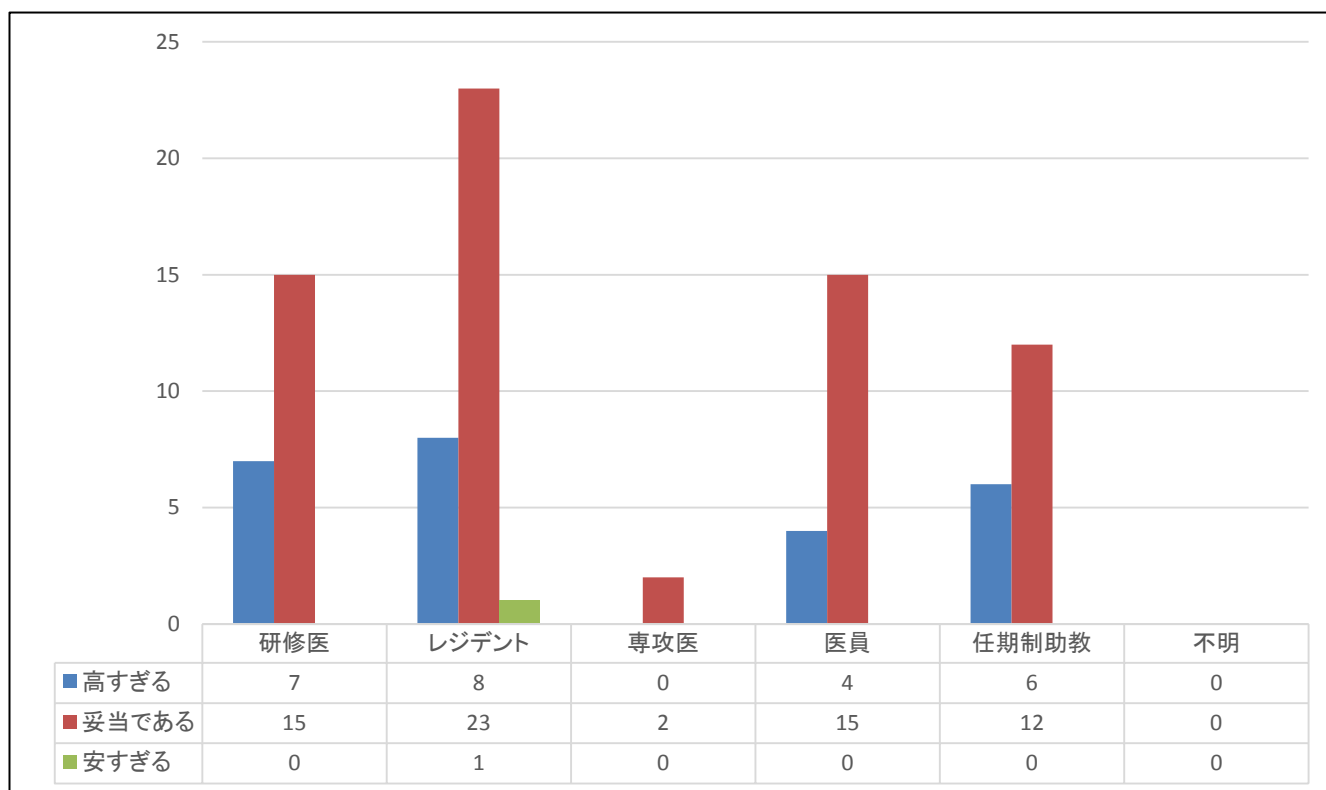
問7-①、本学への進学希望理由



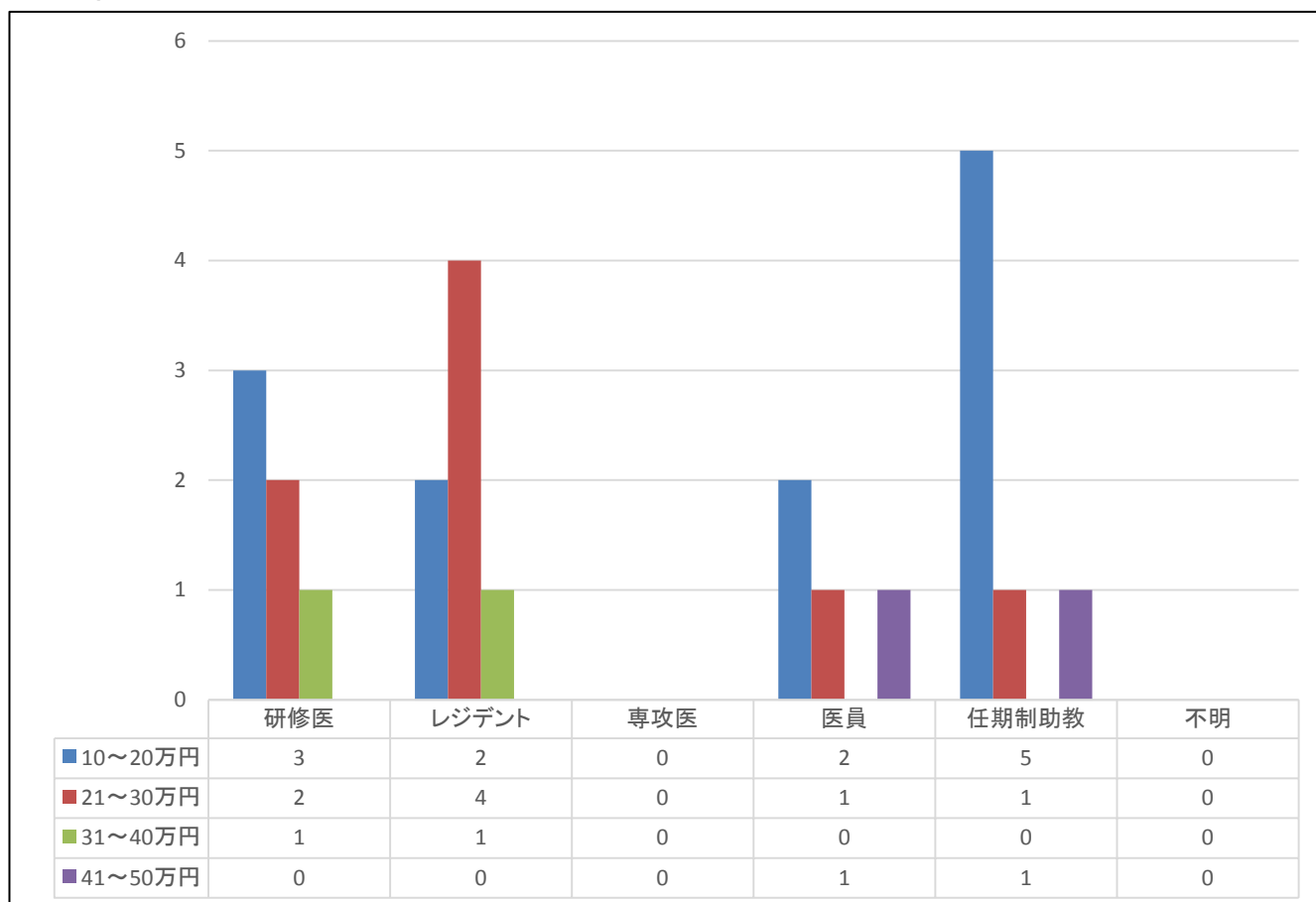
問7-②、本学へ進学を希望しない理由



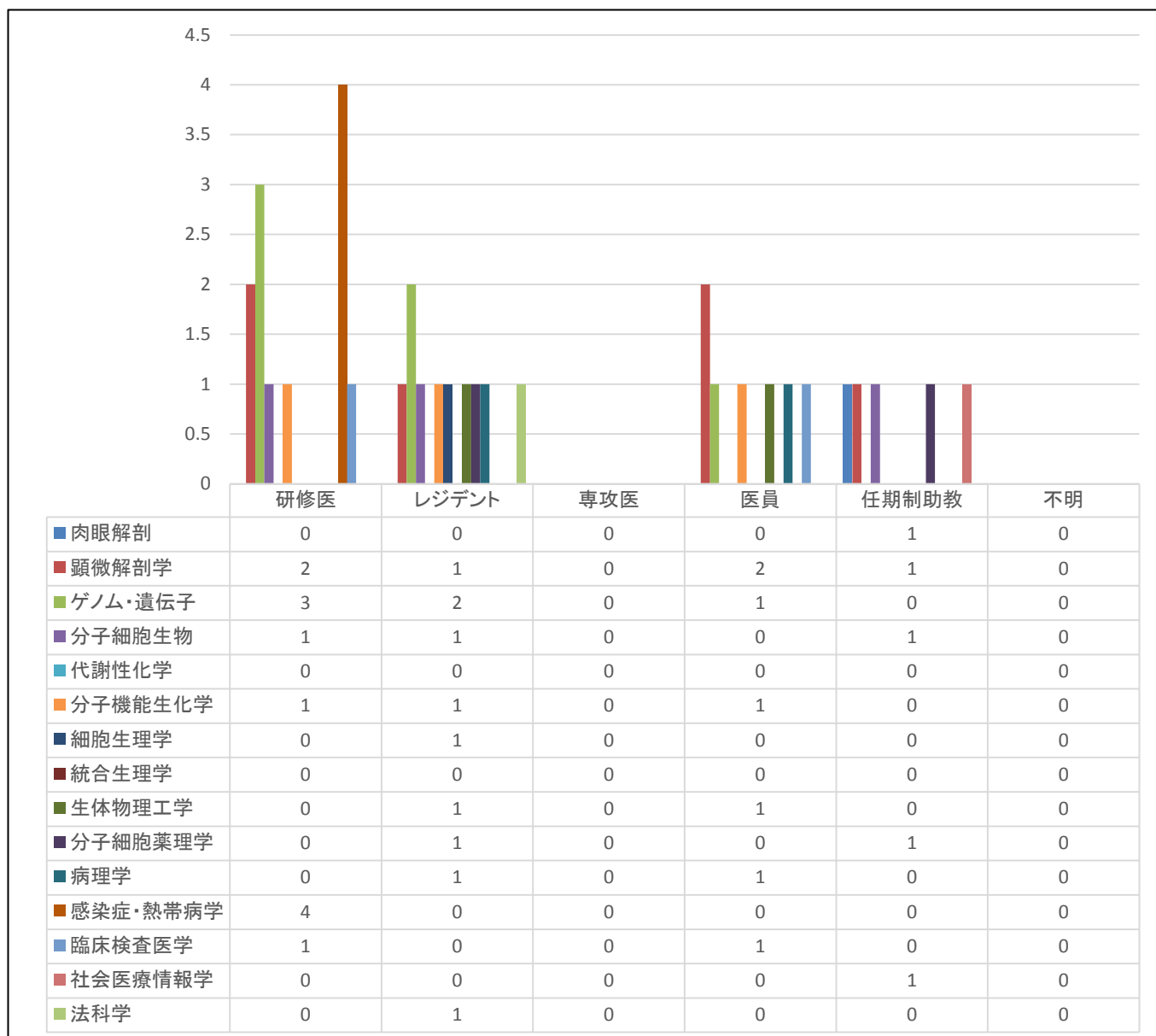
問8、学費について



問8-①、年額いくらであれば入学しますか(若しくは入学を検討しますか)



問9、本学医学研究科で学んでみたい分野を選択してください



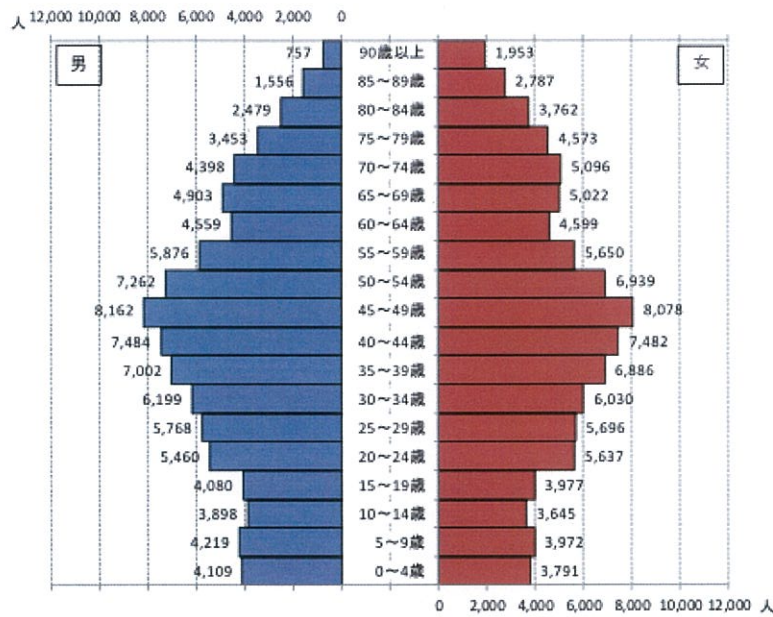
(3) 人口ピラミッド

2019年時点では、男女ともに45～49歳が最も多く、同年齢階級をピークとする山がある。また、65～69歳及び70～74歳の団塊の世代の人口も多くなっている。

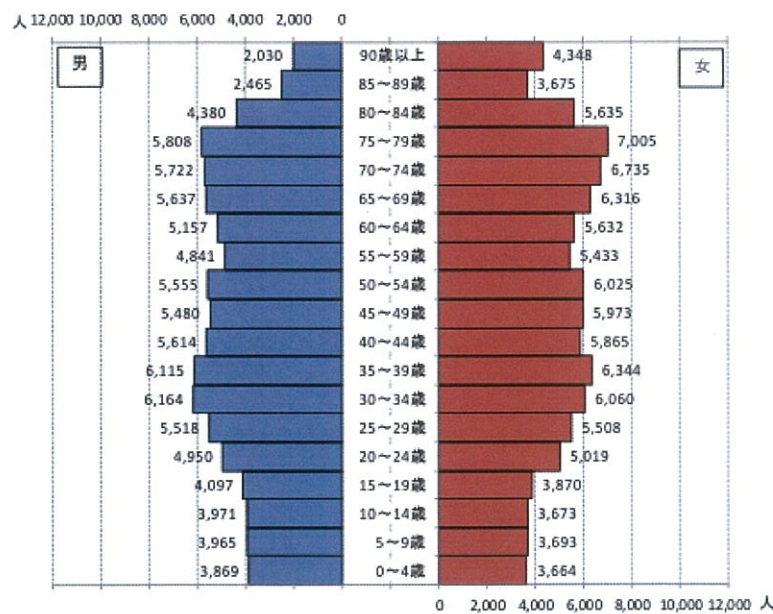
30年後の2049年には、最も人口多い年齢階級が75～79歳となり、全体的に高齢者の人口規模が大きくなる。

【図表22】5歳階級別人口ピラミッド（各年1月1日、総人口（外国人含む））

<2019年>



<2049年>



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
	学長	大瀧 純一 材姓 ジュンイチ <平成30年4月>		博士 (医学)		杏林大学学長 (平成30年4月)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
(医学研究科医学専攻)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数	
1	専	教授	アキモト ヨシヒロ 秋元 義弘		理学博士 医学博士		顕微解剖学 講義・演習 顕微解剖学 実験・実習 特別研究	1前 2通 1～4通	4 4 8	1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年04月)	5日	
2	専	教授	アベ ノブツグ 阿部 展次		博士 (医学)		消化器・一般外科学 講義・演習 消化器・一般外科学 実験・実習 消化器・一般外科学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成30年04月)	5日	
3	専	教授	アヲキ タケシ 栗崎 健		博士 (理学)		発生・遺伝学 講義・演習 発生・遺伝学 実験・実習 発生・遺伝学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年04月)	5日	
4	専	教授	イシイ ハルキ 石井 晴之		博士 (医学)		呼吸器内科学 講義・演習 呼吸器内科学 実験・実習 呼吸器内科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (令和02年04月)	5日	
5	専	教授	イカリ ヤエコ 市川 弥生子		博士 (医学)		脳神経内科学 講義・演習 脳神経内科学 実験・実習 脳神経内科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (令和02年04月)	5日	
6	専	教授	イノウエ マコト 井上 真		博士 (医学)		眼科学 課題研究 特別研究	3通 1～4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年10月)	5日	
7	専	教授	イマヰ ミミコ 今泉 美佳		理学博士		細胞生化学 講義・演習 細胞生化学 実験・実習 細胞生化学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年04月)	5日	
8	専	教授	イトシゲル 井本 滋		博士 (医学)		乳腺外科学 講義・演習 乳腺外科学 実験・実習 乳腺外科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成19年04月)	5日	
9	専	教授	ウキヤマ エツジ 浮山 越史		博士 (医学)		小児外科学 講義・演習 小児外科学 実験・実習 小児外科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成28年04月)	5日	
10	専	教授	ウシマル マコト 丑丸 真		博士 (理学)		分子機能生化学 講義・演習 分子機能生化学 実験・実習 分子機能生化学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成24年04月)	5日	
11	専	教授	エハラ タケシ 江原 威		博士 (医学)		放射線腫瘍学 講義・演習 放射線腫瘍学 実験・実習 放射線腫瘍学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成31年01月)	5日	
12	専	教授	オウラ ノリヒコ 大浦 紀彦		博士 (医学)		形成外科学 課題研究 特別研究	3通 1～4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成28年04月)	5日	
13	専	教授	オホキ ユカリ 大木 紫		医学博士 保健学修 士		統合生理学 講義・演習 統合生理学 実験・実習 統合生理学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成24年04月)	5日	
14	専	教授	オホキ カコ 大崎 敬子		博士 (医学)		感染症学 課題研究 特別研究	3通 1～4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (令和02年04月)	5日	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
15	専	教授	マニシ ヒロキ 大西 宏明		博士 (医学)		臨床検査医学 講義・演習 臨床検査医学 実験・実習 臨床検査医学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1~4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成31年04月)	5日
16	専	教授	オヤマ マサフ 大山 学		博士 (医学)		皮膚科学 講義・演習 皮膚科学 実験・実習 皮膚科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成27年04月)	5日
17	専	教授	オカダ アナベルアヤメ 岡田 アナベルあや め		博士 (医学)		眼科学 講義・演習 眼科学 実験・実習 眼科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成29年04月)	5日
18	専	教授	オカモト ススム 岡本 晋		博士 (医学)		総合医療学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年06月)	5日
19	専	教授	オノキミネ 尾崎 峰		博士 (医学)		形成外科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (令和02年04月)	5日
20	専	教授	オノノ シンヤ 要 伸也		博士 (医学)		腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習 特別研究	1前 2通 1~4通	4 4 8	1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年04月)	5日
21	専	教授	オノノ カチエ 菊田 香苗		博士 (医学)		衛生学・公衆衛生学 講義・演習 衛生学・公衆衛生学 実験・実習 衛生学・公衆衛生学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1~4通 1通	4 4 8 8 0.3	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成27年04月)	5日
22	専	教授	オノノ キム 北村 修		医学博士		法医学 講義・演習 法医学 実験・実習 法医学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成27年04月)	5日
23	専	教授	オノノ タロウ 窪田 博		博士 (医学)		心臓血管外科学 講義・演習 心臓血管外科学 実験・実習 心臓血管外科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成23年04月)	5日
24	専	教授	オノノ タイカ 倉井 大輔		博士 (医学)		総合医療学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (令和03年06月)	5日
25	専	教授	オノノ ヒロシ 慶野 博		博士 (医学)		眼科学 課題研究 特別研究 医学研究講義 II	3通 1~4通 1通	8 8 0.1	1 1 1	杏林大学医学部 教授 (令和03年04月)	5日
26	専	教授	オノノ キヨ子 神崎 恒一		博士 (医学)		高齢医学 講義・演習 高齢医学 実験・実習 高齢医学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成22年10月)	5日
27	専	教授	オノノ タカシ 河野 隆志		博士 (医学)		循環器内科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (令和02年10月)	5日
28	専	教授	オノノ タカ子 後藤田 貴也		博士 (医学)		代謝生化学 講義・演習 代謝生化学 実験・実習 代謝生化学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年04月)	5日
29	専	教授	オノノ ヨウ子 小林 陽一		博士 (医学)		産科婦人科学 講義・演習 産科婦人科学 実験・実習 産科婦人科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成30年04月)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
30	専	教授	コカガタ ヨシノ 駒形 嘉紀		博士 (医学)		腎臓・リウマチ膠原病内科学 講義・演習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 実験・実習 腎臓・リウマチ膠原病内科学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成30年04月)	5日
31	専	教授	サイノウ コウイチロウ 齋藤 康一郎		博士 (医学)		耳鼻咽喉科学 講義・演習 耳鼻咽喉科学 実験・実習 耳鼻咽喉科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成27年04月)	5日
32	専	教授	サカタ コホミ 坂田 好美		博士 (医学)		循環器内科学 課題研究 特別研究	3通 1～4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成30年04月)	5日
33	専	教授	カキモト ヨシヒロ 阪本 良弘		博士 (医学)		消化器・一般外科学 課題研究 特別研究	3通 1～4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成30年04月)	5日
34	専	教授	サカイ ヒロユキ 櫻井 裕之		博士 (医学)		薬理学 講義・演習 薬理学 実験・実習 薬理学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成19年12月)	5日
35	専	教授	シバハラ ジュンジ 柴原 純二		博士 (医学)		病理学 講義・演習 病理学 実験・実習 病理学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成28年04月)	5日
36	専	教授	スズキ エイジ 須並 英二		博士 (医学)		消化器・一般外科学 課題研究 特別研究	3通 1～4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成31年01月)	5日
37	専	教授	ソジマ キョウコ 副島 京子		博士 (医学)		循環器内科学 講義・演習 循環器内科学 実験・実習 循環器内科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成30年04月)	5日
38	専	教授	タカヤマ ノブユキ 高山 信之		医学博士		血液内科学 講義・演習 血液内科学 実験・実習 血液内科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年10月)	5日
39	専	教授	タカシマ アキヒコ 多久嶋 亮彦		博士 (医学)		形成外科学 講義・演習 形成外科学 実験・実習 形成外科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成25年04月)	5日
40	専	教授	タカガキ シンジ 谷垣 伸治		博士 (医学)		産科・婦人科学 課題研究 特別研究	3通 1～4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成30年04月)	5日
41	専	教授	チハダ アツロウ 千葉 厚郎		博士 (医学)		脳神経内科学 講義・演習 脳神経内科学 実験・実習 脳神経内科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年10月)	5日
42	専	教授	テラノ ヤスオ 寺尾 安生		博士 (医学)		病態生理学 講義・演習 病態生理学 実験・実習 病態生理学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成28年04月)	5日
43	専	教授	トクメネ ジョウコ 徳額 譲芳		博士 (医学)		麻酔科学 講義・演習 麻酔科学 実験・実習 麻酔科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成29年04月)	5日
44	専	教授	トナリ アヤコ 戸成 綾子		博士 (医学)		放射線腫瘍学 課題研究 特別研究	3通 1～4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成31年04月)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
45	専	教授	カガシマ フミオ 長島 文夫		博士 (医学)		腫瘍内科学 講義・演習 腫瘍内科学 実験・実習 腫瘍内科学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成29年04月)	5日
46	専	教授	カガシマ ミキ 長瀬 美樹		博士 (医学)		肉眼解剖学 講義・演習 肉眼解剖学 実験・実習 肉眼解剖学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成29年04月)	5日
47	専	教授	カトミ ヒロフミ 中富 浩文		博士 (医学)		脳神経外科学 講義・演習 脳神経外科学 実験・実習 脳神経外科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (令和03年01月)	5日
48	専	教授	カネモト 永根 基雄		博士 (医学)		脳神経外科学 講義・演習 脳神経外科学 実験・実習 脳神経外科学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成24年04月)	5日
49	専	教授	ナカノ マサミ 成田 雅美		博士 (医学)		小児科学 講義・演習 小児科学 実験・実習 小児科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (令和03年01月)	5日
50	専	教授	ハカワ ヒロシ 長谷川 浩		博士 (医学)		総合医療学 講義・演習 総合医療学 実験・実習 総合医療学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成30年06月)	5日
51	専	教授	ハナノ トモコ 花輪 智子		博士 (薬学)		感染症学 課題研究 特別研究	3通 1～4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (令和02年04月)	5日
52	専	教授	ヒサマツ タカオ 久松 理一		博士 (医学)		消化器内科学 講義・演習 消化器内科学 実験・実習 消化器内科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成27年04月)	5日
53	専	教授	ヒラノ コウイチ 平野 浩一		博士 (医学)		呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習 呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習 特別研究	1前 2通 1～4通	4 4 8	1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年04月)	5日
54	専	教授	ヒラノ テルユキ 平野 照之		博士 (医学)		脳卒中医学 講義・演習 脳卒中医学 実験・実習 脳卒中医学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1～4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年09月)	5日
55	専	教授	フクハラ ヒロシ 福原 浩		博士 (医学)		泌尿器科学 講義・演習 泌尿器科学 課題研究 特別研究	1前 3通 1～4通	4 8 8	1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成30年04月)	5日
56	専	教授	フジワラ マサカ 藤原 正親		博士 (医学)		病理学 課題研究 特別研究	3通 1～4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (令和02年04月)	5日
57	専	教授	ホワイ ユカ 細井 温		博士 (医学)		心臓血管外科学 課題研究 特別研究	3通 1～4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成31年04月)	5日
58	専	教授	ホカネ ナオミ 細金 直文		博士 (医学)		整形外科 講義・演習 整形外科 実験・実習 整形外科 課題研究 特別研究 医学研究講義 II	1前 2通 3通 1～4通 1通	4 4 8 8 0.1	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (令和02年04月)	5日
59	専	教授	マツダ タカアキ 松田 剛明		博士 (医学)		救急医学 講義・演習 救急医学 実験・実習 救急医学 課題研究 総合医療学 実験・実習 総合医療学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 2通 3通 1～4通	2.1 4 8 4 8 8	1 1 1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成23年10月)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
60	専	教授	ミヅカ ショ 水川 良子		博士 (医学)		皮膚科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成31年04 月)	5日
61	専	教授	ミヅベ シノブ 三戸部 治郎		博士 (理学)		感染症学 講義・演習 感染症学 実験・実習 感染症学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (令和02年08月)	5日
62	専	教授	モリイ タケシ 森井 健司		博士 (医学)		整形外科 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成30年04月)	5日
63	専	教授	モリヤマ キヨシ 森山 潔		博士 (医学)		麻酔科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (令和03年04月)	5日
64	専	教授	ヤスダ カズキ 安田 和基		博士 (医学)		糖尿病・内分泌・代謝内科学 講義・演習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 実験・実習 糖尿病・内分泌・代謝内科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成31年04月)	5日
65	専	教授	ヤマグチ オシヒロ 山口 芳裕		博士 (医学)		救急医学 講義・演習 救急医学 実験・実習 救急医学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	1.9 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成18年04月)	5日
66	専	教授	ヤマダ シン 山田 深		博士 (医学)		リハビリテーション医学 講義・演習 リハビリテーション医学 実験・実習 リハビリテーション医学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (令和02年04月)	5日
67	専	教授	ヤマダ マサズ 山田 昌和		博士 (医学)		眼科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 教授 (平成25年04月)	5日
68	専	教授	ヨコヤマ ケイ 横山 健一		博士 (医学)		放射線医学 講義・演習 放射線医学 実験・実習 放射線医学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成29年04月)	5日
69	専	教授	ヨコシマ トモコ 萬 知子		医学博士		麻酔科学 講義・演習 麻酔科学 実験・実習 麻酔科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成22年04月)	5日
70	専	教授	ワタナベ コウイチロウ 渡邊 衡一郎		博士 (医学)		精神神経科学 講義・演習 精神神経科学 実験・実習 精神神経科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 教授 (平成26年04月)	5日
71	専	准教授	ウノ ヨシコ 海野 佳子		博士 (医学)		脳卒中医学 課題研究 特別研究 医学研究講義II	3通 1~4通 1通	8 8 0.1	1 1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和02年04月)	5日
72	専	准教授	エビハラ カエ 海老原 孝枝		博士 (医学)		高齢医学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成28年04月)	5日
73	専	准教授	エノムラ ヒデアキ 遠藤 英仁		博士 (医学)		心臓血管外科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成29年04月)	5日
74	専	准教授	オオタニ ムネヒサ 大谷 宗久		博士 (理学)		生体物理工学 課題研究 特別研究 医学研究講義I	3通 1~4通 1通	8 8 0.2	1 1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成29年04月)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
75	専	准教授	キシモ ミツオ 岸本 暢将		博士 (医学)		腎臓・リウマチ膠原病内科 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和01年09月)	5日
76	専	准教授	キタ ショウキ 北 善幸		博士 (医学)		眼科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和03年04月)	5日
77	専	准教授	キリュウ キョウカ 桐生 京佳		博士 (医学)		法医学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成27年09月)	5日
78	専	准教授	オウ アキヒコ 宮東 昭彦		博士 (理学)		顕微解剖学 講義・演習 顕微解剖学 実験・実習 顕微解剖学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	1前 2通 3通 1~4通 1通	4 4 8 8 0.2	1 1 1 1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成27年04月)	5日
79	専	准教授	コハラ マサミ 小寺 正純		博士 (医学)		整形外科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和02年04月)	5日
80	専	准教授	コウ カジ 厚東 隆志		博士 (医学)		眼科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和03年04月)	5日
81	専	准教授	コゴウ カン 金剛寺 謙		博士 (医学)		循環器内科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和03年04月)	5日
82	専	准教授	サトウ リヒデ 佐藤 範英		博士 (医学)		血液内科学 講義・演習 血液内科学 実験・実習 血液内科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成31年04月)	5日
83	専	准教授	サヤ カジ 皿谷 健		博士 (医学)		呼吸器内科学 課題研究 特別研究 医学研究講義 I	3通 1~4通 1通	8 8 0.1	1 1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成31年04月)	5日
84	専	准教授	スズキ ユカ 鈴木 裕		博士 (医学)		消化器・一般外科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成31年04月)	5日
85	専	准教授	スヤマ ジュンペイ 須山 淳平		博士 (医学)		放射線医学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和01年07月)	5日
86	専	准教授	セキ ヒロユキ 関 博志		博士 (医学)		麻酔科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和02年04月)	5日
87	専	准教授	タカハラ シロ 高原 哲士		博士 (理学)		生体物理工学 講義・演習 生体物理工学 実験・実習 生体物理工学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成29年04月)	5日
88	専	准教授	タシマ アツシ 田嶋 敦		博士 (医学)		産科婦人科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和02年07月)	5日
89	専	准教授	タナ リョウタ 田中 良太		博士 (医学)		呼吸器・甲状腺外科学 講義・演習 呼吸器・甲状腺外科学 実験・実習 呼吸器・甲状腺外科学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成31年04月)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
90	専	准教授	タホ ミツロ 多武保 光宏		博士 (医学)		泌尿器科学 実験・実習 特別研究	2通 1~4通	4 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和02年04月)	5日
91	専	准教授	トナカ ケンゴ 徳永 健吾		博士 (医学)		総合医療学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成29年07月)	5日
92	専	准教授	ナカザリ ハルマサ 中澤 春政		博士 (医学)		麻酔科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和02年04月)	5日
93	専	准教授	ノグチ アキオ 野口 明男		博士 (医学)		脳神経外科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和02年04月)	5日
94	専	准教授	ホキ アキラ 保崎 明		博士 (医学)		小児科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成30年04月)	5日
95	専	准教授	マダマ マサツグ 増田 正次		博士 (医学)		耳鼻咽喉科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和02年04月)	5日
96	専	准教授	マツウラ ミノル 松浦 稔		博士 (医学)		消化器内科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成31年04月)	5日
97	専	准教授	モリタ トオル 森定 徹		博士 (医学)		産科婦人科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (令和03年04月)	5日
98	専	准教授	ヤシ ジュンイチ 八木 淳一		博士 (歯学)		統合生理学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成25年04月)	5日
99	専	准教授	ヨイ ヒデノリ 横井 秀格		博士 (医学)		耳鼻咽喉科学 課題研究 特別研究 医学研究講義Ⅱ	3通 1~4通 1通	8 8 0.1	1 1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成23年04月)	5日
100	専	准教授	ヨシタ マサオ 吉田 正雄		博士 (医学)		衛生学・公衆衛生学 課題研究 特別研究 医学研究講義Ⅱ	3通 1~4通 1通	8 8 0.1	1 1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成29年04月)	5日
101	専	准教授	ヨシノ ヒロシ 吉野 浩		博士 (医学)		小児科学 課題研究 特別研究	3通 1~4通	8 8	1 1	杏林大学医学部 准教授 (平成22年04月)	5日
102	専	講師	アヤキ キョウタ 青柳 共太		博士 (学術)		特別研究 医学研究講義Ⅰ	1~4通 1通	8 0.1	1 1	杏林大学医学部 講師 (平成28年04月)	5日
103	専	講師	アサカ ソウタ 麻賀 創太		博士 (医学)		特別研究 医学研究講義Ⅱ	1~4通 1通	8 0.1	1 1	杏林大学医学部 講師 (平成30年04月)	5日
104	専	講師	イケダ テツヤ 池田 哲也		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成26年04月)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
105	専	講師	イシダ トモ 石田 友香		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日
106	専	講師	ウエノ ヒロシ 上野 仁之		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成30年04月)	5日
107	専	講師	オオイ アツロウ 大石 篤郎		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和02年09月)	5日
108	専	講師	オノヅリ シロウ 小野澤 志郎		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和02年04月)	5日
109	専	講師	ウメノ ヤスヒコ 海田 賢彦		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和02年04月)	5日
110	専	講師	カタケイ ケイコ 片岡 恵子		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日
111	専	講師	カタセ シチロウ 片瀬 七朗		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成29年04月)	5日
112	専	講師	カサキ ケンタロウ 加藤 健太郎		博士 (理学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成26年04月)	5日
113	専	講師	カワカミ カミヤ 川上 貴久		博士 (医学)		特別研究 医学研究講義Ⅱ	1~4通 1通	8 0.1	1 1	杏林大学医学部 講師 (令和02年04月)	5日
114	専	講師	カワノ ヒロユキ 河野 浩之		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和02年04月)	5日
115	専	講師	ゴウダ アユミ 合田 あゆみ		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成31年04月)	5日
116	専	講師	キシキ トモカズ 吉敷 智和		博士 (医学)		特別研究 医学研究講義Ⅱ	1~4通 1通	8 0.1	1 1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日
117	専	講師	クラタ マイコ 倉田 麻衣子		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日
118	専	講師	コトノウ タカ 近藤 琢磨		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成27年04月)	5日
119	専	講師	サクライ タカヤ 櫻井 拓也		博士 (理学)		特別研究 医学研究講義Ⅰ	1~4通 1通	8 0.1	1 1	杏林大学医学部 講師 (平成25年04月)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
120	専	講師	サライ ヒトシ 櫻井 準		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日
121	専	講師	シバキ サトシ 渋谷 賢		博士 (教育学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成29年04月)	5日
122	専	講師	シモヤマダ ヒロアキ 下山田 博明		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成26年04月)	5日
123	専	講師	スガ ケイ 須賀 圭		博士 (医学)		特別研究 医学研究講義Ⅱ	1~4通 1通	8 0.1	1 1	杏林大学医学部 講師 (平成23年04月)	5日
124	専	講師	スズキ ムミ 鈴木 由美		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成30年01月)	5日
125	専	講師	タカシ サトシ 高篠 智		博士 (保健学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成22年04月)	5日
126	専	講師	タカハ マサヒト 高橋 雅人		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和02年04月)	5日
127	専	講師	タカハ リョウ 高橋 良		博士 (保健学)		医学研究講義Ⅰ	1通	0.1	1	杏林大学医学部 講師 (平成27年04月)	5日
128	専	講師	タケウチ ヒロヒサ 竹内 弘久		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日
129	専	講師	タシロ ショウイチ 田代 祥一		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和02年04月)	5日
130	専	講師	タナ エリコ 田中 絵里子		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日
131	専	講師	タハラ ヨシカズ 田原 義和		博士 (理学)		代謝生化学 講義・演習 代謝生化学 実験・実習 代謝生化学 課題研究 特別研究	1前 2通 3通 1~4通	4 4 8 8	1 1 1 1	杏林大学医学部 講師 (平成12年04月)	5日
132	専	講師	ツボイ タシ 坪井 貴嗣		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成29年04月)	5日
133	専	講師	トキ マサオ 土岐 真朗		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日
134	専	講師	ナカシマ ツヨシ 中島 剛		博士 (学術)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
135	専	講師	カガハ キヨカ 長濱 清隆		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成29年04月)	5日
136	専	講師	ハシ アキマ 林 玲匡		博士 (医学)		特別研究 医学研究講義 I	1~4通 1通	8 0.1	1 1	杏林大学医学部 講師 (令和02年04月)	5日
137	専	講師	ヒライ カズキ 平井 和之		博士 (学術)		特別研究 医学研究講義 II	1~4通 1通	8 0.1	1 1	杏林大学医学部 講師 (平成23年04月)	5日
138	専	講師	ヒロタ カズナリ 廣田 和成		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成28年04月)	5日
139	専	講師	フクノ カズヒト 福岡 利仁		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和02年04月)	5日
140	専	講師	フクハラ ダイスケ 福原 大介		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日
141	専	講師	ホソイ ケンイチロウ 細井 健一郎		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成30年07月)	5日
142	専	講師	マツイ セイイチロウ 松尾 征一郎		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日
143	専	講師	マツキ ナホ 松木 奈央子		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和02年04月)	5日
144	専	講師	マツモト ヒロノリ 松本 浩範		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成23年04月)	5日
145	専	講師	マルヤマ ケイスケ 丸山 啓介		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成29年04月)	5日
146	専	講師	ミヤ タツヤ 三嶋 竜弥		博士 (理学)		特別研究 医学研究講義 I	1~4通 1通	8 0.1	1 1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日
147	専	講師	ミザシ サト 峯岸 祥人		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和02年04月)	5日
148	専	講師	ミヤギ タケ 宮崎 泰		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成26年04月)	5日
149	専	講師	モモイ マイ 百村 麻衣		博士 (医学)		特別研究	1~4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (令和03年04月)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
150	専	講師	ヤマモト サチコ 山本 幸子		博士 (工学)		特別研究	1～4通	8	1	杏林大学医学部 講師 (平成28年04月)	5日
151	専	助教	ウチホリ アユミ 内堀 歩		博士 (医学)		医学研究講義Ⅱ	1通	0.1	1	杏林大学医学部 助教 (令和02年04月)	5日
152	専	助教	コフジ タケミ 小藤 剛史		博士 (理学)		医学研究講義Ⅰ	1通	0.1	1	杏林大学医学部 助教 (平成15年04月)	5日
153	専	助教	スエヒロ ジョウイチ 末弘 淳一		博士 (工学)		医学研究講義Ⅱ	1通	0.1	1	杏林大学医学部 助教 (平成25年04月)	5日
154	専	助教	テラガ サトミ 寺田 さとみ		博士 (医学)		医学研究講義Ⅱ	1通	0.1	1	杏林大学医学部 助教 (平成29年04月)	5日
155	専	助教	ミヨシ ジュン 三好 潤		博士 (医学)		医学研究講義Ⅱ	1通	0.1	1	杏林大学医学部 助教 (平成31年04月)	5日
156	専	助教	ヤマモト タカシ 山本 隆史		博士 (医学)		医学研究講義Ⅱ	1通	0.1	1	杏林大学医学部 助教 (平成26年05月)	5日
157	兼任	准教授	タカキ ハルヨシ 高木 晴良		学士 (保健学)		医学研究講義Ⅰ	1通	0.4	1	東京医療保健大 学 東ヶ丘・立川看 護学部准教授 (平成26年4月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	5人	40人	25人	人	人	70人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	8人	23人	人	人	人	31人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	1人	28人	19人	1人	人	人	49人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	4人	2人	人	人	人	6人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1人	45人	84人	26人	人	人	156人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	1人	45人	84人	26人	人	人	156人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。